

KANAGAWA NO KOUKOGAKU

Vol.20

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Paleolithic Studies : Paleolithic Artifacts in Kanagawa Prefecture Distribution (8) Layer L3-B5	1
Project Team for Jōmon Period Studies : Change of the Jōmon Culture in Kanagawa Prefecture (Ⅷ) : An Example in the first part of Late Period. An Aspect of the Horinouchi-Type Pottery Period, Part5	13
Project Team Yayoi Period Studies : The Corpus of Yayoi pottery-Coffin in Kanagawa Prefecture (4)	23
Project Team for Kofun Period Studies : Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (12) : A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note"	29
Project Team for Nara-Heian Period Studies : Hardware in the Nara and Heian Periods in Kanagawa Prefecture : The Corpus of iron manufacturing artifacts (5)	41
Project Team for Early Modern Age Studies : The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (11)	67

March, 2015

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan

研究紀要
20

かながわの考古学

二〇一五

公益財団法人
かながわ考古学財団

かながわの考古学

2015.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

かながわの考古学

2015.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

当財団の前身である財団法人かながわ考古学財団は、1993(平成5)年10月21日に神奈川県によって設立されました。

この研究紀要は、1990(平成2)年11月に神奈川県立埋蔵文化財センターによって刊行された『かながわの考古学』第1集から受け継がれてきたものです。

その『かながわの考古学』は、1995(平成7)年11月刊行の第5号で終刊となりましたが、1996(平成8)年3月には神奈川県立埋蔵文化財センターと財団法人かながわ考古学財団とによって新たに研究紀要1『かながわの考古学』を刊行しました。二つの機関による刊行は1999(平成11)年3月の研究紀要4まで続き、研究紀要5からは財団法人かながわ考古学財団単独の刊行物となりました。

さらに当財団が財団法人から公益財団法人に移行し、2012(平成24)年の研究紀要17からは公益財団法人かながわ考古学財団として刊行を続けています。

昨年度は財団設立20年を無事に迎えました。引き続き『かながわの考古学』は神奈川県内の考古学に関する資料を各時代の研究プロジェクトがさまざまな形で提供しております。皆さまのご高評、ご批判をお待ちしております。

2015(平成27)年3月

公益財団法人かながわ考古学財団

目 次

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8) —L3層～B5層— 旧石器時代研究プロジェクトチーム	1
神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅶ —後期前葉期 堀之内式土器文化期の様相 その6— 縄文時代研究プロジェクトチーム	13
神奈川県内出土の弥生時代土器箱(4) —弥生時代中期後葉から古墳時代前期(その3)— 弥生時代研究プロジェクトチーム	23
考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡(12) —通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介— 古墳時代研究プロジェクトチーム	29
神奈川県における古代の鉄(5) —生産関連遺構・遺物の集成— 奈良・平安時代研究プロジェクトチーム	41
近世民家の集成(11) 近世研究プロジェクトチーム	67

例 言

1. 本書は、公益財団法人かながわ考古学財団の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに共同研究を行った結果を掲載するものである。
2. 各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである。
(五十音順・◎はプロジェクトリーダー、○はサブリーダーを示す)
 - ・旧石器時代研究プロジェクトチーム
井関文明・大塚健一・栗原伸好・鈴木次郎・畠中俊明・◎三瓶裕司・○脇 幸生
 - ・縄文時代研究プロジェクトチーム
阿部友寿・天野賢一・◎井辺一徳・○岡 稔・小川岳人・村松 篤
 - ・弥生時代研究プロジェクトチーム
飯塚美保・◎池田 治・○新開基史・戸羽康一・渡辺 外
 - ・古墳時代研究プロジェクトチーム
◎植山英史・○柏木善治・岸本泰緒子・長澤保崇・長友 信・新山保和・吉澤 健
 - ・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム
◎加藤久美・川嶋実佳子・○相良英樹・諏訪間直子・高橋 香・中田 英・西田真由子・宮井 香
 - ・中世研究プロジェクトチーム
菊川 泉・菊川英政・◎松葉 崇・○宮坂淳一・山口正紀
 - ・近世研究プロジェクトチーム
◎木村吉行・南出俊彦
3. 中世研究プロジェクトチームと近世研究プロジェクトチームは合同で研究を行い、いずれかの研究成果を報告するものとし、今回は近世を掲載することとした。

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8)

— L3層～B5層 —

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

当プロジェクトでは、2007年度から、「神奈川県における旧石器時代の遺物分布」として資料集成を実施している。これまでの作業により縄文時代草創期からB2層までの出土石器群を集成し、それぞれの層ごとに集成結果から見出される特徴の抽出を行った。

今年度は「神奈川県における旧石器時代の遺物分布」の集成作業最後の層準、L3層からB5層で発見されている石器集中98ヶ所について集成を行なった。

以下、集成した文化層の一覧を掲載するとともに、検出された遺物分布の様相について「器種組成」・「石材組成」・「遺構分布」の視点から、各層の傾向を抽出し報告する。

(三瓶)

a) 石器集中の器種組成

現在、神奈川県内最古の石器群は、綾瀬市吉岡遺跡群D区のB5層から発見された石器群である。石器集中地点は、計6ヶ所確認されているが、出土点数は最も多い集中で58点を数えるものの、他の5つの集中地点は7～9点と極めて小規模な遺物分布を呈する。しかし、ナイフ状石器や台形様石器といったこの時期に特徴的に出土する2つの器種は、両者とも出土する集中地点は3ヶ所、ナイフ状石器のみが出土するのは1ヶ所、台形様石器のみが出土するのは2ヶ所となっており、ほぼどちらか一方の器種は必ず各集中地点からの出土が認められる。また、前者と同様にこの時期を代表する石器の1つである打製石斧は、計7点と最も出土点数の少ない集中地点から1点のみ出土している。この他、削器・彫器・剥片類、石核も出土しているが、敲石などの石器製作具とされる器種の出土は認められない。

L5層段階になると、栗原中丸・大和配水池の2遺跡の存在が認められる。前者は10点と小規模な石器群であるが、後者は79点と点数的には小規模ながらややまとまった点数が認められる。大和配水池からは、やはりこの時期の器種組成として特徴的な局部磨製石斧が5点出土しており、これ以外にも打製石斧が2点と石斧が計7点出土している。また、ナイフ形石器やスクレイパーも新たに確認することが出来る。また、敲石・磨石・台石とされる礫石器の出土も確認することが出来る。

B4層段階になると、遺跡数は8遺跡14文化層に増え、これまで県央部付近でしか発見されていなかった遺跡が、相模原市緑区城山の津久井城跡馬込地区や藤沢市根下遺跡、また三浦市長浜ノ上遺跡など、県内広域に分布が認められるようになる。集中地点ごとの石器組成は本層の下部段階では、19点以下と小規模であるが吉岡D・根下・代官山では、ほとんどの集中地点に石核が安定的に組成されるようになる。中～上部段階になると、県央部では50～200点前後の比較的点数がまとまった集中地点と3～30点程度の小規模なものに区分出来るようになる。この中で、吉岡遺跡群C区では、計15ヶ所の集中地点が検出されているが、楔形石器が顕著に組成されるようになる。これに対し、県北の津久井城跡馬込地区では、7ヶ所の集中地点の遺物の出土点数がいずれも65～450点を数えるものの、楔形石器は1点しか出土していない。逆に本遺跡からは局

b) 石器集中の石材組成

今回集成した19遺跡98集中から、石材組成について詳細な報告がなされている12遺跡75集中についてまとめる。本来ならば遺物集中ごとに石材組成の傾向を検討すべきだが、資料数が少ないということもあり大枠で層相ごとの傾向抽出にとどめることとする。

傾向を抽出する前提として、石器石材についてはこれまでの研究・調査史において、石材名称の変更や、同系統の石材を細分化した上で報告している事例が混在している。そこで石材集計するにあたり、同系統と考えられる石材については以下の通り大枠でまとめて検討することとする。凝灰岩・硬質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩・中粒凝灰岩・粗粒凝灰岩・流紋岩質凝灰岩を「凝灰岩系」、ガラス質黒色安山岩・玄武岩・富士玄武岩・玻璃質玄武岩・安山岩・トロトロ安山岩を「安山岩・玄武岩系」、頁岩・珪質頁岩・凝灰質頁岩を「頁岩系」、輝緑岩・変質輝緑岩を「輝緑岩系」、砂岩・硬質砂岩・粗粒礫岩を「砂・礫岩系」、珪岩・泥岩質珪岩を「珪岩系」。この区分は器種組成を考える際にはいささか乱暴ではあると思われるが、石材組成の傾向を捉えるためにはある程度有効かと考える。以下、各層での傾向を述べる。

L3層

本層には、月見野上野第1地点(81)IXの集中1、吉岡C区(102)L3の集中1、大和配水池(318)Xの集中1・2の計3遺跡4集中が該当する。

4ヶ所の遺物集中で合わせて389点の遺物が出土しており、黒曜石が377点(96.9%)とほぼ主体的に構成しており、上層であるB2層下部の様相と同様な傾向を示す(旧石器研究プロジェクト2014『研究紀要19』pp.5)。4ヶ所の石器集中は相模野台地に所在しており、地域偏差を見ることは出来ない。

B3層

本層には、栗原中丸(70)Ⅷ、柏ヶ谷長ツサ(74)XⅡの集中2、月見野上野第1地点(81)X、台山(84)Ⅳの集中1～4、寺尾(96)Ⅵの集中1～5、吉岡C区(102)B3LⅢの集中1～14、代官山(109)Ⅸの集中1、根下(283)Ⅱの集中1、矢指谷B地区(313)、大和配水池(318)Ⅸの集中1・2、打木原(347)Ⅴbの集中5～8、津久井城跡馬込(368)6の計11遺跡32集中が該当する。

B3層全体では2265点の遺物が出土しており、1866点(82.4%)が黒曜石、次いで181点(8.0%)の凝灰岩系石材で構成される。これをさらに同層相の上部・中部・下部(各層をまたぐ出土例は除く)で見えてみると、以下の通りとなり、さらに地域的にもある程度の傾向が認められる。

上部：寺尾、根下の2遺跡6集中が検出され、1878点。うち黒曜石が1819点(96.9%)と卓越する。

両遺跡はともに相模野台地に所在している上、出土遺物の点数はほぼ寺尾資料で構成されている。

中部：栗原中丸、台山、大和配水池の3遺跡7集中が検出され、29点の遺物が出土している。石器石材としては黒曜石が25点(86.2%)と卓越し、B3層上部同様L3層の様相と類似する。3遺跡はすべて相模野台地に所在しており、地域差を見ることは出来ない。

下部：柏ヶ谷長ツサ、吉岡C区、代官山、打木原の4遺跡20集中が検出されており295点が出土している。使用されている石材の数順に列記すると、凝灰岩系が150点(50.8%)、安山岩・玄武岩系が47点(15.9%)、ホルンフェルスが40点(13.6%)、頁岩系28点(9.5%)と続く。

さらに詳細を見ていくと相模野台地では、安山岩・玄武岩系46点(34.6%)、凝灰岩系が45点(33.8%)と箱根火山系や丹沢山塊の石材が上位を占めていることに対し、三浦半島に所在する打木原(347)では凝灰岩系が105点(64.8%)、ホルンフェルスが37点(22.8%)と丹沢山塊の石材に秩父山地から多摩川にかけ

て分布する石材が出現する。

L4層

上和田城山（4次）（90）Ⅲに出土例が報告されているが、抽出条件に見合った事例は見られない。

B4層

本層には、柏ヶ谷長ヲサ（74）XⅢの集中1、吉岡C区（102）B4Uの集中1・2、同B4Mの集中1～11、吉岡D区（103）B4Lの集中1～4、代官山（109）Xの集中1A、大和配水池（318）XⅡ、同XⅢの集中1、津久井城跡馬込（368）6の集中A～Gの計5遺跡31集中が該当する。

B4層全体では1814点の遺物が出土している。928点（51.2%）が凝灰岩系石材、次いで380点（20.9%）の安山岩・玄武岩系石材、179点（9.9%）の頁岩系石材、129点（7.1%）のホルンフェルスと続く。

B3層同様、本層準の上部・中部・下部（各層をまたぐ出土例は除く）で細分した。

上部：柏ヶ谷長ヲサ、吉岡C区、大和配水池の3遺跡4集中が検出しており、出土遺物の合計は24点である。分母が少ないながらも石器石材を見てみると、凝灰岩系石材が15点（62.5%）、安山岩・玄武岩系石材が4点（16.7%）、ホルンフェルスが3点（12.5%）と続き、石材利用はB3層下部の様相と共通する。

地域的な差異等については3遺跡とも相模野台地に所在で、各遺跡間でも同様な利用頻度となっている。

中部：吉岡C区のみ1遺跡15集中が検出され、446点の遺物が出土している。石器石材としては安山岩・玄武岩系石材が350点（78.5%）と主体を占め、チャートが42点（9.4%）と急な使用率の伸びが認められる。数字だけをみると上層との石材利用環境に変化が認められる。この状況が一遺跡の様相なのかどうかを検討するためには、今後の資料の増大が望まれる。

下部：吉岡D区、代官山の2遺跡5集中が検出され、合計56点が出土している。石器石材としては黒曜石が44点（78.6%）と主体を占め、凝灰岩系が6点（10.7%）と続く。また、後にも関連して述べるが水晶が2点（3.6%）出していることを特筆しておきたい。

本層においても上層との間に石材利用の変化が見出せられる可能性を秘めている。

最後にB4層中の石材利用の特徴として水晶利用を挙げておきたい。今回集成作業によって抽出された数は9点と数の上では少ない。しかしながらL3層からB5層までの大きな時間幅があるものの、9点すべてが本層から出土している。本層の特色となりうるのか、今後の出土事例の増大に期待する。

L5層

本層には、栗原中丸（70）Ⅸの集中1、大和配水池（318）XⅣの集中1の2遺跡2集中が該当する。

L5層全体では89点の遺物が出土しており、34点（38.2%）が黒曜石、次いで30点（33.7%）の凝灰岩系石材、17点（19.1%）のチャートと続く。大和配水池では黒曜石と凝灰岩が主体を占めており、B4層下部との共通点が認められる。

B5層

本層は、吉岡D区（103）B5の集中2～6が該当する。

B5層全体で40点の遺物が出土しており、33点（82.5%）がチャートと他の石材を圧倒する。

小括

石材利用の変遷を大まかに述べると、B2層上部では、黒曜石が3割程度利用され、補助として凝灰岩系や安山岩・玄武岩系の石材を利用している。B2層下部では黒曜石の利用が主体となり、他の石材利用が非常に低い状態となる。その傾向はB3層中部まで続く。B3層下部からB4層中部にかけては、黒曜石の利用はほ

第2表 各層の石材組成

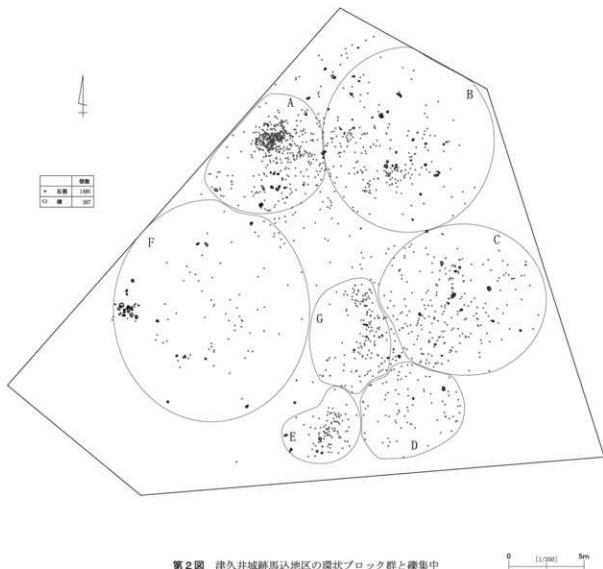
	黒曜石	凝灰岩系	安山岩系・玄武岩系	頁岩系	チャート	ホルンフェルス	輝緑岩系	砂・礫岩系	粘板岩	珪岩系	水晶	斑レイ岩	石英	閃緑岩系	流紋岩	アブライト	珪瑁	碧玉	石英斑岩	合計 上段 点率 下段 %
L3層全体 (点数)	377	4	2	2					4											389
L3層全体 (%)	96.9%	1.0%	0.5%	0.5%					1.0%											100%
L3層上部出土 (点数)	4								4											8
L3層上部出土 (%)		50.0%							50.0%											100%
L3層下部出土 (点数)	367		1																	368
L3層下部出土 (%)	100.0%																			100%
L3層中心に層を跨ぐ出土数	10		1	2																13
B3層全体 (点数)	1866	181	55	73	17	40	3	3	7	9		1	3	2	1	2		1	1	2265
B3層全体 (%)	82.4%	8.0%	2.4%	3.2%	0.8%	1.8%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%		0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%		0.0%	0.0%	100%
B3層上部出土 (点数)	1819	2	2	44						9						2				1878
B3層上部出土 (%)	96.9%	0.1%	0.1%	2.3%						0.5%						0.1%				100%
B3層中部出土 (点数)	25	1			2				1											29
B3層中部出土 (%)	86.2%	3.4%			6.9%				3.4%											100%
B3層下部出土 (点数)	10	150	47	28	12	40		2				1	1	1	1			1	1	295
B3層下部出土 (%)	3.4%	50.8%	15.9%	9.5%	4.1%	13.6%		0.7%				0.3%	0.3%	0.3%	0.3%			0.3%	0.3%	100%
B3層中心に層を跨ぐ出土数	12	28	6	1	3		3	1	6					2	1					63
B3層下部相模野台地出土 (点数)	9	45	46	14	12	3		1				1	1	1						133
B3層下部相模野台地出土 (%)	6.8%	33.8%	34.6%	10.5%	9.0%	2.3%		0.8%				0.8%	0.8%	0.8%						100%
B3層下部三浦半島出土 (点数)	1	105	1	14		37		1							1			1	1	162
B3層下部三浦半島出土 (%)	0.6%	64.8%	0.6%	8.6%		22.8%		0.6%							0.6%			0.6%	0.6%	100%
B4層全体出土 (点数)	91	928	380	179	69	129	14	4	1	2	9	4	1	1			2			1814
B4層全体出土 (%)	5.0%	51.2%	20.9%	9.9%	3.8%	7.1%	0.8%	0.2%	0.1%	0.1%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%			0.1%			100%
B4層上部出土 (点数)	2	15	4			3														24
B4層上部出土 (%)	8.3%	62.5%	16.7%			12.5%														100%
B4層中部出土 (点数)		16	350	28	42	3	7													446
B4層中部出土 (%)		3.6%	78.5%	6.3%	9.4%	0.7%	1.6%													100%
B4層下部出土 (点数)	44	6	2							2	2									56
B4層下部出土 (%)	78.6%	10.7%	3.6%							3.6%	3.6%									100%
B4層中心に層を跨ぐ出土数	45	891	24	151	27	123	7	4	1		7	4	1	1			2			1288
L5層全体出土 (点数)	34	30		4	17	2			2											89
L5層全体出土 (%)	38.2%	33.7%		4.5%	19.1%	2.2%			2.2%											100%
B5層全体出土 (点数)	1	3		2	33										1					40
B5層全体出土 (%)	2.5%	7.5%		5.0%	82.5%										2.5%					100%
合計 (点数)	2369	1146	500	262	210	171	17	16	14	11	9	5	4	3	2	2	2	1	1	4745
合計 (%)	49.9%	24.2%	10.5%	5.5%	4.4%	3.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

とんど認められず、在地や近在の石材である凝灰岩系石材や安山岩・玄武岩系が主体となっている。その際、地域によってはより在地に近い石材を利用する傾向が認められる。B4層下部では黒曜石が使われ、上下層で見られる在地・近在石材の利用度が低い。L5層では黒曜石とともに凝灰岩系の石材が利用されている。B5層ではチャートが主要石材として存在する。(三瓶)

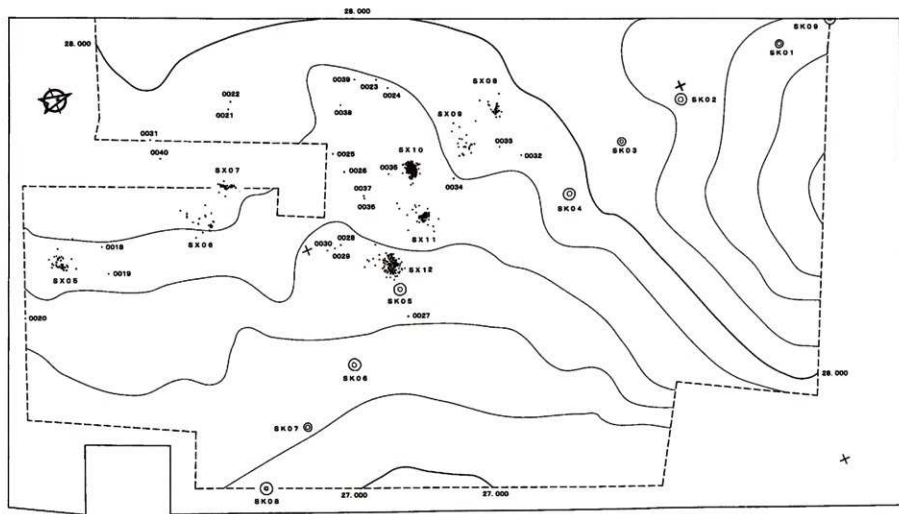
c) 石器集中と遺構分布

L3層以下の遺跡数は19を数える。このうち遺構が確認された遺跡は8遺跡である。遺構は、礫群、配石、炭化物集中、土坑である。

礫群は、大和配水池(318)第XIV文化層の出土例が県内最古となる。L3層まで数量は少ないが、断続的に認められ、殆どの礫群は石器集中と重複関係が認められる。配石も大和配水池(318)第XIV文化層の事例が最古となる。配石も石器集中と重複関係を有する。配石は出土事例が少なく、大和配水池(318)と柏ヶ谷長ツサ(74)の2遺跡のみである。ただ、津久井城跡馬込地区(368)第6文化層では、B4層中から環状ブロック群に伴い、礫集中が確認されている。詳しい報告はないが、扁平な礫や敲打痕のある礫がみられ、礫に混



第2図 津久井城跡馬込地区の環状ブロック群と礫集中



第3図 打木原遺跡 (横浜賀市緑政部 横浜賀市教育委員会 2002 『打木原遺跡』)

じって叩き石や台石などが存在する。また、出土した礫に明確な被熱の痕跡が認められるものはほとんどなかった。そのため、これらの礫集中は礫群というより、石器製作に関連した配石遺構の可能性が高いものと思われる。

炭化物集中は吉岡D区(103)で確認されている。炭化物集中地点が2箇所確認されており、炭化物集中地点1は石器集中と重複する。土坑は、打木原(347)第Vb層で確認されている。

打木原(347)では石器集中が長井台地Vb層上面で僅かながら谷地形を形成している部分から出土している。土坑はその西側に位置する。土坑は台地を下るように緩い弧状を呈するように配置されている。SK04とSK05との間隔がやや離れているが、その他はほぼ等間隔である。

土坑造営時期と石器集中形成時期には当然時間差はあると考えられるが、土坑が作られるラインが何らかの境界となっていた可能性は考えられる。(畠中・脇)

おわりに

2007年度から実施してきた「神奈川県における旧石器時代の遺物分布」と題した資料集成は、ようやく現在確認されている最古の文化層へ到達した。ここまで検討項目の視座として「器種組成」・「石材組成」・「石器集中と遺構分布」を選択し活動してきたが、文化層によっては特筆点の抽出をするために少しずつアプローチの手法をかなる必要があり、毎年同じ形で検討を行なったわけではない。特に今年度は資料数の少なさも手伝い、「遺物分布」というキーワードに対して十分な検討が進められたとは言えない。

今後の課題は、本集成作業を行った8年の間に新たに出土した新知見を補充し、あらためて検証を行うこと。富士黒色土層下部からB5層までの資料を通観し検討を加えること。各時期において小地域単位で抽出される石器群の差異の検討など枚挙に暇がない。

これまでの集成・検討作業をもとにあらためて各時期の遺物分布を見つめ直すことが必要であろう。(三瓶)

引用・参考文献

- 55 金山喜昭・土井永好・武藤康弘 1984『中村遺跡 先土器時代編』相模原市橋本遺跡調査会
- 70 大上周三・鈴木次郎 1984『栗原中丸遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告3 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 74 下角圭司・服部隆博 1983『海老名市柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査団
- 81 相田 薫 1986『大和市文化財調査報告書第21集 月見野遺跡群上野遺跡第1地点』大和市教育委員会
- 84 麻生順司 1981『大和市文化財調査報告書第15集 台山遺跡発掘調査報告書』大和市教育委員会
- 90 小池 聡・小塚知之 1994『上和田城山遺跡 第4次調査』大和市上和田城山遺跡調査会
- 96 白石浩之・鈴木次郎 1980『寺尾遺跡』神奈川県立埋蔵文化財調査報告18 神奈川県教育委員会
- 100・101・104 砂田佳弘 1996『吉岡遺跡群Ⅰ』かながわ考古学財団報告6 財団法人かながわ考古学財団
- 102・103 白石浩之 1996『吉岡遺跡群Ⅱ』かながわ考古学財団報告7 財団法人かながわ考古学財団
- 109 砂田佳弘 1986『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告11 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 157 松井 泉 1990『古淵B遺跡』相模原市古淵B遺跡発掘調査団
- 238 麻生順司 1987『藤沢市根下遺跡発掘調査報告書』藤沢市根下遺跡発掘調査団
- 313 乾 哲也 1985『矢指谷遺跡発掘調査報告』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 316 佐藤明夫 1999『長井台地遺跡群長浜ノ上遺跡』横須賀市教育委員会
- 318 麻生順司 2002『上草柳遺跡群大和配木池内遺跡』大和市No.199遺跡発掘調査団
- 347 佐藤明夫 2002『打木原遺跡』横須賀市緑政部 横須賀市教育委員会
- 368 畠中俊明・森谷正信他 2010『津久井城跡馬込地区』かながわ考古学財団報告249 公益財団法人かながわ考古学財団
- 旧石器時代研究プロジェクトチーム 2014『神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その7)』『かながわの考古学』研究紀要19 公益財団法人かながわ考古学財団

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8)

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土 層位	文化 層	調査 面積 (㎡)	各 集 中 No.	分布 範囲 (m)	石 器 点 数	分布 密度	分布 状態	器種組成 (※1)	石材組成 (※2)	備 考 (共伴遺構など)
70	栗原中央	B3M	Ⅷ	12000	-	-	7	-	-	ナ2、F5	黒3、チ2、細凝 1、粘1	
70	栗原中央	L5U	Ⅸ	12000	1	-	10	-	-	局所1、削1、F6、 台1、磨1	細凝3、チ5、粘 2	
74	柏ヶ谷長ツサ	B3L	Ⅸ	5500	1	14×6	14	0.17	散漫	削1、UF1、最1、 F10、原1	ガ黒安、硬細凝、 安、輝	礫群2、配石2
74	柏ヶ谷長ツサ	B3L	Ⅸ	5500	2	8×8	30	0.47	散漫	ナ4、削1、RF1、最2、 F17、砕4、核1	黒、ガ黒安、硬 細凝	礫群4、配石1
74	柏ヶ谷長ツサ	B4U	XⅢ	5500	1	7×7	17	0.35	散漫	ナ1、核1、F13、核 2	黒4、硬細凝5、 中凝6、ホ2	礫群1、配石1
81	月見野上野 第1地点	L3U	Ⅸ	12000	1	4.0×4.0	29	1.81	散漫	RF1、UF1、F25	凝4、粘4	ブロック外にF2
81	月見野上野 第1地点	B3	X	12000	-	-	5			UF1、F3、核1	凝1、粘1、チ1	
84	台山	B3M	Ⅳ	3000	1	2.1×1.2	12	4.76		孫・削1、UF1、F7、 核2、最1	安、ホ	
84	台山	B3M	Ⅳ	3000	2	4.1×2.6	25	3.7		削1、孫・削1、 RF1、UF1、F19、 礫器1、その他1	凝、安、玄、ホ、 その他	
84	台山	B3M	Ⅳ	3000	3	3.3×0.9	6	2.02		F6	玄	
84	台山	B3M	Ⅳ	3000	4	3.1×2.3	14	1.96		F13、その他1	安、玄、ホ	
90	上和田城山 (4次)	B3L- L4U	Ⅲ	250	1	4.5×3	76	5.62		ナ5、RF3、UF4、 F42、砕15、磨1、 核3、原3	黒、凝、流	
90	上和田城山 (4次)	B3L- L4U	Ⅲ	250	2	5.2×3.0	40	2.56		ナ2、RF3、UF3、 F21、核3、砕8	黒、凝、安、頁	礫群
90	上和田城山 (4次)	B3L- L4U	Ⅲ	250	3	5.9×2.2	21	1.61		ナ1、RF1、UF1、 F21、砕1、核2	黒、凝、砂、頁	
90	上和田城山 (4次)	B3L- L4U	Ⅲ	250	4	-	3	-		RF1、F2	黒、凝、安	
96	寺尾	B3U	Ⅵ	1200	1	3×2	10	1.67	集中	ナ3、削1、石刀1、 F4、核1	玄10	
96	寺尾	B3U	Ⅵ	1200	2	7×5	765	21.86	密集	ナ54、削3、最2、 磨1、RF9、UF7、 折F39、石刀2、 F235、砕404、核9	珪5、黒750、ア ブ1	
96	寺尾	B3U	Ⅵ	1200	3	6×2	64	5.34	密集	ナ9、磨1、RF2、 折F13、F14、砕25	玄1、黒63	
96	寺尾	B3U	Ⅵ	1200	4	8×5	408	10.2	密集	ナ43、削1、削2、 磨1、RF7、UF2、 折F37、石刀4、 F150、砕154、核7	珪44、黒362、 細凝1、硬砂1	
96	寺尾	B3U	Ⅵ	1200	5	6×4	637	26.54	密集	ナ53、削2、削1、 削1、磨1、RF8、 UF1、折F32、石刀 1、F174、砕363	珪1、黒635、ア ブ1	
100	吉岡A区	B4U	-	1439		8×8	212	0.3	集中	ナ4、核1、削1、 F137、砕51、核13、 礫器1、最2、台1	ガ黒安、黒、中 凝、硬細凝、凝、 頁	
101	吉岡B区	B4U	-	1150		径1.5	6	0.3	散漫	削1、F3、核2	安、凝	
102	吉岡C区	L3	-	36000	1	径3.5	13	0.7	散漫	ナ状2、RF1、UF1、 F5、砕1、核2	黒10、珪頁2、 ガ黒安1	
102	吉岡C区	B3LU	-	36000	1	8.8×6.3	25	2.2	散漫	核3、台形核2、削 1、RF2、F12、砕1、 核1、石斧未成品1、 打痕礫1、加工痕 礫1	珪頁1、硬細凝 15、中凝1、ガ 黒安5、ホ1、石 英1、石英閃緑 岩1	礫群
102	吉岡C区	B3LU			2	径6	10	2.8	散漫	台形核3、F3、核4	珪頁1、硬細凝5、 中凝3、ホ1	
102	吉岡C区	B3LU			3	3.0×1.5	5	0.9	散漫	RF2、F2、核1	ガ黒安5	
102	吉岡C区	B3LU			4	5.0×2.5	5	2.5	散漫	ナ1、RF1、F2、核 1	ナ1、珪頁1、硬 細凝1、ガ黒安1、 ホ1	

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土 層位	文化 層	調査 面積 (㎡)	各 集 中 No.	分布 範囲 (m)	石器 点数	分布 密度	分布 状態	器種組成 (※1)	石材組成 (※2)	備 考 (共存遺構など)
102	吉岡C区	B3LU			5	径2.5	14	0.4	集中	ナ1、台形礫1、 F6、砕6	頁1、ガ黒安13	
102	吉岡C区	B3LU			6	8.0×4.5	22	1.6	散漫	ナ1、台形礫4、彫2、 RF2、F9、砕1、核1	珪頁6、硬細礫8、 中凝1、ガ黒安7	
102	吉岡C区	B3LU			7	3.5×2.0	7	1	散漫	模1、ナ1、台形礫1、 RF1、F3	珪頁1、硬細礫5、 ホ1	
102	吉岡C区	B3LU			8	径5	3	6.5	散漫	UF1、砕2	珪頁1、硬細礫1、 ガ黒安1	群
102	吉岡C区	B3LU			9	5.0×3.5	6	2.9	散漫	ナ2、F3、核1	硬細礫5、中凝1	
102	吉岡C区	B3LU			10	径3	3	2.3	散漫	ナ2、F1	ガ黒安3	
102	吉岡C区	B3LU			11	径3.5	7	1.4	散漫	ナ1、彫1、RF1、 UF1、F2、砕1	黒3、ガ黒安4	
102	吉岡C区	B3LU			12	径4	6	2.1	散漫	ナ1、F4、砕1	ガ黒安4、砂1、 斑レイ1	
102	吉岡C区	B3LU			13	径3	11	0.6	散漫	模5、F4、核2	チ11	
102	吉岡C区	B3LU			14	5.0×3.0	5	3	散漫	台形礫1、F3、核1	硬細礫3、ガ黒 安2	
102	吉岡C区	B4U			1	2.0×1.0	5	0.4	散漫	打斧1、F4	ガ黒安3、硬細 礫1、ホ1	
102	吉岡C区	B4U			2	3.0×0.5	2	0.8	散漫	F1、打斧片1	硬細礫2	
102	吉岡C区	B4M			1	4.5×4.0	22	0.8	散漫	ナ状1、F・砕12、 核4、打痕礫5	ガ黒安15、珪頁 1、トロ安1、舞 緑岩5	
102	吉岡C区	B4M			2	径2.1	25	0.1	集中	彫1、F・砕19、核5	ガ黒安22、珪頁 1、チ1、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			3A	径2	13	0.2	散漫	模1、搔1、F・砕10、 核1	ガ黒安7、チ1、 珪頁3、頁2	
102	吉岡C区	B4M			3B	径1.5	6	0.3	散漫	F・砕5、核1	チ1、珪頁3、頁 1、ガ黒安1	
102	吉岡C区	B4M			4	4.5×2.0	7	1.3	散漫	模1、台形礫1、彫1、 F・砕2、核2	ガ黒安3、チ1、 珪頁2、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			5	3.2×2.5	63	0.1	集中	模4、台形礫2、 RF1、F・砕48、核7、 打痕礫1	ガ黒安49、チ4、 流凝1、安6、ト ロ安1、舞緑1	
102	吉岡C区	B4M			6A	3.0×1.5	38	0.1	集中	模2、ナ状1、彫1、 F・砕29、核5	ガ黒安35、チ3	
102	吉岡C区	B4M			6B	3.5×2.5	167	0.1	密集	模10、尖頭状2、 ナ状1、RF4、UF3、 F・砕131、核16	ガ黒安134、チ 20、珪頁2、流 凝4、ホ3	
102	吉岡C区	B4M			7A	径2.5	29	0.2	集中	模2、尖頭状1、台 形礫1、核1、彫1、 RF1、F・砕19、核3	ガ黒安24、チ2、 硬細礫2、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			7B	径2.0	8	0.4	散漫	F・砕6、核2	ガ黒安6、チ1、 流凝1	
102	吉岡C区	B4M			7C	径3.0	6	1.2	散漫	RF1、F・砕4、核1	ガ黒安2、チ2、 流凝2	
102	吉岡C区	B4M			8	6.0×5.0	52	0.6	集中	模3、ナ1、削1、 UF4、F・砕36、核6、 敲石片1	ガ黒安39、チ6、 珪頁3、頁3、舞 緑1	
102	吉岡C区	B4M			9	径1.7	10	0.2	散漫	ナ1、搔1、削1、 RF1、F・砕4、核2	珪頁8、細凝2	
102	吉岡C区	B4M			10	径1.0	3	0.2	散漫	模1、F・砕2	ガ黒安3	
102	吉岡C区	B4M			11	径1.5	3	0.6	散漫	F・砕2、核1	ガ黒安2、流凝1	
103	吉岡D区	B4L			1	径2.0	9	0.3	散漫	台形礫2、削1、 F2、砕1、核3	黒7、水晶2	
103	吉岡D区	B4L			2	2.5×1.5	13	0.3	散漫	F6、砕6、核1	黒13	
103	吉岡D区	B4L			3	4.0×2.0	19	0.4	散漫	削1、RF1、F5、局 外1、砕7、核4	黒18、細凝1	
103	吉岡D区	B4L			4	2.0×1.0	7	0.3	散漫	削1、F2、砕3、核 1	黒6、ガ黒安1	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8)

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土 層位	文化 層	調査 面積 (㎡)	各 集 中 No.	分布 範囲 (m)	石器 点数	分布 密度	分布 状態	器種組成 (※1)	石材組成 (※2)	備 考 (共存遺構など)
103	吉岡D区	B5			1	4.0×1.8	58	0.1		台形礫3、ナ状1、 削1、彫1、RF2、 UF1、F・砕47、核2	チ56、頁2	
103	吉岡D区	B5			2	5.0×3.0	9	1.7		ナ状2、彫1、F・砕 5、核1	チ9	
103	吉岡D区	B5			3	径5.0	8	2.5		台形礫1、ナ状1、 削1、F・砕5	チ4、珪頁1、硬 細礫2、流1	
103	吉岡D区	B5			4	径2.5	8	0.6		台形礫3、RF1、 F2、核2	チ8	
103	吉岡D区	B5			5	3.0×1.5	8	0.6		台形礫1、ナ状1、 F・砕6	黒1、チ6、珪頁 1	炭化物集中地点
103	吉岡D区	B5			6	3.0×2.0	7	0.9		台形礫1、削1、 RF1、F・砕2、核1、 石斧基部1	チ6、中礫1	
104	吉岡E区	B4U	-	280	集中 1	径1.5	18	0.1	集中	UF1、F10、砕4、 核3	安	
104	吉岡E区	B4U	-	280	集中 2	2.0×0.5	4	0.3	散漫	F4	安	
109	代官山	B3L	IX	1100	1	5.4×3.1	4	0.24	散漫	F4	黒2、珪頁2	
109	代官山	B4L	X	1100	1A	8×3.5	10	0.36	散漫	F6、UF3、核1	安1、凝5、珪2	
157	古瀬B	L3L- B4M	IV	1800	35	8.0×8.0	98	1.53	比較的 密	ナ2、礫・削1、 F95、核1	黒、粘	礫群
157	古瀬B	L3L- B4M	IV	1800	36	2.0×2.0	7	1.75	散在	F7	黒、安、粘	
157	古瀬B	L3L- B4M	IV	1800	37	1.5×1.5	8	3.55	疎	ナ1、F7	黒	
283	根下	B3U	II	560	1	4.0×3.0	4	0.33		F4	珪珪3、凝1	礫群2
283	根下	B3間 層	III	560	1	3.2×1.7	59	10.84		UF2、F51、核2、凝4、 その他2	凝、砂、珪珪、四、 火砕岩	礫群1
283	根下	B3間 層	III	560	2	3.2×1.2	18	4.68		彫2、RF1、F14、 核1	珪珪、凝	
283	根下	B4U	IV	560	1	3.1×1.7	18	3.41		ナ1、F13、核3、 凝1	安、砂、赤	
283	根下	B4U	IV	560	2	3.3×1.5	10	2.02		UF1、F5、核1、打 斧1、凝1、磨1	砂、凝、チ、安	礫群1
283	根下	B4L	V	560	1	1.5×0.7	3	2.85		F1、凝2	安、火砕岩	
313	矢指谷B地区	B3- 波状 帯	III	192	-	-	112		-	ナ1、磨2、凝1、核2、 剥、砂	玻璃質玄58、チ 20、黒7、砂6、 粘5、輝3、安2、 粗礫2、粗礫2、 硬砂2、四1、石 灰1、細礫1、不 明1	
316	長浜ノ上	B4U	AT F2	640	1	5.1×2.0	3	0.29		RF	黒	この他に一括遺物2 点あり
316	長浜ノ上	B4LM	AT F3	640	1	-	-	-		F	玄	この他に一括遺物1 点あり
318	大和配水池	L3L	X	3849	1	4×4.2	360	21.43	密集	ナ4、彫1、RF1、 UF3、F 類361	黒359、安1	
318	大和配水池	L3L	X	3849	2	0.5×0.4	8	40	密集	F 類8	黒8	
318	大和配水池	B3M	XI	3849	1	0.8×0.6	7	14.58	密集	F 類7	黒7	
318	大和配水池	B3M	XI	3849	2	2.3×1.7	15	3.83	密集	F 類15	黒15	
318	大和配水池	B4U	XM	3849		23×2.4	4	0.09	散漫	礫・削1、凝1、核2	黒2、凝1、安1	
318	大和配水池	L5	XIV	3849	1	23.5× 19.2	79	0.17	散漫	ナ6、ス2、彫3、核2、 RF4、UF12、局斧5、 打斧2、F 類39、核2、 凝2	黒34、凝27、チ 12、頁4、水2	礫群2、配石2
347	打木原	B3L 相当	Vb	1500	SX05	径4.0	61	4.86	やや 散漫	RF1、F24、砕34、礫 焼礫2	硬細礫54、砂1、 水4、流1、磨1	土坑9
347	打木原	B3L 相当	Vb	1500	SX06	径4.5 ～4.6	26	1.60	局部的な 集中	ナ1、RF3、UF1、 F8、砕10、核1、 凝2	硬細礫11、ガ ラス1、水13、石 灰斑岩1	土坑9
347	打木原	B3L 相当	Vb	1500	SX07	径2.3 ～2.5	34	1.88	集中	RF1、UF1、F8、砕 22、核2	硬細礫15、水 18、黒(諏訪屋ヶ 台群) 1	土坑9
347	打木原	B3L 相当	Vb	1500	SX08	径3.3	41	1.20	散漫	RF1、F20、砕17、 核2、凝1	硬細礫24、粗礫 1、水2、頁14	土坑9

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土 層位	文化 層	調査 面積 (㎡)	各 集中 No.	分布 範囲 (m)	石器 点数	分布 密度	分布 状態	器種組成 (※1)	石材組成 (※2)	備 考 (共伴遺構など)
368	津久井城跡馬 込	B3	5	860	-	7×5	31	0.8	散漫	ナ2、核2、F27	黒5、硬細凝23、 珪質1、中凝1、 石英1	鏡群1
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	A	8×8	468	7.3	集中	台形様1、ヘラ1、 打斧2、核14、核3、 削1、核1、磨1、磨3、 砥2、RF9、UF1、 F402、砂10、原2	黒8、硬細凝 355、ホ61、細 凝20、珪質7、 ガ黒安3、ナ2、 安1、中凝5、輝2、 閃1、石英1、砂1、 凝質1	鏡集中
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	B	12×11	201	1.5	やや 散漫	ナ2、台形様3、打 斧2、核14、削3、 磨1、磨5、RF3、 F162、砂5、原1	黒16、硬細凝 85、ホ37、珪質 41、頁1、凝質1、 ガ黒安11、ナ1、 輝2、輝凝1、斑 2、中凝3	鏡集中
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	C	11×10	228	2.1	やや 散漫	ナ1、局弁1、打斧3、 鏡器1、核14、削2、 核1、核1、磨1、磨3、 RF9、UF1、F181、 砂3、磨3、原2	黒7、硬細凝 173、ホ21、ホ3、 ガ黒安3、珪質5、 凝質5、粗凝1、 輝1、変輝1、中 凝7、砂1	鏡集中
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	D	7×6	79	1.9	やや 散漫	削1、RF6、F69、核 1、台石1、磨1	黒7、硬細凝59、 珪質4、頁1、ホ 1、ナ3、ガ黒安1、 輝1、細凝1、中 凝1	鏡集中
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	E	5.5×4	100	4.5	集中	RF2、F87、核10、 磨1	硬細凝10、珪質 71、ナ14、ガ黒 安4、細凝1	鏡集中
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	F	15×13	73	0.4	散漫	黒1、メ2、硬細 凝40、珪質12、 弁1、磨2、磨2、磨 凝1、核3、F52、原 1	黒1、メ2、硬細 凝40、珪質12、 凝質1、ホ3、粘1、 ナ6、富玄1、細 凝2、斑2、中凝 1、砂1	鏡集中
368	津久井城跡馬 込	B4	6	860	G	7.5×5.5	139	3.4	集中	ナ1、台形様6、削2、 RF2、調 F1、F111、 核2、打斧5、弁状1、 核7、原1	黒6、硬細凝 121、ホ4、珪質1、 ナ1、中凝5、砂 1	鏡集中

※1 器種組成 (ナ：ナイフ形石器、台形様：台形様石器、ナ状：ナイフ状石器、尖頭状：尖頭状石器、核：核器、削：削器、磨：磨器、核：楔形石器、磨：磨石、打斧：打製石斧、磨斧：磨製石斧、局弁：局部磨製石斧、台：台石、核：石核、原：原石・原材、刃：刃器、調 F：調整剥片、磨状器：磨石状円器、UF：使用痕ある剥片、RF：加工痕ある剥片、磨：研磨器、ピエヌ：ピエヌエスキューズ)

※2 石材組成 (黒：黒曜石、凝：凝灰岩、硬細凝：硬質細粒凝灰岩、細凝：細粒凝灰岩、中凝：中粒凝灰岩、粗凝：粗粒凝灰岩、流凝：流紋岩質凝灰岩、ガ黒安：ガラス質黒色安山岩、玄：玄武岩、富玄：富士玄武岩、斑玄：斑状玄武岩、安：安山岩、トロ安：トロトロ安山岩、頁：頁岩、珪質：珪質頁岩、凝質：凝灰質頁岩、ナ：チャート、ホ：ホルンフェルス、輝：輝緑岩、変輝：変質輝緑岩、砂：砂岩、硬砂：硬質砂岩、粗凝：粗粒凝灰岩、粘：粘板岩、珪：珪岩、流凝：流紋岩質珪岩、水：水晶、斑：斑レイ岩、流：流紋岩、アブ：アブライト、石炭：石英斑岩、閃：閃緑岩、石閃：石英閃緑岩、火：火砕岩、磨：磨石)

神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ

— 後期前葉期 堀之内式土器文化期の様相 その6 —

縄文時代研究プロジェクトチーム

I. はじめに

本プロジェクトでは、平成9年度より後期前葉期堀之内式土器文化期の様相をめぐる研究を行っており、今年度で6年目を迎える。これまでに、報告書を中心とした文献収集、基礎的なデータベース作成、研究略史、主要遺跡地名表・参考文献の作成、編年案構築に向けた一括出土事例（層位的出土事例を含む）の検討、堀之内1式土器・堀之内2式土器の編年案作成、住居址検出遺跡を中心とした主要遺跡の分布図作成等の作業を行ってきた。

昨年度より、平成23・24年度に提示した「神奈川県内における堀之内1式土器編年案」、「神奈川県内における堀之内2式土器編年案」にもとづく該期の文化的様相を探る研究活動に着手しているが、本年度は、新メンバー1名を加え、該期住居址についての研究作業を行うこととした。詳細な検討作業は次年度以降に譲り、今年度はまず、昨年度提示した主要遺跡で発見された住居址のデータシートを作成し、時期毎に主要な形態を抽出した集成図を作成することとした。

II. 堀之内式期の住居址の概要

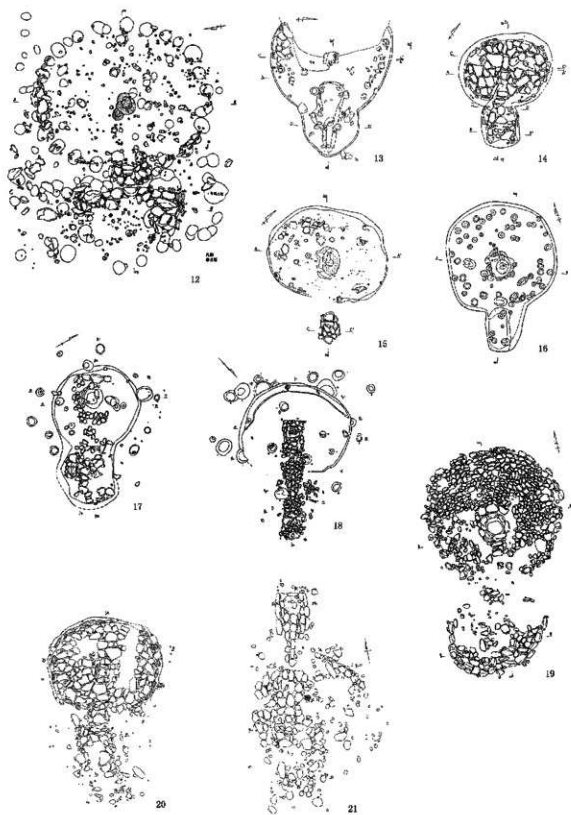
今回は、主要遺跡データシートにより後期前葉期の堅穴住居を抽出した。掲載した住居跡は、帰属時期決定資料に恵まれ、遺存状況が良好なものを中心に選定した。また、今後の作業を見据え「土器編年案構築に向けた一括出土事例」等で取り上げた住居については極力含めるようにした。挿図の作成にあたっては、堀之内1式・2式に比定される住居跡を類型およびおおまかな地理的状況（相模川を境界とする県東部域と県西部域）にそって示すよう努めた。住居跡は出土土器により帰属時期を把握し、極力編年試案に基づき時間軸の把握に努めたが、挿図中の各住居の配列順は必ずしも時間的な前後関係を示すものではない。

各住居跡の類型は、柄鏡形住居主体部の平面形態による分類、張り出し部の平面形態とこれにともなう柱穴列の構築状況を考慮したものである。第1図は堀之内1式期の県東部域の住居跡で、前段階から引き続く長方形の張り出し部を持つもの。第2図は同時期、同形態の県西部域のもの。第3図は堀之内1式期の「ハ」の字状にビットが配列された張り出し部を持つもの。第4図は「ハ」の字状のビット列が180°近くまで開いたもので、同じ堀之内1式期である。第5図は堀之内2式期のもので、43～46は長方形の張り出し部を持つもの。47～49は「ハ」の字状ビット列を持つものである。第6図および第7図は張り出し部のビット列が180°近くまで開いたものであるが、第6図50～54は堀之内2式期中段階、55・第7図56・58は同新段階。第7図56～58は堀之内2式新段階、59・61は堀之内2式期末～加曽利B1式期のものである。

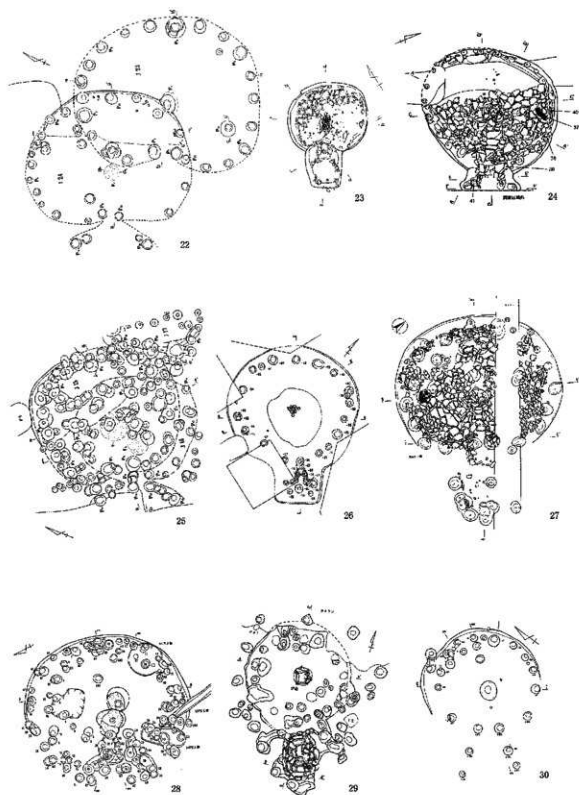
今回提示した住居数は60基を越えるものとなったが、基礎的なデータの暫定的な提示にとどまるものである。また、ここで述べた類型も、あくまで当該時期におけるおおまかな概要を把握するのにとどまるもので、厳密な住居型式の抽出には至っていない。今後の分析によって当該時期における住居の様相の把握に努めていきたい。



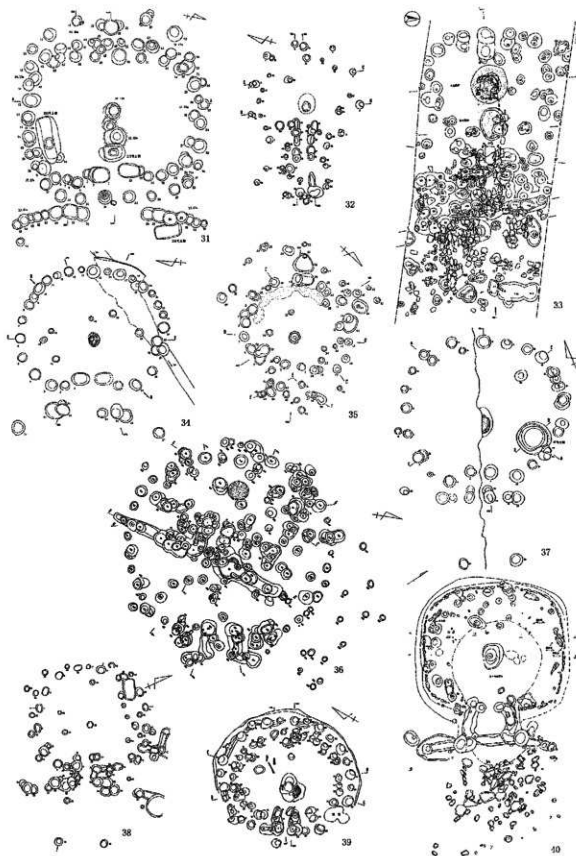
第1図 縄文時代式期の住居址① (1/150)



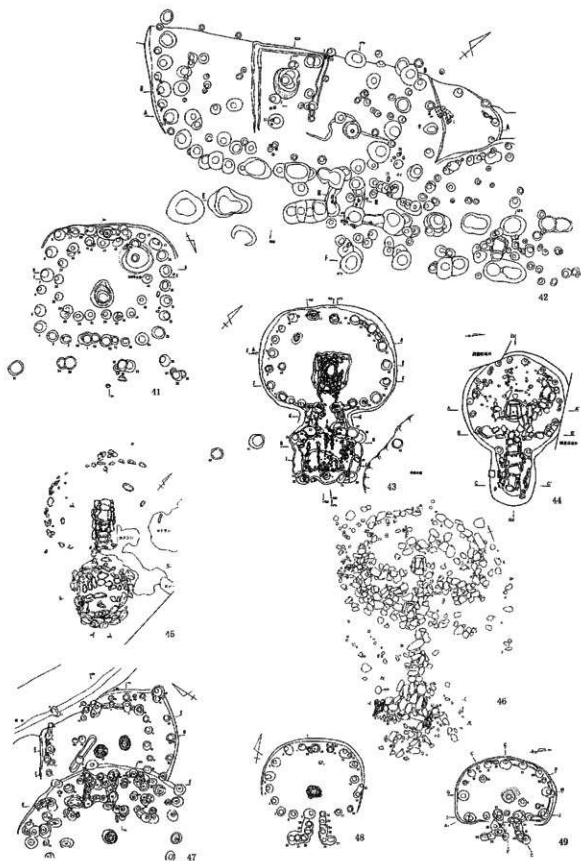
第2図 縄文内式期の住居址② (1/150)



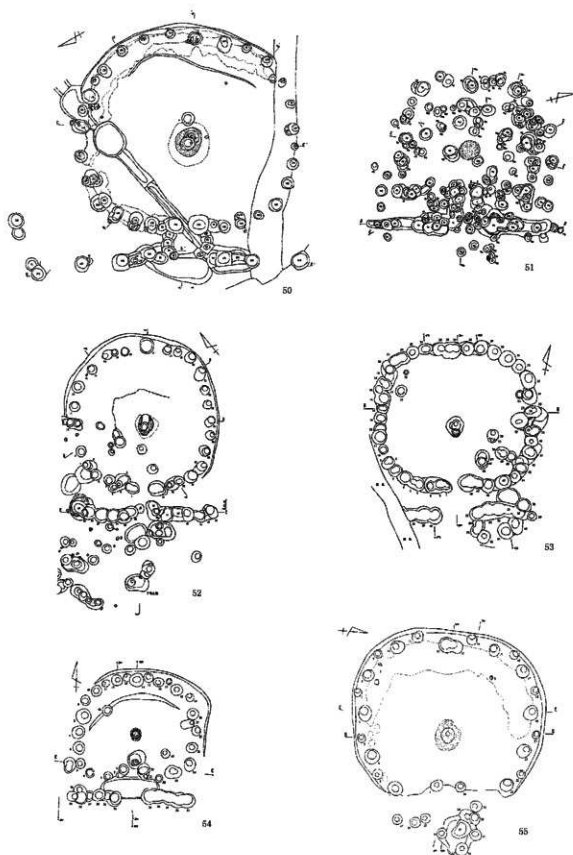
第3図 堀之内式期の住居址③ (1/150)



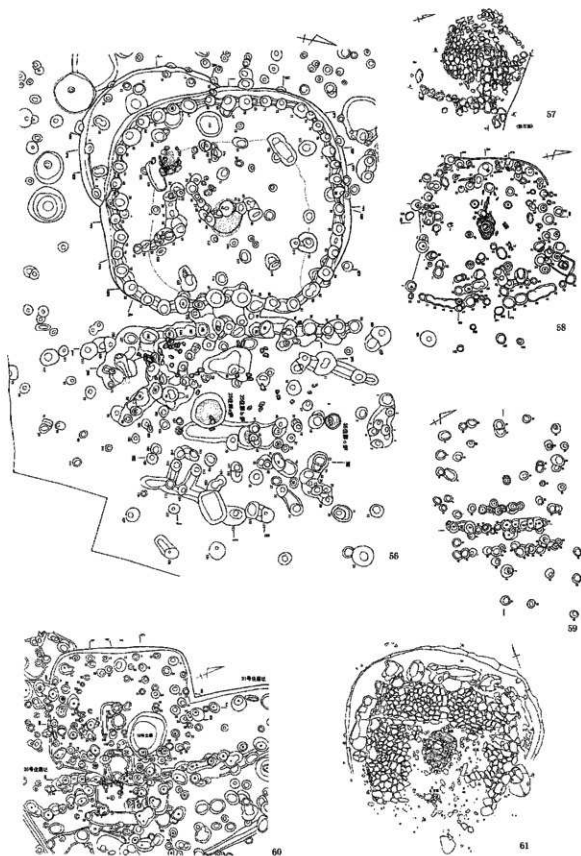
第4図 縄之内式期の住居址④ (1/150)



第5図 螺之内式期の仕舞址⑤ (1/150)



第6図 縄文内式期の住居址⑥ (1/150)



第7図 縄之内式部の住居址⑦ (1/150)

第1表 掲載住居址一覧

No.	市町村(区)	遺跡名	遺構名	時期	形態	文献
第1図						
1	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	40号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	4
2	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	12号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	20
3	横浜市都筑区	三の丸遺跡	AJ65号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	2
4	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	18号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	4
5	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	41号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	4
6	横浜市都筑区	華蔵台南遺跡	3号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	8
7	鎌倉市	関谷島ノ神西遺跡	1号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	3
8	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	4号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	4
9	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	35号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	4
10	横浜市都筑区	小丸遺跡	29号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	15
11	川崎市麻生区	岡上丸山遺跡	3号住居	堀之内1式期新段階	柄鏡形	5
第2図						
12	相模原市	寸嵐二遺跡	J1号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	14
13	愛甲郡清川村	馬場(Na3)遺跡	2号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	13
14	愛甲郡清川村	ナラサス遺跡	J1号敷石住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	6
15	愛甲郡清川村	ナラサス遺跡	J2号敷石住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	6
16	厚木市	東谷戸遺跡B地区	1号住居	堀之内1式期	柄鏡形	9
17	相模原市	田名塩田・西山遺跡	第1号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	16
18	相模原市	田名塩田・西山遺跡	3号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	16
19	相模原市	下溝堀川遺跡B区	1号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	10
20	伊勢原市	下北原遺跡	第11号敷石住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	1
21	伊勢原市	下北原遺跡	16号住居・17号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	1
第3図						
22	横浜市都筑区	西ノ谷貝塚	J24号住居	堀之内1式期	柄鏡形	17
23	相模原市	注じめ沢下遺跡	J8号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	21
24	小田原市	曾我谷津岩本遺跡	第1地点1号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	22
25	横浜市都筑区	西ノ谷貝塚	J15号住居・J16号住居	堀之内1式期	柄鏡形	17
26	相模原市	下溝堀川遺跡C区	1号住居	堀之内1式期	柄鏡形	10
27	平塚市	王子ノ台遺跡	J1号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	11
28	横浜市都筑区	川和向原遺跡	18号住居	堀之内1式期	柄鏡形	12
29	秦野市	太岳院遺跡91-1地点	J2号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	23
30	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	42号住居	堀之内1式期	柄鏡形	4
第4図						
31	横浜市都筑区	川和向原遺跡	7号住居	堀之内1式期	柄鏡形	12
32	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	12号住居	堀之内1式期	柄鏡形	4
33	平塚市	王子ノ台遺跡	J2号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	11
34	横浜市都筑区	牛ヶ谷遺跡	3号住居	堀之内1式期	柄鏡形	8
35	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	38号住居	堀之内1式期	柄鏡形	20
36	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	27号住居	堀之内1式期	柄鏡形	4
37	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	29号住居	堀之内1式期	柄鏡形	4
38	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	36号住居	堀之内1式期	柄鏡形	4
39	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	22号住居	堀之内1式期	柄鏡形	4
40	相模原市	田名塩田・西山遺跡	4号住居	堀之内1式期	柄鏡形敷石	16
第5図						
41	横浜市都筑区	川和向原遺跡	8号住居	堀之内2式期古段階	柄鏡形	12
42	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	43号住居	堀之内2式期古段階	柄鏡形	20
43	横浜市都筑区	小丸遺跡	48号住居	堀之内2式期	柄鏡形敷石	15
44	小田原市	久野北側下遺跡第II地点	1号住居	堀之内2式期	柄鏡形敷石	18

No.	市町村(区)	遺跡名	遺構名	時期	形態	文献
45	秦野市	太岳院遺跡91-1地点	J1号住居	堀之内2式期	柄鏡形敷石	23
46	伊勢原市	下北原遺跡	10号敷石住居	堀之内2式期	柄鏡形敷石	1
47	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	23号住居	堀之内2式期	柄鏡形	4
48	横浜市都筑区	小丸遺跡	20号住居	堀之内2式期	柄鏡形	15
49	横浜市旭区	都筑自然公園予定地内 №5地点	1号住居	堀之内2式期	柄鏡形	7
第6図						
50	横浜市都筑区	月出松遺跡	J7号住居	堀之内2式中段階	柄鏡形	19
51	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	26号住居	堀之内2式期	柄鏡形	4
52	横浜市都筑区	華蔵台南遺跡	4号住居	堀之内2式期	柄鏡形	8
53	横浜市都筑区	小丸遺跡	10号住居	堀之内2式期	柄鏡形	15
54	横浜市都筑区	小丸遺跡	11号住居	堀之内2式期	柄鏡形	15
55	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	48号住居	堀之内2式期新段階	柄鏡形	20
第7図						
56	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	35号住居	堀之内2式期新段階	柄鏡形	20
57	秦野市	太岳院遺跡92-5地点	J1号住居	堀之内2式期	柄鏡形敷石	23
58	横浜市都筑区	小丸遺跡	22号住居	堀之内2式期新段階	柄鏡形	15
59	横浜市都筑区	山田大塚遺跡	28号住居	堀之内2式期新段階	柄鏡形	4
60	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	28号住居	堀之内2式期	柄鏡形	20
61	伊勢原市	下北原遺跡	14号敷石住居	堀之内2式期新段階	柄鏡形敷石	1

参考文献

- 鈴木保彦 1977 『下北原遺跡 伊勢原市下北原所在の縄文時代配石遺構の調査』 神奈川県立埋蔵文化財調査報告14 神奈川県教育委員会
- 伊藤郁ほか 1983 『三の丸遺跡発掘調査報告書』 横浜市文化財シリーズ57-1 横浜市埋蔵文化財調査委員会・横浜市教育委員会
- 永井正憲 1985 『関谷島ノ神西遺跡発掘調査報告書』 関谷島ノ神西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会
- 石井 寛 1990 『山田大塚遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告11 横浜市埋蔵文化財センター
- 竹石健二 1990 『神奈川県川崎市麻生区 岡上丸山遺跡発掘調査報告書 本文編』 川崎市教育委員会社会教育部文化課・川崎市教育委員会
- 長岡文紀ほか 1991 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅱ ナラサス遺跡 ナラサス北遺跡』 神奈川県立埋蔵文化財センター21 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 橋本昌幸 1991 『都筑自然公園予定地内遺跡群(2) 発掘調査報告 都筑自然公園建設計画に伴う埋蔵文化財調査報告書(№5・6・7 地点遺跡)』 横浜市埋蔵文化財センター
- 石井 寛 1993 『牛ヶ谷遺跡・華蔵台南遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告14 財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
- 戸田哲也ほか 1994 『東谷戸遺跡発掘調査報告書』 上荻野東部土地区画整理事業事業区域内遺跡発掘調査団
- 迫和幸ほか 1994 『神奈川県相模原市下溝場川遺跡発掘調査報告書』 下溝場川遺跡発掘調査団
- 秋田かな子ほか 1995 『東海大学校地内遺跡調査報告書5』 東海大学校地内遺跡調査委員会東海大学校地内遺跡調査団
- 石井 寛 1995 『川和向原遺跡 原出口遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告19 財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会
- 富永樹之ほか 1996 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅶ』 かながわ考古学財団調査報告9 財団法人かながわ考古学財団
- 吉田浩明ほか 1998 『寸風二遺跡発掘調査報告書』 相模湖町№6 遺跡発掘調査団
- 石井 寛 1999 『小丸遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25 財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会
- 土井永好ほか 2002 『田名塩田・西山遺跡』 相模原市埋蔵文化財調査報告27集 相模原市教育委員会
- 坂本彰ほか 2003 『西ノ谷貝塚』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 小池聡ほか 2004 『久野北側下遺跡Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ地点 久野久保下遺跡第1地点』 小田原市文化財調査報告123集 小田原市教育委員会
- 坂上弘弘 2005 『月出松遺跡 月出松南遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告37 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 石井 寛 2008 『華蔵台遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告41 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 井辺一徳ほか 2009 『はじめ沢下遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う発掘調査』 かながわ考古学財団調査報告236
- 小池 聡 2010 『曾我谷津岩本遺跡第1地点』 盤古堂
- 坪田弘子ほか 2013 『太岳院遺跡9008地点他・尾尻尾崎遺跡9106地点・水神遺跡9312地点他・今泉西堀遺跡9601地点』 王立文化財研究所 秦野市教育委員会

神奈川県内出土の弥生時代土器棺(4)

—弥生時代中期後葉から古墳時代前期(その3)—

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

当研究プロジェクトでは、研究紀要17号より「神奈川県内出土の弥生時代土器棺」についての集成・検討を行い、同18号からは弥生時代中期後葉～古墳時代前期の事例を集成してきた(第1・2図)。

前稿でも触れたように、研究紀要18号では集成した土器棺資料の図を提示し、前回の研究紀要19号ではその集成資料に関する出土遺跡・遺構・土器などの概要解説を行った。今回は、引き続き弥生時代中期後葉～古墳時代前期の土器棺を対象に、前稿以降に刊行された報告書掲載の資料について提示し、既稿の補遺としたい。

概要解説の遺構名の前に付した番号は既稿の集成図及び一覧表から継続している。また第1・2図中の番号は第1表の「文献番号」が示す、それぞれの遺跡に対応している。追加資料の確認と集成は当研究プロジェクトのメンバーが分担して行い、該当資料の挿図作成は戸羽が行った。

今回の追加集成では1遺跡5事例の資料を確認することが出来た。集成結果は第1表にまとめ、第1図に掲載した。図の掲載にあたっては、遺構・遺物の検出状況を縮尺1/60、遺物実測図を縮尺1/8とした。図は報告書掲載のものをコピーして使用し、再トレース等は行っていない。(渡辺)

県内遺跡の事例

47. 河原口坊中遺跡(第1次調査) P21地区(上り線) YH1号土坑

遺跡は海老名市河原口に所在し、相模川・中津川・小鮎川の三河川が合流する地点の自然堤防上に立地する。標高は21～22mを測る。弥生時代中期から古墳時代前期の堅穴建物跡292軒、掘立柱建物跡7棟、溝状遺構28条、土坑90基、炉跡7基、焼土跡2基、ピット314基、旧河道4条、流路状遺構5条、水溜状遺構1基、杭列2条が検出されている。

YH1号土坑は東側を湧水対策の水切り溝に切られる。上部にYH49号堅穴建物跡が構築されていた。土坑規模は長軸33cm、短軸は残存長で28cm、深さ24cmである。土坑の中層から口縁部を上にして、やや斜めに立った状態で小型の壺が出土している。壺はほぼ完形で、口縁部と頸部に縄文が施文され、無文部分には赤彩が施される。現存高は13.4cm、胴部最大径は8.2cmである。弥生時代中期後葉に比定される。土器棺の可能性のある事例として取り上げた。

48. 河原口坊中遺跡(第1次調査) P24地区(上り線) 遺構外

甕と壺が重なり、潰れた状態で出土していた。調査時には掘り込みなど確認されていない。出土状況を検討した結果、正位の壺の上に正位の甕が重なって出土していたことが報告されている。甕はほぼ完形で口縁部を表裏押捺、胴部を内外面ハケ後ヘラナデ、底部の木葉痕をヘラナデされる。現存高は26.9cm、胴部最大



第1図 土器棺出土遺跡分布図 中期後葉
(新刊「花園神社遺跡のふし」資料編)

径は16.6cmである。胴部最大径は壺は頸部を欠損している。頸部および胴部下半は赤彩されミガキが施される。頸部下半～胴部上半にかけて、3本一単位の櫛描横線文に区画された内側を縄文で充填した文様帯が2段施文されている。現存高は21.4cm、胴部最大径は19.7cmである。報告では出土状況から自然作用によるものではなく、土器棺および水辺の祭祀など何らかの人為的な痕跡があったものと推測している。弥生時代中期後葉に比定される。特異な出土事例であるが土器棺の可能性を考慮し、掲載した。

49. 河原口坊中遺跡（第1次調査） P23地区（上り線） YH4号土坑

土坑は北東の立ち上がり上端部を擾乱によって削平されている。土器棺は、土坑掘り方に沿って大型の壺1/2が横位に据えられていた。さらに確認面および横位の壺南北際から蓋と推測される別個体の大型壺胴部破片が出土している。土坑規模は長軸113cm、短軸88cm、深さ30cmである。棺蓋と考えられる壺は沈線区画内を縄文で充填した山形文が施文されている。棺身となる壺は頸部以上を欠損している。胴部上半にS字状結節文区画によるが施文されており、胴部下半はハケ後、丁寧にナデ消されている。また、底部にはハケが観察され、一部ナデ消されている。現存高は61.2cm、胴部最大径は63.6cmである。弥生時代後期に比定される。

50. 河原口坊中遺跡（第1次調査） P21地区（上り線） YH10号土坑

調査区壁際で検出されており、大半が遺構外へ続くため遺構の全様は不明である。北側の立ち上がり部分をH1号溝状遺構に切られる。規模は確認できた範囲で長軸145cm、短軸20cm、深さ33cmである。土坑の底面から壺が口縁部を上にして、斜めに倒れた状態で出土している。出土時には口縁部以外にほとんど土が入っていない状況であったことが報告されている。壺は完形で、口縁部は外面ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、胴部は外面ハケ後ミガキによって調整される。現存高19.8cm、胴部最大径18.3cmである。弥生時代後期以降に比定される。土器棺の可能性のある事例として掲載した。

51. 河原口坊中遺跡（第1次調査） P21地区（下り線） YH18号土坑

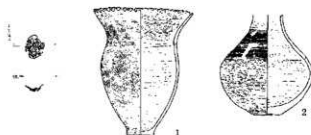
東側の立ち上がり上部を湧水対策の水切り溝によって切られている。規模は長軸36cm、短軸は残存長20cm、（推定復元32cm）、深さ16cmである。完形の小型台付甕が逆位状態で出土した。甕は外面を口唇部面取り、口縁部から胴部をハケ後ヘラナデ、内面を口縁部から胴部までハケ後ヘラナデおよび指頭オサエによって、脚部は内外面ともにヘラナデおよび指頭オサエによって調整される。現存高15.9cm、胴部最大径は11.6cmである。弥生時代後期以降に比定される。甕単独の出土であり、土器棺としての根拠はやや希薄であるが、可能性例として掲載した。

（戸羽）

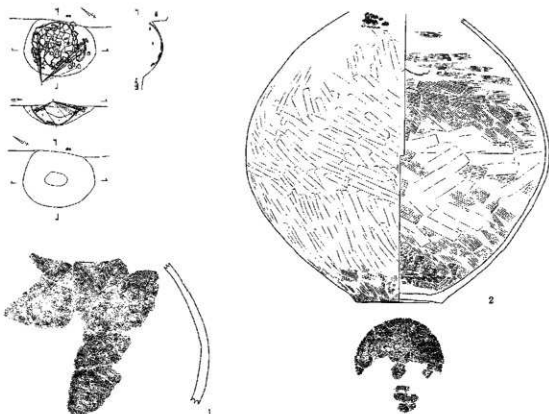
47. P21 地区 YH1号土坑



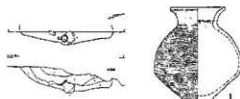
48. P24 地区 遺構外



49. P23 地区 YH4号土坑



50. P21 地区 YH10号土坑



51. P21 地区 YH18号土坑



第3図 河原口坊中遺跡(第1次調査) 土器館関連資料 [遺構図1/60、土器1/8]

おわりに

今回の補遺資料を含め、各資料の出土状況の検討・集成結果についての分析は、次回以降に行うものとする。今回の追加修正に遺漏等があれば、ご指摘・ご教示頂けると幸いである。

第1表 神奈川県内出土土器棺墓集成（弥生時代中期後葉～古墳時代前期）補遺

資料番号	所在地 (市区町村名)	遺跡名	遺構名または出土位置	時期	文献番号
47	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P21地区 YH1号土坑	弥生時代中期後葉	33
48	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P24地区 遺構外	弥生時代中期後葉	
49	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P23地区 YH4号土坑	弥生時代後期	
50	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P21地区 YH10号土坑	弥生時代後期以降	
51	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P21地区 YH18号土坑	弥生時代後期以降	

※資料番号は第3図中の遺構番号に対応し、文献番号は第2表に対応する。

第2表 文献一覧表 補遺

文献番号	文献（報告書）名	刊行年	編集機関
33	『河原口坊中遺跡 第1次調査』	2014	公益財団法人かながわ考古学財団

考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡(12)

― 通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介 ―

古墳時代研究プロジェクトチーム

例 言

- ・通称「赤星ノート」の神奈川県埋蔵文化財センター保管分の古墳時代に関係する項目を抜粋し、報告・掲載していくものである。
- ・研究紀要第20号には横須賀市域にあたる03018・03052・03067・03111番を掲載している。
- ・番号は埋蔵文化財センター年報14～19に記載されている番号に対応している。
- ・執筆分担は横須賀市03018番：岸本泰緒子、03052番：吉澤 健、03067番：長澤保崇、03111番：長友 信が行った。
- ・各記述は「1. 赤星ノートの内容」「2. 記載資料の整理」の2つに大きく分け、1. の細目は〔調査(踏査)年月〕〔資料保管場所〕〔記載内容概略〕とし、2. は〔(遺跡及び)遺物(遺構)概要〕〔掲載図書〕〔掲載図書概略〕〔小結〕などとし、資料に応じ該当部分を記載した。
- ・挿図や図版は基本的に作図者のタッチを重視し、赤星氏の図、もしくは実測者の図をそのまま掲載し、写真に関しても同様である。
- ・「赤星ノート」は遺構図では略測図に寸法の数字が記載されるものが多く、遺物図は基本的に原寸に近い図ではあるが、なかにはそれから外れるものも存在するため、縮尺は任意掲載のものが多い。



第1図 対象遺跡及び遺物位置図

凡例 ● 遺跡及び遺物位置

年報番号 横須賀市03018 専福寺所蔵陶質土器 横須賀市東浦賀

1. 赤星ノートの内容

[調査(踏査)年月]

実測図には記載がない。ただし同封筒内の別図には1977(昭和52)年2月20日の日付があり、本実測図についても同時期かと推測される。この実測図は『横須賀市文化財総合調査報告書』作成時の調査によるものと考えられ、報告書の刊行が1981(昭和56)年3月31日であることを勘案しても、調査時期がおおよそその前後であることは間違いないであろう。

[資料保管場所] 専福寺(横須賀市東浦賀2丁目所在)

[記載内容概略]

横須賀市東浦賀2丁目に所在する専福寺所蔵陶質土器高杯の実測図である。資料が収められている封筒は静岡大学理学部から県立博物館に宛てられたもので、料金後納郵便のため日付は入っていない。封筒裏には「東浦賀専福寺」とメモがある。封筒内には今回報告する「新羅焼高杯 浦賀専福寺蔵」実測図の他に、昭和52年2月20日付け「東浦賀専福寺」蔵「ガンガン」に関する略図、陶器壺(現代)実測図の3点が入っている。実測図はB5判方眼紙に18.2×9.6cmの白紙を継ぎ足したものに描かれている。複数の筆跡による書き込みがあり、「新羅焼 高杯 浦賀専福寺蔵」「もと朝鮮にいた伝道師の友人から専福寺住職(成田光俊氏)がもらいうけたものという」と記載がある。また遺物そのものの観察所見として、胎土・焼成について「石英・長石多く含む 焼成良好・堅緻」、坏口縁部外面について「やや表面が荒い」、脚部透窓について「切りが鋭い」、「高杯 高13.1cm 口径11.5cm 脚高8.4cm 蓋口径13.2cm 蓋高5.2cm 蓋上に二段に放射状に飾文がある」「原寸」という書き込みがある。また実測図には「玉林美男測図」とある。昭和50年代におこなわれた横須賀市教育委員会による文化財調査において、調査団団長および考古部門主任調査員が赤星氏であり、玉林氏(鎌倉市教育委員会)は調査員を務めていた。

2. 掲載資料の整理

[遺構・遺物概要]

実測図に描かれているのは、蓋付の二段交互透窓高杯である。高杯は口径11.5cm、高さ13.1cm、脚部高8.4cm、脚部の底部径9.0cmで、断面は直線的に広がり截頭A字形を呈す。坏部の深さは4.5cm、器厚は0.2~0.6cmで、蓋受け部から口縁にかけてやや内傾し、坏身はあまり膨らまず、なだらかに底部にむかう。脚部には2段の透窓があり、上段透孔は高さ約3cmの長方形、下段透孔は高さ約2.5cm、上部幅1.3cm、下部幅2.1cmの台形を呈す。2段の透窓の間には幅1cm程のかまぼこ状凸帯が付く。脚部は坏部より分厚く、厚さは0.4~0.6cm。透窓の数は明記されていないが、実測図を見る限りでは上段と下段に交互に透窓が穿たれるタイプであり、上段には少なくとも5個の透窓の表現が見られる。蓋は口径13.2cm、高さ5.2cmで、径3.1cmのつまみが付く。つまみ部分には透かしはない。蓋上には2段に放射状の集線文が施されている。また透窓部の「切りが鋭い」という観察所見および僅かに至んだ曲線を描く透窓部の形状からは、針金を用いた切り抜き技法が想起される。胎土は「石英・長石を多く含む」、「焼成良好・堅緻」とある。

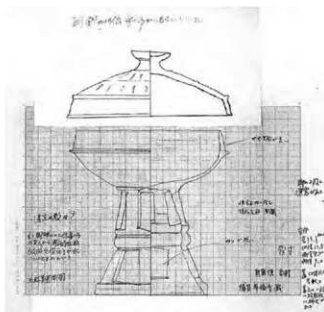
上記特徴と観察所見から、本実測図に描かれているのは新羅産陶質土器の蓋付二段透窓高杯であると考えられる。国内古墳時代遺跡出土品である可能性はゼロではないが、おそらくは実測図にメモ書きのある通り、近年持ち込まれたものであろう。

【掲載図書】

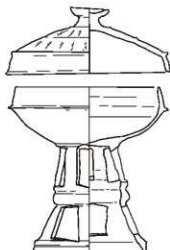
横須賀市教育委員会編1981『横須賀市文化財総合調査報告書 第1集 一浦賀地区一』p.386

【掲載図書概略】

遺物概要に関する4行の記述があるが、実測図や写真は掲載されていない。



第2図 実測図



第3図 実測図トレース図 (S=1/3)

【小結】

本資料は、二段の透窓、口縁部がやや内傾する点、脚部断面形態、蓋に施された集線紋などの型式的特徴(金斗結 2014など)からみると、慶州・皇南大塚南墳出土高坏に類似する、新羅様式中期的な様相をもつ製品であるといえる。皇南大塚は慶州の古墳群にある高さ20m、直径70m以上的大型墳墓である。2基が連続した壙形墳で、うち南墳が先に作られ、被葬者は男性で、王陵と推定されている。しかし現在においても新羅古墳の編年は諸説並立している状況で、したがって皇南大塚古墳についても年代観は様々であり、被葬者の特定には至っていない。皇南大塚南墳では3134点もの土器が出土し、高坏だけでも主柶21点、副柶で1292点が出土しており、またそれらがごく短期間に作られたと考えられている(金龍星 2007)。上述のように皇南大塚南墳の年代観にはばらつきがあり、5世紀前半あるいは4世紀に上るとする研究者もいるが、5世紀第3四半期(金龍星 2007、金斗結 2014)とする意見もある。よって本資料に関する所見としても、型式的に皇南大塚南墳出土高坏に近いという以上のことはいえず、おおそよ5世紀代に新羅地域、おそらくは慶州付近で作られた製品であろうという推測に留めることにする。

なお今回の資料調査にあたり、玉林美男氏(鎌倉市教育委員会)、川島裕哉氏(横須賀市教育委員会)、酒井清治先生(駒澤大学)にご協力・ご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。(岸本)

参考文献

- 金龍星 2007「新羅古墳の年代観—皇南大塚南墳を中心として—」『日韓古墳・三国時代の年代観(Ⅱ)』釜山大学校博物館
 金斗結 2014「皇南大塚南墳と新羅古墳の編年」『古文化談叢』第72集
 藤井和夫 1979「慶州古新羅古墳編年試案—出土新羅土器を中心として—」『神奈川考古』第6号神奈川考古同人会

年報番号 横須賀市03052 鳥ヶ崎横穴 須恵器長頸壺

1. 赤星ノートの内容

〔調査（踏査）年月〕

不明

〔資料保管場所〕

赤星直忠博士文化財資料館

〔資料概略〕

資料は西郊民俗談話会から神奈川県立博物館に送られた封筒に納められており、封筒には「横須賀写真」と筆書きされている。封筒には横須賀市内の文化財や発掘現場を撮影した複数の写真が収められており、本資料はそのうちの一枚である（本資料には撮影年月日は記載されていないが、他の写真には1968（昭和43）年に撮影されたという記載がある）（写真1）。

撮影されている遺物は須恵器の長頸壺1点で、黒い紙を背景にしてカラーで撮影されている。写真からはその大きさや撮影場所などの情報は不明である。本資料が貼られている台紙には赤星氏による「横須賀市鳥ヶ崎横穴出土」のキャプションがあるが、鳥ヶ崎横穴墓群のどの横穴墓に帰属するものか、といった情報の記載は見られない。

2. 記載資料の整理

〔遺跡・遺物概要〕

撮影されている遺物は須恵器の高台付長頸壺である。写真からはこの長頸壺についての具体的な情報は分らないが、横須賀市が2010年に刊行した『新横須賀市史 別編 考古』にはこの長頸壺が掲載されている（第4図は『新横須賀市史 別編 考古』に掲載された図を筆者が一部修正したもの）。

轆轤成形で、法量は口径12.4cm、底径8.3cm、胴部最大径16.1cm、器高26cmを測る。口唇部は約2/3を欠くが、ほぼ完形である。形状を見ると口縁は緩やかに広がり、頸部は中半まではほぼ垂直に立ち上がっている。胴部は肩がやや丸みを持って張り、下部は緩やかに丸みを帯びて底部に至っている。底部はやや膨らみ、高台が付いている。口唇部から胴部にかけては外面に自然釉が厚くかかっており、一部は高温のため発泡してしまっている。内面にも頸部まで自然釉が付着し、外面肩部には別個体の須恵器甕片が軸着している。湖西窯産で、7世紀後半から8世紀前葉に年代づけられるものである。

写真が貼られている台紙には「鳥ヶ崎横穴」出土とのキャプションがあり、長頸壺底面にも「神奈川県三浦郡浦賀町鳥ヶ崎」との注記がある。鳥ヶ崎横穴墓群は大正11（1922）年に土取り工事の最中に発見された、横須賀市鴨居2丁目に所在する東京湾岸最大規模の横穴墓群であり、6世紀末葉から8世紀前葉頃に年代づけられる約60基の横穴墓が構築されていたとされる。丘陵東側の横穴墓群は大正期の土取工事によって消滅し、現在では南斜面の横穴墓群が一部残るのみであるが、大正11（1922）年から昭和42（1967）年までに赤星氏らによって4回に亘る調査が実施され、15基の横穴が発掘調査された。出土した遺物は東京国立博物館、横須賀市自然・人文博物館、赤星直忠博士文化財資料館に保管されているが、ほとんどはその帰属が不明である。

〔掲載図書〕

横須賀市 2010 『新横須賀市史 別編 考古』横須賀市

【掲載図書概要】

2010年刊行の横須賀市史である。鳥ヶ崎横穴墓群の項目に「詳細は不明であるが、鳥ヶ崎岡辺出土であることから本横穴墓群の支群である可能性が考えられる」浄地原横穴墓群の遺物が紹介されている。これらの遺物は横須賀市自然・人文博物館に収蔵され、「浄地原横穴」の注記がある。市史の中では本資料の長頸壺もこの横穴墓に所属する遺物として紹介されているが、この長頸壺は赤星直忠博士文化財資料館に収蔵されており、また注記にも「鳥ヶ崎横穴墓」とあるのみで浄地原の記述はないため、詳細は不明である。

また、この市史に掲載されている本資料の図には自然釉などの情報がないが、これは市史編纂時にトレースし忘れただけのようである。

【小結】

本資料は7世紀後半から8世紀前半の須恵器長頸壺であり、その年代から鳥ヶ崎横穴墓群でも追跡、ないしは最終段階の横穴墓群属のものと考えられるが、詳細については不明であった。遺物は黒紙を敷いて撮影されていることから、報告等に掲載された可能性はあるが、管見の及ぶ限りこの写真そのものが掲載された文献は見当たらなかった。

なお、本調査では稲村篤氏（横須賀市自然・人文博物館）のご教示・ご協力を得ましたことを申し添えます。文末ではありますが御礼申し上げます。（吉澤）

引用・参考文献

- 赤星直忠 1924a 「鴨居洞穴の発掘」『考古学雑誌』第14巻第12号 日本考古学会
 赤星直忠 1924b 「其後の鴨居洞穴の発見遺物」『考古学雑誌』第14巻第13号 日本考古学会
 赤星直忠 1924c 「相州蒲賀町鴨居の洞穴」『考古学雑誌』第14巻第13号 日本考古学会
 赤星直忠 1967 「横須賀市鳥ヶ崎横穴群」『横須賀考古学会年報』第12冊 横須賀考古学会
 横須賀市 2010 『新横須賀市史 別編 考古』横須賀市

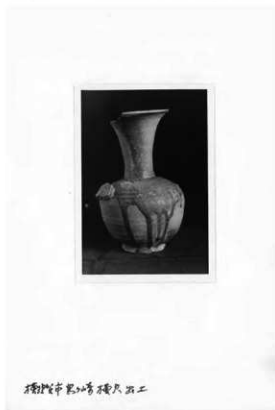
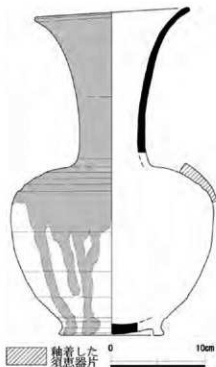


写真1 実測図



第4図 須恵器長頸壺
 『新横須賀市史 別編 考古』p.419
 図38-8:5筆者一部修正

年報番号 横須賀市03067 鴨居腰越神社須恵器高坏スケッチ 横須賀市腰越

1. 赤星ノートの内容

〔調査（踏査）年月日〕

資料および収められていた封筒には日付の記載はなく、資料に関する年月は定かではない。

〔資料保管場所〕

神奈川県立歴史博物館

〔資料概略〕

B5用紙に描かれた須恵器高坏の実測図。余白に「須恵器」「鴨居腰越の社内」「赤星採集」「写真出土場所表示なし」「横須賀市鴨居のお宮出土」「県博物館蔵」「口径12.5高さ11.2脚径9.2」と記載されている（第6図）。

2. 記載資料の整理

〔記載内容の概要〕

資料にみえる「腰越」の地名は現在の住居表示には残らないが、その由来は鴨居港方面から観音寺（現在焼失）があった亀崎半島の麓（腰）を越えたところとされ、腰越一帯の谷戸・山裾には小さな社が点在するものの「腰越神社」と称されるものはなく、これら社の発掘記録や地区内における須恵器高坏の採取記録も見当たらない。また「鴨居のお宮」に該当する記録には、鴨居港に鎮座する鴨居八幡神社の境内を赤星氏が1950（昭和25）年に調査した古墳後期の貝塚があるが（赤星 1955）、報告される出土遺物のなかに須恵器高坏は見受けられない。

「県博物館蔵」との記載から神奈川県立歴史博物館に問い合わせた結果、本資料と器形・法量の一致する須恵器高坏が収蔵されていた（写真2）。受け入れ年月日は1965年3月20日。出土地は横須賀市鴨居で、「鴨居横穴遺跡」の記載を2本線で消し、横に「鳥ヶ崎横穴群」と書き直している。法量は口径12.7cm底径9.4cm高さ10.9cm。本資料の記載法量と2～3mmの違いはあるがこれは計測位置による誤差であろう。滑らかな半球型の坏部をもつ無蓋タイプの短脚高坏で、口唇部内側には明瞭な面を有する。器壁はやや明るい灰色に発色し焼成は良好。口縁部1/3と脚部端を少々欠損するが、石膏補修・彩色が施されている。東海地方所産（おそらく湖西窯）の搬入品と考えられ、年代は7世紀第4四半期～8世紀初頭に比定できる。なお、脚部内底面には「大正12年 浦賀町 鴨居」の墨書注記が残されていた（写真3）。

〔掲載図書〕

本資料と断定できる須恵器高坏を掲載する図書はない。

〔小結〕

「腰越の社内」「鴨居のお宮」を特定することができず疑問も残るが、須恵器高坏に限れば、器形・法量からみて県立歴史博物館に収蔵されるものと同一個体である可能性は高い。1965年の収蔵時に「鳥ヶ崎横穴群」となった経緯は不明だが、赤星氏が大正13（1924）年に調査した鳥ヶ崎A横穴の出土遺物スケッチ（赤星 1925）のなかに、器形の近似する無蓋半球型坏部須恵器高坏をみることができる（第6図右上）。しかしながら「高さ四寸一分、径五寸のもの」と「高さ三寸九分、径四寸九分のもの」と二個出た」との記述からこれらを口径÷器高の比でみると約1.22と約1.26になるのに対して、本資料（収蔵遺物）は約1.12（1.17）となり法量に差異が認められる。また「大正12年 浦賀町 鴨居」の墨書注記は赤星氏の筆跡と思われるものの、こちらも調査の前年にあたり時間的な矛盾が生じる。大正11（1922）年の鳥ヶ崎横穴群の発見から調査までの間に採集したものである可能性なども想定できるが、本資料が鳥ヶ崎横穴から出土したものであるという

確証には至らなかった。

なお、本調査には、千葉毅氏（神奈川県立歴史博物館）、稲村繁氏（横須賀市自然・人文博物館）のご教示、ご協力を賜りました。文末ではありますが御礼を申し上げます。（長澤）

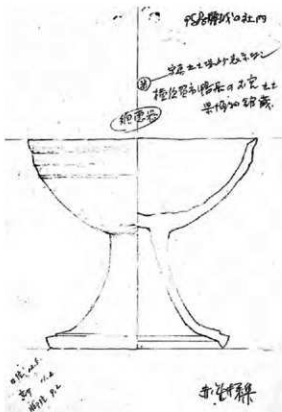
引用・参考文献

赤星直忠 1925『相州鶴居の横穴（一）』『考古學雑誌』第15巻第8号 日本考古学会

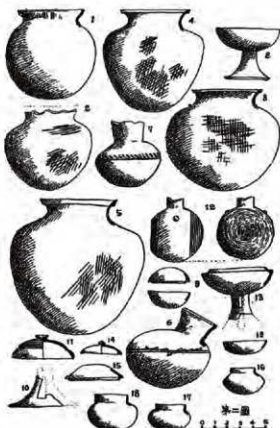
赤星直忠 1955『神奈川県鶴居の八幡社貝塚』『日本考古学年報3（昭和25年度）』日本考古学会

尾野善裕・小林久彦・鈴木敏則・費元洋 1999『第4回三河考古合同研究会資料 古墳時代の埴輪と湖西窯分類・編年・西暦年代の再検討-』三河考古刊行会

鈴木敏則 2001『湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築』『須恵器生産の出現から消滅 第5分冊 稲遺・論考編』



第5図 赤星ノート資料 須恵器高坏スケッチ（縮尺1/2）



第6図 鳥ヶ崎A横穴の出土遺物（赤星1925より転載）



写真2 神奈川県立歴史博物館蔵 須恵器高坏（筆者撮影）



写真3 同左 脚部内面に書き込まれた「大正十二年 浦賀町 鶴居」の墨書注記（筆者撮影）

年報番号03111 横須賀市 佐原城山遺跡 横須賀市佐原3丁目

1. 赤星ノートの内容

〔調査（踏査）年月〕

1972（昭和47）年9月23日

1977（昭和52）年11月14日

〔資料保管場所〕

赤星直忠博士文化財資料館（横須賀市長坂2丁目11番11号 宇内建設株式会社ビル3階）

〔資料概略〕

資料が収められている封筒は、京都府「西陣たより社（現・西陣織工業組合）」の機関誌「西陣グラフ」（2015年現在休刊）の発送用封筒で、神奈川県立博物館に宛てられたものである（写真4）。料金納郵便のため、封筒が使用された年月日は不明である。

封筒に納められた資料は佐原城山遺跡の調査や遺物に関するもので複数に分かれている。



写真4 赤星ノート封筒

資料①：1972（昭和47）年に行われた佐原城山遺跡を含む周辺遺跡の踏査メモと、その際採取された磨製石斧の簡略な実測図および写真である。メモと石斧実測図はB5サイズの用紙に書かれているが、全てコピーであり、原本は所在不明である。

資料②：1976（昭和51）年に行われた佐原城山遺跡発掘調査の野帳である。B5サイズの反放紙17枚の短辺をホチキス止めたもので、元々は県内の個人や寺社、学校などが所蔵する文化財を集成したリスト表だったようであるが、その裏面を利用している。13枚目までに調査時のメモや略図、出土遺物の簡易な実測図が記載されている。

資料③：上記の佐原城山遺跡発掘調査で出土した弥生土器の実測図と拓本、および土師器の実測図である。A3用紙にほぼ原寸で描かれているが、コピーであり原因は所在不明である。

資料④：「神奈川県内出土遺物所蔵者調査表」および「神奈川県内主要遺物調査表」と題された2枚のB5用紙であり、資料③の出土遺物について記載されている。

資料⑤：B5サイズの厚紙に貼られた佐原城山遺跡の遠景写真である。

資料⑥：1976（昭和51）年の発掘調査を伝える同年3月24日付神奈川新聞の切り抜きである。B5サイズの厚紙に記事が貼付されている。

2. 記載資料の整理

〔遺跡・遺物概要〕

佐原城址および佐原城山遺跡（第7図）

佐原城址は、横須賀市佐原3丁目1221番地、久里浜港に注ぐ平作川の支流佐原川（岩戸川）右岸の舌状台地に位置する。鎌倉時代の御家人三浦氏の一門で、源頼朝に仕えて治承・寿永の乱で武功を挙げた佐原十郎

と流連(？～1192？)の居城と伝わる。当地は横浜横須賀道路建設などで土地の変形が著しく、城に伴う遺構は確認しにくい、周辺には「殿入」など、城を思わせる地名が残る(横浜賀考古学会 2009)。

佐原城址に指定されている台地は同時に佐原城山遺跡として弥生～古墳時代の遺物包蔵地として認知されており、1976(昭和51)年3月、台地中央の平坦面(通称:台畑)に東京電力の送電鉄塔が建設されることとなり、鉄塔建設予定地で佐原城山遺跡調査団による事前の発掘調査が行われた。資料②～⑥はそれに関連するものである。



第7図 遺跡位置図(S=1/20000) 横浜賀市教委1993より

資料①: 佐原城山遺跡踏査メモ、遺物写真・実測図(第8図)

資料①の記入者は竹沢義氏であり、おそらく踏査後に記録したメモをコピーし、赤星氏に渡したものと考えられる。

1972(昭和47)年9月23日正午頃から18時半頃まで、佐原城山遺跡(佐原城址)から茅山貝塚を経て八幡社までを踏査し、各所で遺物採取したことが記録されている。

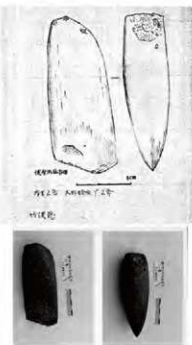
佐原城山遺跡での記載は、石斧が採取されたことに重点が置かれているが、「土師器 須臾器 細片」が採取されたことにも触れている。その後、八幡社で「ハニワ片」を採取したとの記載があり、赤鉛筆でその部分に囲みがされている。これらの記録から、この八幡社は現在の久里浜2丁目17に所在し、境内に八幡神社古墳群が存在する八幡神社であることがわかる。

なお本資料はコピーされた同じものが2部あり、ホチキスで1つに留められているが、1部目の左上にだけ「宇内さん」と書かれ、後から二重線で消していることから、本来、1部は宇内氏に贈られるはずだったものが、何らかの理由で手元に残ったのであろうか。

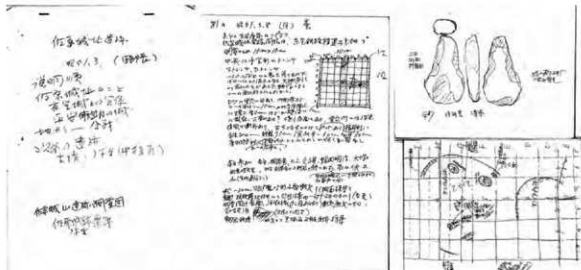
資料②: 佐原城山遺跡調査野帳(第10図)

1976年3月8日(日)より開始された佐原城山遺跡発掘調査の記録であり、赤星氏本人が現場で使用していたものと考えられる。

3月8日から13日(十)までの調査進捗や、調査区平面略図が描かれ、弥生時代の住居(1・2号住居)についての調査状況が詳細に残されている。しかし、14日～20日まで赤星氏は不在であったらしく記録がなく、また21日(日)に現場へ顔を出して以降の記述も存在しないため、後述の資料③の土師器9点が出土した5・6号竪穴住居についての調査状況は把握できない。



第8図 資料①踏査記録類

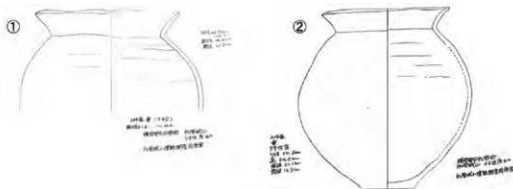


第9図 資料②佐原城山道跡発掘調査野帳（一部）

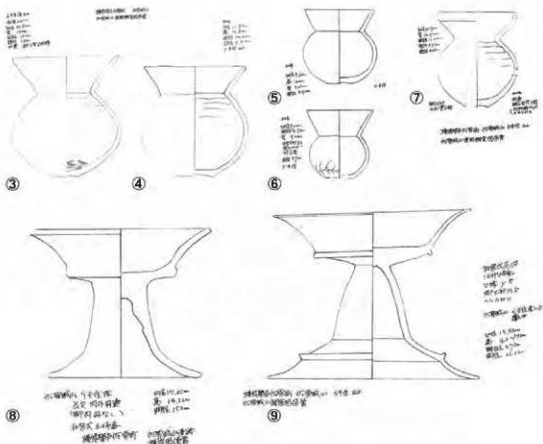
資料③：弥生土器拓本・実測図、土師器実測図（第10・11図）

弥生土器、土師器共に資料②の1976年の調査で出土した遺物である。弥生土器については割愛するが、皿形土器2点の実測図の他、破片の拓本数点が貼付されており、いずれも中期後半の宮ノ台式に相当する。この内の1点は『神奈川県史 資料編20 考古資料』に図版468として掲載されている資料である。

土師器の実測図は広口壺（原紙に「壺」と記載。現在は「甕」と呼ばれるもの）2点、小型埴4点、土師器ハソウ1点、高坏2点である。広口壺2点（①②）はいずれも5号住居床面出土とされ、短頸でクビレの屈曲が強い「く」の字を呈し、球形胴である。調整はほとんど記載されていない。「和泉式」とあるように、今日では古墳時代中期の資料と考えられる。小型埴は、口縁のやや長い③が6号住居出土である以外は5号住居出土である。⑦は胴部中央に穿孔されており、形態は極めて単純化されているが、おそらく須恵器ハソウを模しているものと思われる。中期前半の遺物と見て良い。⑨はいわゆる有段高坏である。受部中段及び脚部裾に段状の意匠を持ち、脚部幅は受部より大きい。神奈川県内の出土例については山口正憲氏による検討がなされており（山口 2000）、本資料は山口氏の言うⅢB式に相当する。埼玉県北部地域に出土地域がかなり集中するものの、神奈川県内西部や静岡県、長野県にも分布し出土例は比較的多い。



第10図 資料③佐原城山道跡出土土器実測図



第11図 資料④佐原城山遺跡出土遺物実例図

これらの資料は「床直上」との記載があり、極めて一括性の高い資料である。小型丸底壇が残存し胴部の丸い壺が伴うことから古墳時代中期前半にあたと考えられる(長谷川 1998)。

資料④「神奈川県内出土遺物所蔵者調査表」および「神奈川県内主要遺物調査表」(第12図)

両用紙左上に「県史考古資料」とあるので、『神奈川県史 資料編20 考古資料』を編纂するにあたり掲載候補を集めたリストと見られる。資料③の遺物を記載しているが、これら古墳時代遺物はいずれも『県史』や『横須賀市史』には掲載されていない。

資料⑤佐原城山遺跡透景写真(写真5)

台紙右下に風景略図と注記がなされている。これによると撮影年月日は「昭和52(1977)年10月10日」で「佐原御霊社から見た佐原城山」として手前から奥へ向かって「聖徳院のある西側丘」「城山」「東側の丘」と3つの舌状台地を記載している。佐原3丁目の御霊神社から東方を撮影したとわかるが、現在は横浜横須賀道路が両面中央を横切り台地を大きく改変しており、当時の面影を把握しづらい(写真5下段)。

資料⑥3月24日付 神奈川新聞切抜(第13図)



第12図 資料④出土遺跡調査表



写真5 資料⑥遺跡遠景（上：資料 中：竝大
下：ほぼ同地点から見た現在の様子）



第13図 資料⑥神奈川新聞記事

弥生中期の住居と遺物の出土を中心に報じているが、「古墳時代前期の五領式土師器一点が完全な形で見つかるなど、思わぬ収穫があった」との記載がある。資料③の一部を前期の遺物と誤認してしまったものなのか、これ以外に前期遺物の出土があったのかは不明だが、前者の可能性が高い。

【小結】

本資料、特に資料②③は、1976年の佐原城山遺跡発掘調査の様子を記録した第1次資料であり、実測図も未公表であるため、大変貴重なものを含む。また現在資料③の遺物は赤星忠直博士文化財資料館にすべて展示され見学可能である（写真6）。今後の活用が期待される良好な資料といえよう。

本稿執筆にあたり、稲村繁氏（横須賀市自然・人文博物館）、宇内正城氏（宇内建設株式会社）、齊藤彦司氏（赤星忠直博士文化財資料館）、鋸持輝久氏（同資料館）より、多大なご助勢を賜りました。心より御礼申し上げます。（長友）

連携・遺物概要の引用・参考文献

神奈川県民部県史編纂室 1979『神奈川県史資料編20考古資料』

長谷川厚 1998「古墳時代中期土器分析への一視点」『神奈川考古』第34号 神奈川考古人会

山口正憲 2000「古墳時代中期の右段高坏について」『青山考古』

第17号 青山考古学会

横須賀市 2010『新横須賀市史 別編 考古』

横須賀考古学会 2009『横須賀考古学事典』

横須賀市教育委員会 1993『埋蔵文化財分布地図・地名表』



写真6 資料③遺物の保管状況
（赤星忠直博士文化財資料館所蔵）

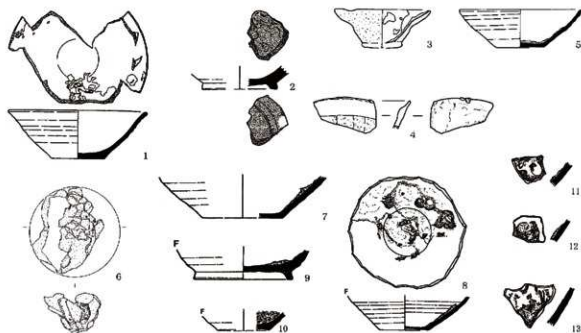
神奈川県における古代の鉄(5)

— 生産関連遺構・遺物の集成 —

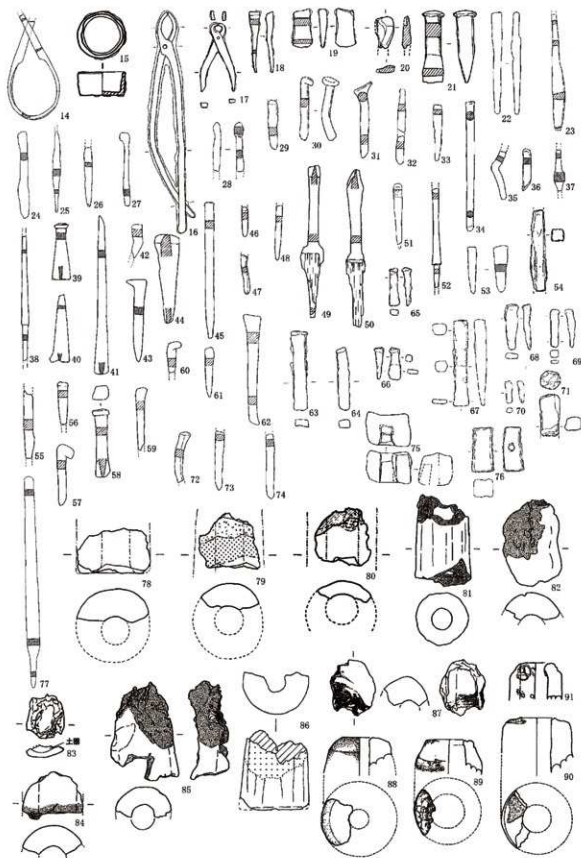
奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

1. はじめに

奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、2009年3月に刊行された『湘南新道関連遺跡Ⅳ』に掲載された鍛冶関連遺構に触発され、古代の鉄について再度研究していくことになった。鉄製品は破損・欠損しても貴重な原料として再利用される確率が高く、たとえ再利用されなくても土器や石器と違い長い年月地中にあると、腐蝕が進み遺存していない場合も多い。そこで2010年度から県内各地で出土した鉄生産に関連する遺物が、どのような規模、施設で生産行為が行われていたのか、地域差があるのか明らかにすることを目指して集成を開始した。一昨年度までは関連遺物についての集成を行ってきたが、昨年度は遺物から離れ、鉄生産関連遺構を掲載した。当初、鉄滓については主に碗形滓を中心に掲載し、遺構内であっても単独で出土した小鉄滓は除いていた。しかしながら、小鉄滓の基準が曖昧であることや、碗形滓と報告者が判断していないが碗形を呈しているもの、報文のみで掲載しているもの、小型の鉄滓が集中する遺構等が存在していた。その点を踏まえ、全点掲載することにした。精査していく中で、平塚市域のデータの欠落や、掲載情報の不備、および新規のデータが多いことが判明した。そのため今年度は補遺と、ここで得られたデータを元にした分析に着手したいと考えていたが、平塚市域の集成を完成することを優先した。また、誌面の都合上、他市のデータまでは掲載できなかったため、次年度に補遺とともに集成を行うことになった。掲載遺物の縮尺はすべて1/4、遺構については1/120である。



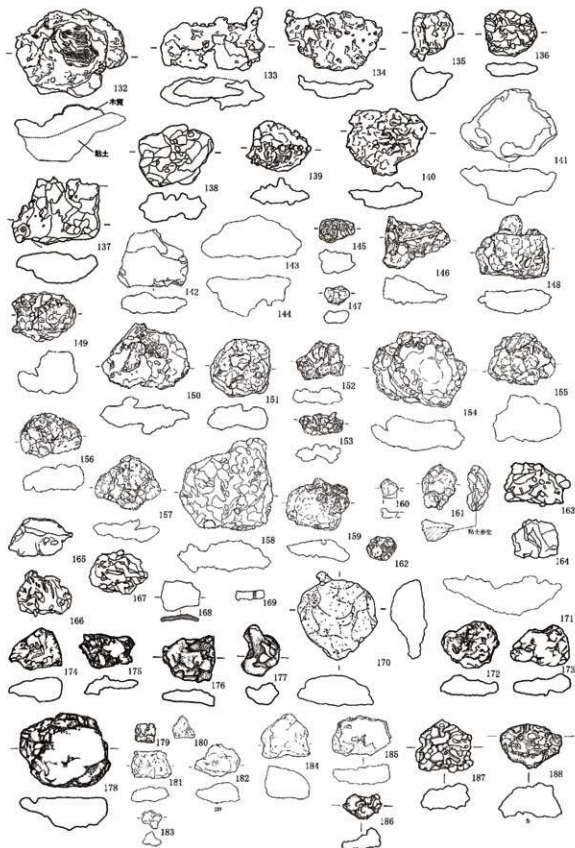
第1図 鉄生産関連遺物1



第2図 鉄生産関連遺物2

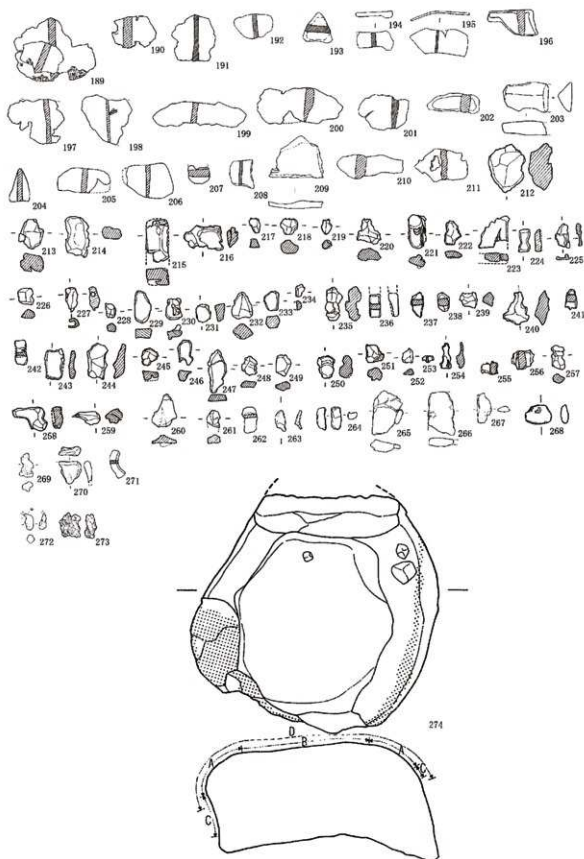


第3図 鉄生産関連遺物3



第4図 鉄生産関連遺物4

神奈川県における古代の鉄(5)



第5図 鉄生成関連遺物 5



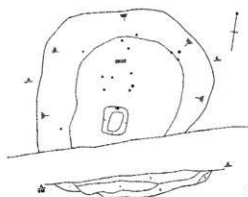
275



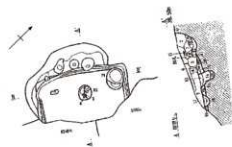
276



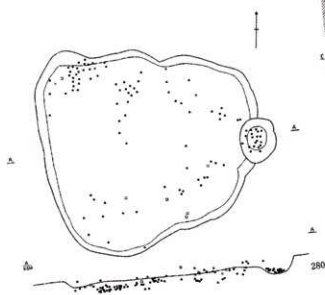
277



278



279



280

第6図 飲生産関連遺構 1

【埴輪・取懸】

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						口径	器高	底径			
1	取瓶	坪ノ内遺跡 第5地点	SB01	-	1/3	14.8	5.1	5.6	9世紀後半～ 10世紀前半頃	須恵器 南多摩産	中嶋由紀子他2013『坪ノ内遺跡 - 第5地点 -』平塚市文化財シリーズ46 平塚市教育委員会
2	取瓶		SE01	-	1/4以下	-	(2.4)	[8.0]	8世紀前半～ 末	灰釉陶器 内面と外面に鉄付着一割れた瓶を取瓶として使用	
3	取瓶	六ノ城遺跡	SI05	-	1/4	(10.2)	4.0	4.3	下郷編年13期	銅浮付着	小島弘義他1987『真土六の城遺跡 II』平塚市埋蔵文化財シリーズ3 平塚市教育委員会 大野小学校遺跡発掘調査団
4	取瓶		SI06	-	-	-	-	-	下郷編年9期	瓶文のみ 1点	
5	取瓶		SB01	-	口縁破片	-	-	-	-	-	
6	取瓶	山王B遺跡	SI05	覆土	2/3	13.0	4.0	5.0	下郷編年11期	-	榎野高伯1987『四之宮山王B遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ4 平塚市教育委員会 平塚市遺跡調査会
7	取瓶		遺構外	覆土	1/2	9.6	4.2	-	-	-	
8	取瓶	山王B遺跡 第9地点	SI01	覆土	1/4以下	-	-	(6.6)	-	銅浮付着	菅沼圭介他2001『山王B遺跡第9地点』『遠藤遺跡地発掘調査報告書』平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
9	取瓶		SI01	床面	ほぼ完形	(12.7)	(3.5)	5.2	-	銅浮付着	
10	取瓶		SI01	覆土	1/4以下	-	-	(7.8)	-	銅浮付着	
11	取瓶		SI02	覆土	1/4以下	-	-	(5.4)	-	銅浮付着	
12	取瓶		SI02	覆土	1/4以下	-	-	-	-	銅浮付着	
13	取瓶		SI02	覆土	1/4以下	-	-	-	-	銅浮付着	
	取瓶	神明久保遺跡 第3地区	19号壺穴	-	-	-	-	-	-	2個 19.4g	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団
	取瓶		20号壺穴	-	-	-	-	-	-	10個 101.1g	
	取瓶		22号壺穴	-	-	-	-	-	-	4個 142.8g	
	取瓶		25号壺穴	-	-	-	-	-	-	6個 51.5g	
	取瓶		26号壺穴	-	-	-	-	-	-	4個 16.1g	
	取瓶		30号壺穴	-	-	-	-	-	-	37個 198.4g	
	取瓶		33号壺穴	-	-	-	-	-	-	1個 12.7g	
	取瓶		35号壺穴	-	-	-	-	-	-	1個 11.6g	
	取瓶		56号壺穴	-	-	-	-	-	-	20個 92.1g	
	取瓶		59号壺穴	-	-	-	-	-	-	15個 78.0g	
	取瓶		60号壺穴	-	-	-	-	-	-	2個 49.5g	
	取瓶		61号壺穴	-	-	-	-	-	-	5個 27.6g	
	取瓶		62号壺穴	-	-	-	-	-	-	3個 94.3g	
	取瓶		63号壺穴	-	-	-	-	-	-	1個 13.6g	
	取瓶		67号壺穴	-	-	-	-	-	-	5個 36.5g	
	取瓶		68号壺穴	-	-	-	-	-	-	1個 1.0g	
	取瓶		69号壺穴	-	-	-	-	-	-	85個 794.4g	
	取瓶		71号壺穴	-	-	-	-	-	-	5個 32.2g	
	取瓶		71b号壺穴	-	-	-	-	-	-	8個 44.8g	
	取瓶		72号壺穴	-	-	-	-	-	-	1個 10.5g	
	取瓶		77号壺穴	-	-	-	-	-	-	4個 30.6g	
	取瓶		78号壺穴	-	-	-	-	-	-	1個 3.0g	
	取瓶		18号土坑	-	-	-	-	-	-	1個 25.0g	

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						口徑	器高	底徑			
	取瓶		30号土坑	-	-	-	-	-		12個 53.5g	
	取瓶		50号土坑	-	-	-	-	-		10個 48.6g	
	取瓶		58号土坑	-	-	-	-	-		1個 3.4g	
	取瓶		62号土坑	-	-	-	-	-		1個 4.0g	
	取瓶		94号土坑	-	-	-	-	-		1個 7.1g	
	取瓶		113号土坑	-	-	-	-	-		1個 8.0g	
	取瓶		157号土坑	-	-	-	-	-		1個 18.2g	
	取瓶	神明久保遺跡	1号井戸	-	-	-	-	-		2個 23.3g	
	取瓶	第3地区	D-5道状遺構	-	-	-	-	-		2個 7.2g	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団
	取瓶		C-5グリッド	-	-	-	-	-		3個 19.5g	
	取瓶		C-6グリッド	-	-	-	-	-		31個 341.5g	
	取瓶		C-7グリッド	-	-	-	-	-		15個 107.9g	
	取瓶		D-7グリッド	-	-	-	-	-		1個 5.5g	
	取瓶		E-5グリッド	-	-	-	-	-		1個 23.2g	
	取瓶		E-7グリッド	-	-	-	-	-		1個 2.6g	
	取瓶		不明	-	-	-	-	-		3個 34.1g	
	取瓶	天神前遺跡	遺構外	-	底部破片	-	-	-	-	灰釉陶器輪転用 銅洋付着	明石新他1992『天神前遺跡 - 第7地点 -』平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集 平塚市教育委員会
	取瓶		遺構外	-	口縁破片	-	-	-	-	灰釉陶器輪転用 銅洋付着	

【鉄製品】

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						口徑	器高	底徑			
14	鉄	天神前遺跡	6号竪穴住居址	床面	ほぼ完形	(11.3)	5.50	0.40	9世紀後半	26.6g 外側に刃がつく	明石新1992『天神前遺跡 - 第7地点 -』平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集 平塚市教育委員会
15	鉄製の埴	向原遺跡	108号竪穴住居址	覆土	-	口徑 3.4	底徑 3.1	器高 1.7	-	器厚: 0.3cm 内面に内板を張り付けたもので、底部内面に銅付着。部分的に緑青あり	中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
16	鉄鉚	大会原遺跡	遺構外	-	-	23.4	3.6	0.7	-	重量137.2g 鉄製	依田亮一他2009『湘南新道開通遺跡 II』(大会原遺跡・六ノ城遺跡)かながわ考古学財団調査報告 242 財団法人 かながわ考古学財団
17	鉄鉚	六ノ城遺跡	NB1号住居	-	-	7.2	3.6	1.5	-	重量27.1g 鉄製	
18	鋳あらいは型		39号竪穴住居址	覆土	完存	6.6	1.1	0.7	9世紀後半～10世紀頃		
19	鋳または模		39号竪穴住居址	覆土	完存	4.1	2.0	0.8	9世紀後半～10世紀頃		
20	鋳状工具	向原遺跡	39号竪穴住居址	覆土下層	頭部剥落	3.50	先: 1.7 基: 0.7	先: 0.3 基: 0.7	9世紀後半～10世紀頃		中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
21	鋳		遺構外	J10区	-	7.6	頭部 2.3×2.3 身部 1.5×1.6	先端 2.2			
22	鋳	坪ノ内遺跡 第2地区	1号竪立柱建物址	-	-	11.0	1.1	1.1	下郷編年4期		小島弘義他1989『坪ノ内遺跡』平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書2 平塚市教育委員会
23	鋳状工具	六ノ城遺跡 第2区	23号竪穴住居址	-	-	身部 (7.9) 基部 (4.5)	身部1.3 基部0.5	身部0.8 基部0.5	9世紀後半～10世紀初頃		小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
24	甕	六ノ城遺跡 第3地点	21号独立柱建物址			9.3	1.0	0.8	下郷編年14期		小島弘義他1986『真土六ノ城遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ1 大野小学校遺跡発掘調査団
25	甕か		14号竪穴住居址			8.7	1.0	0.7			
26	甕		16号竪穴住居址			6.2	1.0	0.4			
27	甕か・釘か	六ノ城遺跡 第4地点	22号独立柱建物址			7.7	0.8	0.7	下郷編年5期		小島弘義他1987『真土六ノ城遺跡 II』平塚市埋蔵文化財シリーズ1 大野小学校遺跡発掘調査団
28	甕状 鉄製品		25号竪穴住居址			(5.3)	0.7	0.9			
29	甕		10号竪穴住居址			(5.4)	1.1	1.1			
30	甕	四之宮高林寺 第1地区	11号竪穴住居址			6.8	頭部1.7 幹部0.7	頭部0.7 幹部0.9	9世紀後半～ 10世紀初頭	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団	
31	甕		3号溝状遺構			8.2	頭部1.7 幹部0.8	頭部0.2 幹部0.8	7世紀～ 11世紀		
32	甕		14号竪穴住居址	-	-	(8.0)	0.7	0.7	下郷編年15期		
33	甕	四之宮高林寺 第3地点	遺構外	-	-	6.0	1.0	0.5		断面が長方形を呈し、先端部が丸みをもつ	小島弘義他1985『四之宮高林寺 II (第3地点)』平塚市埋蔵文化財調査報告書第2集・平塚市教育委員会
34	甕	四之宮高林寺 第4地区	SI15	覆土	完形	13.8	0.9	0.9	8世紀後半		小島弘義他1986『四之宮高林寺 III (第4・5地区)』平塚市埋蔵文化財シリーズ2・平塚市遺跡調査会・高林寺遺跡発掘調査団
35	甕		SI16	床面	頭部欠損	(5.2)	0.8	0.5	9世紀前半		
36	甕		SD02	上層	完形	4.5	0.9	0.6	8世紀後半		
37	甕		SD02	-	両端欠損	(4.8)	1.1	1	8世紀後半		
38	甕	四之宮高林寺 第7地点	SI08			13.02	0.50	0.32			小島弘義他1988『四之宮高林寺 第7地点』『諏訪前B・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ6・平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
39	甕		区画溝			5.98	1.83	0.51			
40	甕		SA02			7.12	2.08	0.38			
41	甕		遺構外			16.88	1.61	0.66			
42	甕か	天神前遺跡	SX01	床面	1/2	3.7	1.1	0.8	9世紀後半		明石新他1992『天神前遺跡 - 第7地点 -』平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集・平塚市教育委員会
43	甕	諏訪前A遺跡	SI02	覆土	完形	8.81	1.06	0.83	下郷10期		小島弘義他1987『四之宮諏訪前A』平塚市埋蔵文化財調査報告書第4集・平塚市教育委員会
44	甕	諏訪前A遺跡 第2地区	遺構外	覆土	完形	9.5	2.7	1.1			小島弘義他1989『諏訪前A遺跡 第2地区』平塚市埋蔵文化財調査報告書第6集・平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
45	甕	諏訪前A遺跡 第3区	1号独立柱建物址			14.8	0.9	0.8	9世紀後半		小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
46	甕	諏訪前A遺跡 第4区	6号井戸址			(3.3)	0.7	0.7	8世紀		小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
47	甕		11号井戸址			(4.3)	0.6	0.6	8世紀		
48	甕		48号ピット			(6.0)	0.7	0.6			
49	甕	諏訪前B遺跡 第4地区	14号竪穴住居址			(15.8)	2.5	2.1	下郷4期		小島弘義他1989『諏訪前B (第4地区) 遺跡』『諏訪前B・大隅橋遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ13・平塚市教育委員会
50	甕		18号竪穴住居址			(16.6)	1.7	2.1			
51	甕		18号竪穴住居址			(6.5)	0.9	0.8	下郷5期		
52	甕		18号竪穴住居址			10.5	1.0	0.8			
53	甕	山王B遺跡	SI01	覆土	完形	4.96	1.19	0.87	下郷編年11期		細野高伯1987『四之宮山王B遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ4・平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
54	甕	構之内遺跡 A地区	包含層			8.65		1.2	10世紀前半	重量36.3g	河合英夫他1994『構之内遺跡発掘調査報告書』三共株式会社

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
55	竪か	神明久保遺跡 第1地区	B-4号竪穴住居址	-	-	(7.2)	1.0	1.1	9世紀	重量17.0g 棒状。	明石新他1991『神明久保遺跡～第1地区～』平塚市埋蔵文化財シリーズ19 平塚市教育委員会
56	竪		B-1号溝状遺構	-	-	(4.6)	1.1	0.7	9世紀以降	重量14.4g 頭部が潰れている	
57	竪		遺構外	-	-	6.5	1.0	0.9	-	重量26.6g	
58	竪		遺構外	-	-	7.3	1.6	0.8	-	重量37.4g 頭部は方形	
59	竪か		遺構外	-	-	(6.7)	1.1	1.1	-	重量16.8g	
60	竪	神明久保遺跡 第2地区	遺構外	-	-	(3.4)	0.9	0.9	-	重量9.6g	小島弘義他1989『神明久保遺跡』『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告2』平塚市教育委員会
61	竪		5号竪穴住居址	-	-	5.3	1.0	1.0	下郷編年11期	-	
62	竪	神明久保遺跡 第3地区	19号竪穴住居址	-	-	11.9	1.9	1.9	下郷編年9・10期	-	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡～第3地区～』神明久保遺跡調査団
63	竪	神明久保遺跡 第3地区	59号竪穴住居址	-	-	8.0	1.6	1.0	-	重量54.0g	
64	竪か	神明久保遺跡 第3地区	71号土坑	-	両端欠損	6.8	1.1	0.8	-	重量28.0g 傾きに曲がり	近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告第102冊 財団法人かながわ考古学財団
65	竪	神明久保遺跡 第9地点	186号竪穴建物	-	完存	4.0	0.8	0.6	-	重量2.3g 刃部断面は鋭角のV字 打頭面 模の可能性あり	
66	竪か		188号竪穴建物	-	完存	3.4	1.3	0.7	-	重量7.3g 刃部断面は若干丸みをもつV 字状 打頭面あり	
67	竪		遺構外	-	-	9.1	1.5	1.2	-	重量59.3g 刃部断面V字 重量感あり	
68	竪		遺構外	-	-	(4.8)	1.3	0.5	-	重量11.2g 刃部断面V字 打頭部あり	
69	竪		遺構外	-	-	4.0	0.9	0.7	-	重量7.8g 刃部やや丸みあり	
70	竪状		遺構外	-	-	3.0	1.1	0.6	-	重量1.1g 刃部?	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
71	竪		遺構外	-	-	4.4	2.0	2.0	-	重量65.8g 竪の柄 頭部か	
72	竪	四ノ城遺跡	遺構外	-	-	(5.5)	1.0	1.0	-	-	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
73	竪	表見堂B遺跡 第12区	1号溝状遺構	-	-	(6.4)	0.9	0.7	-	-	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
74	竪	五合屋敷遺跡 第33区	SI01 3号ピット	-	-	(7.0)	0.9	0.7	-	-	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
75	金銀	天神前遺跡	不明遺構 SX01	覆土下層	完形	4.8	3.5	3.5	9世紀前半	-	上原正人他1992『天神前遺跡～第6地点～』『天神前・桜畑遺跡 他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
76	鍬か	真田・北金目遺跡	60A区 SI003	カマド	-	4.6	2.1	1.7	8世紀後半～ 9世紀前半	側面に円形の差し込み口のような痕跡あり	若林勝司他2013『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書』10 平塚市真田・北金目遺跡調査会
77	鍬	四之宮高林寺 第4地区	SI10	-	-	全長 22.5	身 19.5	幅 1.4	8世紀前半	厚み0.7cm、無角式 基は3.0cm 目は確認できないがすり状製品としている	小島弘義他1986『四之宮高林寺 Ⅲ (第4・5地区)』平塚市埋蔵文化財シリーズ2 平塚市遺跡調査会 高林寺遺跡発掘調査団

【羽口】

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
	羽口	向原遺跡	101号竪穴住居址	カマド 崩壊土	-	-	-	-	-	1点	中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
	羽口		113号竪穴住居址	覆土中層	-	-	-	-	-	1点	

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	羽口	向原遺跡	136号竪穴住居址	覆土下層	-	-	-	-	-		1点	中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
	羽口		155号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	-		1点	
78	羽口		201号竪穴住居址	覆土	-	4.8	7.6	2.0	-		外径4.0cm、溶融化し、青灰色を示す	
79	羽口		207号竪穴住居址	覆土	-	5.6	6.0	2.6	-		外径5.7cm、溶融化している	
	羽口		155号掘立建物遺構 P3	覆土	-	-	-	-	-		口辺部	
80	羽口		遺構外	P10・11区	-	6.0	5.6	1.4			推定外径3.7cm、同孔径1.6cm、口辺部は溶融化し、暗青灰色を呈する	
81	羽口	坪ノ内遺跡第5地点	SI03	-	-	9.8	5.9	5.8	243.4	8世紀第1四半期～第2四半期	鉄滓付着	中嶋由紀子他2013『坪ノ内遺跡 - 第5地点 -』平塚市文化財シリーズ46 平塚市教育委員会
82	羽口		SI03	-	1/4以下	9.3	5.9	2.9	112.0	8世紀第1四半期～第2四半期	鉄滓付着	
83	羽口		SB01	-	1/4以下	4.7	4.0	1.1	20.4	9世紀後半～	羽口または炉壁か	
84	羽口		SB01	-	1/4以下	4.3	6.6	3.0	60.4	10世紀前半	外面鉄滓付着	
85	羽口		SB01	-	1/4以下	10.4	6.0	2.4	119.8		外面鉄滓付着	
86	羽口	坪ノ内遺跡第11地点	第1号溝状遺構			7.6	6.40	1.1	244.9	11世紀第1四半期	金属滓付着	上原正人他2008『神奈川県平塚市 坪ノ内遺跡 - 第11地点 -』テイクレード株式会社
	羽口	四之宮高林寺第7地点	SK02	-	-	-	-	-	-		2点出土	小島弘義1988『四之宮高林寺遺跡(第7地区)』『諏訪前B・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ6 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
87	羽口	山王A遺跡第5地点	1号井戸址	覆土中層		6.2	5.0	-	-		先端部被熱により溶解	押本弘己2003『神奈川県平塚市 山王A遺跡 - 第5地点 -』平塚市埋蔵文化財調査報告書第16集 平塚市教育委員会
88	羽口	山王B遺跡第9地点	SI01	覆土		-	-	-	62.4			菅沼圭介他2001『山王B遺跡第9地点』『遠藤遺跡他発掘調査報告書』平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
89	羽口		SI02	床面		-	-	-	21.6			
90	羽口		SX02	覆土		-	-	-	63.8			
91	羽口	天神前遺跡第3地区	SI03	覆土		9.0	5.0	-	-	7世紀後半		小島弘義1988『天神前遺跡 - 第3地区 -』『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書1 昭和61年度発掘調査の報告』平塚市教育委員会
92	羽口	天神前遺跡第6地点	不明遺構 SX01	覆土	1/4以下	5.8			29.2	9世紀前半		上原正人他1992『天神前遺跡 - 第6地点 -』『天神前・板垣遺跡 他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
	羽口	天神前遺跡第7地点	2号竪穴住居址	覆土中層						9世紀後半	22点2618g(鉄滓41点含む)	明石新他1992『天神前遺跡 - 第7地点 -』平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集 平塚市教育委員会
93	羽口	諏訪前B遺跡	SD02	覆土		7.2	4.7	3.1	73.0			小島弘義他1982『諏訪前B遺跡』『諏訪前B・六ノ城』平塚市遺跡調査会 諏訪前B・六ノ城遺跡発掘調査団
94	羽口		SD02	覆土		5.4	4.7	3.6	40.0		羽口部残存	
95	羽口	神明久保遺跡	20号竪穴	C・D-5-6区	上半1/3	5.6	7.0	3.5	100.0		先端部解化、表面亀裂	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
96	羽口	神明久保遺跡	78号竪穴	B-6~7区	上半1/3	7.7	6.3	5.7	195.0	先端溶解化	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団
97	羽口		86号竪穴	C-7区	先端欠損	11.3	8.4	7.0	440.0	表面縦方向へ3状態形成 先端溶解化	
98	羽口		C-6グリッド		先端欠損	7.1	7.3	7.1	290.0	先端溶解化、表面亀裂	
99	羽口	真田・北金目遺跡	126区遺構外	覆土	-	4.0	5.8	1.0	-	外面に鉄付着	若林勝司他2010『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 平塚市真田・北金目遺跡調査会
100	羽口	真田・北金目遺跡	60A区S1018	覆土	-	5.4	4.6	3.0	-	割れ口に鉄分付着	若林勝司他2013『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 平塚市真田・北金目遺跡調査会
	羽口	新町遺跡第3地点A地区	-	-	-	-	-	-	-	覆文のみ	平塚市教育委員会1998『新町遺跡第3地点A地区発掘調査概要』新町遺跡第3地点A地区発掘調査団

【鉄滓】

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
	鉄滓	向原遺跡	66号竪穴住居址	覆土上層	-	-	-	-	43.0	8世紀後半	1点
	鉄滓		96号竪穴住居址	覆土下層	-	9.0	5.0	3.5	104.0		椀形滓
	鉄滓		101号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	40.0	10世紀前半~中	1点
	鉄滓		104号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	343.8		5点
	鉄滓		104号竪穴住居址床下土坑P1	覆土	-	-	-	-	24.0		1点
	鉄滓		105号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	1016.6		8点
	鉄滓		105号竪穴住居址	覆土	-	8.5	6.5	2.5	168.0	10世紀前半~中	椀形滓
	鉄滓		105号竪穴住居址	覆土	-	7.0	7.0	2.1	120.0		椀形滓
	鉄滓		105号竪穴住居址	覆土	-	10.0	11.0	3.5	350.0		椀形滓
	鉄滓		106号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	1855.7		14点
	鉄滓		106号竪穴住居址	覆土	-	9.0	8.0	3.0	279.0		椀形滓
	鉄滓		106号竪穴住居址	覆土	-	8.0	6.5	2.2	120.0		椀形滓
	鉄滓		106号竪穴住居址	覆土	-	8.0	7.0	1.8	143.0		椀形滓
	鉄滓		106号竪穴住居址	覆土	-	8.0	6.5	2.0	186.0		椀形滓
	鉄滓		112号竪穴住居址	覆土	-	9.0	8.0	1.8	181.0		椀形滓
	鉄滓		114号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	3.5	8世紀後半	1点
	鉄滓		118号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	46.0		1点
	鉄滓		121号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	13.2		1点
	鉄滓		122号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	53.0		1点
	鉄滓		136号竪穴住居址	確認面	-	11.5	10.0	3.4	486.0		椀形滓
	鉄滓		139号竪穴住居址	覆土上層	-	-	-	-	11.5		1点
	鉄滓		149号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	71.0	10世紀前半~中	2点
	鉄滓		155号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	2.9	8世紀後半	1点
	鉄滓		173号竪穴住居址	覆土	-	7.0	6.5	2.5	133.0		椀形滓
	鉄滓		189号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	773.0		鉄滓2点
	鉄滓		189号竪穴住居址	覆土	-	11.5	10.0	4.4	579.0	8世紀後半	椀形滓

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	鉄滓	向原遺跡	199号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	548.2	10世紀前半～	多量に出土	中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
	鉄滓		199号竪穴住居址	覆土	-	8.0	6.0	1.0	93.5	中	椀形滓	
	鉄滓		201号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	22.0	10世紀前半～	1点	
	鉄滓		223号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	46.5	中	1点	
	鉄滓		224号竪穴住居址	覆土	-	-	-	-	26.0	8世紀後半～	2点	
	鉄滓		135号竪立柱建物遺構 P1	覆土	-	6.0	6.0	3.5	119.5	9世紀前半	椀形滓	
	鉄滓		135号竪立柱建物遺構 P 66	覆土	-	10.0	9.0	2.4	300.0		椀形滓	
	鉄滓		135号竪立柱建物遺構 P6	覆土	-	10.0	8.0	3.6	249.0		椀形滓	
	鉄滓		135号竪立柱建物遺構 P2	覆土	-	-	-	-	9.0		1点出土	
	鉄滓		135号竪立柱建物遺構 P6	覆土	-	-	-	-	454.0		多数出土	
	鉄滓		138号竪立柱建物遺構 P7	覆土	-	8.0	7.0	2.8	169.5		椀形滓	
	鉄滓		138号竪立柱建物遺構 P7	覆土	-	-	-	-	187.0		椀形滓4点	
	鉄滓	厚木道遺跡第3地点	1号竪穴住居址	-	-	-	-	-	260.6	10世紀前半	鉄滓5点	若林壽司他1994『厚木道遺跡-第3地点-』平塚市埋蔵文化財調査報告書第11集 平塚市教育委員会
	鉄滓		2号竪穴住居址	-	-	-	-	-	3.6	10世紀前半	鉄滓1点	
	鉄滓		4号竪穴住居址	-	-	-	-	-	2.4	9世紀中葉	鉄滓3点	
	鉄滓		5号竪穴住居址	-	-	-	-	-	20	9世紀後半	鉄滓1点	
	鉄滓		7号竪穴住居址	-	-	-	-	-	43.6	9世紀後半	鉄滓2点	
	鉄滓		1号竪立柱建物址	-	-	-	-	-	1.4	9世紀後半	鉄滓1点	
	鉄滓		1号竪立柱建物址	-	-	-	-	-	0.4		鉄滓1点	
	鉄滓		1号竪立柱建物址 P10	-	-	-	-	-	0.4		鉄滓1点	
	鉄滓		1号土坑	-	-	-	-	-	10.4	9世紀後半	鉄滓1点	
	鉄滓		P113	-	-	-	-	-	2.8	9世紀後半	鉄滓1点	
	鉄滓		1号井戸	-	-	-	-	-	2.2	9世紀後半	鉄滓1点	
	鉄滓		遺構外	-	-	-	-	-	97.2	-	鉄滓2点	
101	鉄滓	厚木道遺跡第6地点	110号ピット	-	-	2.2	3.7	1.3	4.8			大野哲他2002『厚木道遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ36 平塚市教育委員会
102	鉄滓	坪ノ内遺跡第5地点	S101			7.4	6.7	2.7	140.2	8世紀前半	住居覆土中から534.0g出土	中嶋由紀子他2013『坪ノ内遺跡-第5地点-』平塚市文化財シリーズ66 平塚市教育委員会
	鉄滓		S102			-	-	-	-	9世紀後半	住居覆土中から71.0g出土しているが他遺構からの流れ込みの可能性大	
103	鉄滓		S103			9.6	9.3	3.7	368.2	8世紀第1四半期～	有機物質上面に付着	
104	鉄滓		S103			9.2	7.9	2.5	274.6	第2四半期		

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
105	鉄滓	坪ノ内遺跡 第5地点	SI03			8.3	6.8	2.7	230.8	8世紀第1四半期～ 第2四半期	下面に一部有機質付着	中嶋由紀子他2013『坪ノ内遺跡-第5地点-』平塚市文化財シリーズ46 平塚市教育委員会
	鉄滓		SI03			-	-	-	745.0		図化した以外の鉄滓の重量合計	
106	鉄滓		SB01			9.5	10.3	5.5	343.6	9世紀後半～ 10世紀前半頃		
107	鉄滓		SB01			7.1	8.7	3.3	245.2			
108	鉄滓		SB01			7.0	9.6	3.4	212.2			
109	鉄滓		SB01			6.4	8.6	3.7	182.8			
110	鉄滓		SB01			7.0	8.8	2.0	205.0			
111	鉄滓		SB01			6.4	8.2	4.2	207.6			
112	鉄滓		SB01			5.8	6.2	2.9	88.0			
113	鉄滓		SB01			5.0	5.3	1.9	101.0			
114	鉄滓		SB01			8.6	10.4	3.3	259.6			
115	鉄滓		SB01			6.1	7.6	2.5	118.6			
116	鉄滓		SB01			5.6	8.8	1.7	84.8			
117	鉄滓		SB01			6.8	7.0	2.6	137.8			
118	鉄滓		SB01			4.8	7.5	2.3	100.6			
119	鉄滓		SB01			5.7	6.7	2.8	115.8			
120	鉄滓		SB01			5.8	6.5	2.5	104.6			
121	鉄滓		SB01			5.6	5.5	2.3	80.4			
122	鉄滓		SB01			5.4	6.0	1.5	60.0			
123	鉄滓		SB01			5.8	5.0	1.0	39.6			
124	鉄滓		SB01			4.1	5.1	1.4	41.0		木質付着	
125	鉄滓		SB01			4.9	4.2	1.5	32.6		裏面に木質付着	
126	鉄滓		SB02			4.0	5.0	4.0	108.0	8世紀中葉		
	鉄滓		SB03			-	-	-	-	8世紀代	綴文のみ	
127	鉄滓		SD01			8.0	9.1	3.9	276.4	9世紀中葉以降		
128	鉄滓		SD01			8.5	9.0	4.4	245.6			
129	鉄滓		SD01			5.8	8.7	3.7	164.4			
130	鉄滓		SD01			5.0	7.7	3.2	198.6			
131	鉄滓		SD01			5.9	7.0	2.0	107.6	9世紀中葉以降	綴文のみ	
	鉄滓		SD02			-	-	-	-			
132	鉄滓		SE01			9.0	11.7	6.0	279.2	8世紀前半～末	鉄の表面に木質と粘土（伊壁）が付着	
133	鉄滓		SE01			5.5	11.0	3.1	141.2	8世紀前半～末		
134	鉄滓		SE01			5.5	10.1	17	123.8	8世紀前半～末		
135	鉄滓		SE01			4.3	4.3	2.6	69.2	8世紀前半～末	全体に木質付着	
	鉄滓		SE01			-	-	-	-	8世紀前半～末	掲載鉄滓とは別に3069.6g出土	
136	鉄滓		SH01			4.7	5.4	0.9	46.2	古代		

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
137	鉄滓		P63ピット			7.0	9.2	2.8	168.8	古代	一部欠損	
138	鉄滓	坪ノ内遺跡	P63ピット			6.3	7.9	3	135.4	古代		中嶋由紀子他2013『坪ノ内遺跡～第5地点～』平塚市文化財シリーズ46 平塚市教育委員会
139	鉄滓	第5地点	P70ピット			4.9	6.3	2.7	81.2	古代		
140	鉄滓		遺構外			7.0	7.7	2.5	121.2	-		
	鉄滓	坪ノ内遺跡	-	-	-	-	-	-	22788.4		935点	柏木善治他2009『湘南新道開通遺跡Ⅳ』(六ノ城第14地点)かながわ考古学財団調査報告243 財団法人かながわ考古学財団
	鉄滓	六ノ城遺跡	1号住居址	-	-	-	-	-	-	7世紀後半	報文のみ	小島弘義他1982『六ノ城遺跡』『諏訪前B・六ノ城』平塚市遺跡調査会 諏訪前B・六ノ城遺跡発掘調査団
	鉄滓	六ノ城遺跡	遺構外	-	-	-	-	-	-		報文のみ	
	鉄滓	六ノ城遺跡	SI01	-	-	-	-	-	-	下郷編年13期古	報文のみ	1点
	鉄滓		SI02	-	-	-	-	-	-	下郷編年13期～14期	報文のみ	1点
	鉄滓		SI06	-	-	-	-	-	-	下郷編年9期	報文のみ	8点
	鉄滓		SI10	-	-	-	-	-	-	下郷編年7期	報文のみ	1点
	鉄滓		SI17	-	-	-	-	-	-	下郷編年11期	報文のみ	1点
141	鉄滓	六ノ城遺跡	2号型住居址	-	-	7.7	10.2	3.6	270.0	10世紀		上原正人他1992『六ノ城遺跡第8地点』『天神前・桜塚遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会
142	鉄滓	第8地点	9号ピット	-	-	6.0	7.1	2.3	105.0			
	鉄滓・銅滓・その他	六ノ城遺跡	-	-	-	-	-	-	1669.7		59点	依田亮一他2007『湘南新道Ⅰ』(大会原遺跡第4地点・六ノ城第14地点)かながわ考古学財団調査報告208 財団法人かながわ考古学財団
	鉄滓	六ノ城遺跡	1号鍛冶工房址	-	-	-	-	-	124540.9		7072点	柏木善治他2007『湘南新道開通遺跡Ⅲ』(六ノ城第14地点)かながわ考古学財団調査報告210 財団法人かながわ考古学財団
	鉄滓	六ノ城遺跡	-	-	-	-	-	-	5986.1	-	397点	柏木善治他2009『湘南新道開通遺跡Ⅳ』(六ノ城第14地点)かながわ考古学財団調査報告243 財団法人かながわ考古学財団
	鉄滓・銅滓・その他	大会原遺跡	-	-	-	-	-	-	7023.0		199点	依田亮一他2007『湘南新道Ⅰ』(大会原遺跡第4地点・六ノ城第14地点)かながわ考古学財団調査報告208 財団法人かながわ考古学財団
	鉄滓	四之宮高林寺第3地点	1号井戸址	-	-	-	-	-	-	-	-	小島弘義1985『四之宮高林寺Ⅱ(第3地点)』平塚市埋蔵文化財調査報告書第2集 平塚市教育委員会
	鉄滓(スラグ)	四之宮高林寺第7地点	SX01 1号炉	-	-	-	-	-	-	SX1の中に2基の炉あり。出土した鉄滓の多くは1号炉から。スラグ:498点、1,949g		小島弘義1988『四之宮高林寺遺跡(第7地点)』『諏訪前B・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ6 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
143	鉄滓	高林寺遺跡	SD01	礫土	-	10.5	6.7	4.7	300.0	古代末～中世		明石新他1992『高林寺遺跡第12地点』『平塚市埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』5 平成2年度発掘調査 平塚市遺跡調査会・平塚市教育委員会
144	鉄滓	第12地点	遺構外	礫土	-	8.8	7.9	4.2	270.0			

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	鉄滓	高林寺遺跡 第15区	SK03	-	-	-	-	-	-		1~12cmの大きさ のものが98点、 2,703g	小島弘義1984『四之宮下郷』平塚市遺跡調査会 神田・大野遺跡発 掘調査団
	鉄滓	天神前遺跡 第6地点	1号竪穴住居址	-	-	-	-	-		7世紀末~ 8世紀代	1点	上原正人他1992『天神前遺跡-第6地点-』『天神前・板垣遺跡-他』 平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査 会
	鉄滓		2号竪穴住居址	-	-	-	-	-	54.6	8世紀前半	1点	
	鉄滓		6号竪穴住居址	-	-	-	-	-	291.0	9世紀中葉	5点	
	鉄滓		11号竪穴住居址	-	-	-	-	-	336.8	8世紀前半	5点	
	鉄滓		不明遺構 SK01	-	-	-	-	-	-	9世紀前半	雑文のみ	
	鉄滓		1号竪穴住居址	-	-	-	-	-	4647.0	8世紀前後	215点	
	鉄滓		1号竪穴住居址	-	-	10.5	-	5.3	329.2		断面傾斜 窓前 同視載済みだが、 数値誤りの為再 掲載	
	鉄滓		1号竪穴住居址	-	-	10.6	-	5.3	275.6			
	鉄滓		1号竪穴住居址	-	-	10.3	-	2.8	171.8			
	鉄滓		2号竪穴住居址	覆土中層	-	-	-	-	-	9世紀後半	41点	
	鉄滓	天神前遺跡 第7地点	3号竪穴住居址	-	-	-	-	-	554.0	9世紀後半	-	明石新他1992『天神前遺跡-第7地点-』平塚市埋蔵文化財調査報 告書 第9集 平塚市教育委員会
	鉄滓		4号竪穴住居址	-	-	-	-	-	42.0	9世紀後半	3点	
	鉄滓		5号竪穴住居址	-	-	-	-	-	1302.0	9世紀前半	22点	
	鉄滓		6号竪穴住居址	-	-	-	-	-	2461.0	9世紀後半	38点	
	鉄滓		11号竪穴住居址	-	-	-	-	-	5.0	8世紀初頭	4点	
	鉄滓		12号竪穴住居址	-	-	-	-	-	31.4	8世紀初頭	1点	
	鉄滓		14号竪穴住居址	-	-	-	-	-	98.0	8世紀初頭	2点	
	鉄滓		15号竪穴住居址	-	-	-	-	-	35.0	9世紀中葉	1点	
	鉄滓		16号竪穴住居址	-	-	-	-	-	96.0	9世紀中葉	5点	
	鉄滓		17号竪穴住居址	-	-	-	-	-	475.0	8世紀前後	14点	
	鉄滓		18号竪穴住居址	-	-	-	-	-	877.0	8世紀前後	12点	
	鉄滓		19号竪穴住居址	-	-	-	-	-	252.0	8世紀初頭	4点	
	鉄滓		20号竪穴住居址	-	-	-	-	-	31.0	9世紀前後	7点	
	鉄滓		21号竪穴住居址	-	-	-	-	-	13.0	8世紀中葉	1点	
	鉄滓		26号竪穴住居址	-	-	-	-	-	63.0	9世紀中葉	2点	
	鉄滓		33号竪穴住居址	-	-	-	-	-	140.0	10世紀前後	2点	
	鉄滓		39号竪穴住居址	-	-	-	-	-	77.0	9世紀初頭	1点	
	鉄滓		40号竪穴住居址	-	-	-	-	-	91.0	8世紀後葉	1点	
	鉄滓		2号竪立柱建物址	-	-	-	-	-	5.0	9世紀後半	1点	
	鉄滓		3号竪立柱建物址	-	-	-	-	-	87.0	8世紀後葉	1点	

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	鉄滓	天神前遺跡 第7地点	1号溝状遺構	-	-	-	-	-	220.0	-	4点	明石新他1992『天神前遺跡-第7地点-』平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集 平塚市教育委員会
	鉄滓		2号溝状遺構	-	-	-	-	-	100.0	-	6点	
	鉄滓		5号溝状遺構	-	-	-	-	-	6.0	9世紀前後	3点	
	鉄滓		SK01	-	-	-	-	-	2540.0	9世紀後半	128点	
	鉄滓		遺構外	-	-	-	-	-	2064.0	-	50点	
	鉄滓	天神前遺跡 第8地点	29号竪穴住居址	-	-	-	-	-	1点225.8g	9世紀中葉	取瓶形鉄滓 破文のみ	上原正人1996『天神前遺跡-第8地点-』平塚市埋蔵文化財調査報告書第13集 平塚市教育委員会
145	鉄滓	天神前遺跡 第16地点	SI01	覆土	完形	3.7	2.5	2.6	26.6	10世紀代		下面に砂粒付着
146	鉄滓		SI02	覆土	完形	6.5	5.5	3.0	64.3	9世紀末～ 10世紀初頭		
147	鉄滓		SI07	覆土	完形	2.65	2.0	1.9	12.4	平安時代		
148	鉄滓		SD04	覆土	完形	7.80	6.8	2.5	164.4			部分的に錆により 砂分付着
149	鉄滓		SD010	覆土	完形	6.70	5.2	4.5	162.7			
150	鉄滓		SK58	覆土	完形	9.3	7.0	3.9	196.7	平安時代		
151	鉄滓		SE01	覆土	完形	6.3	6.2	2.8	141.3			錆により赤化した 部分あり
152	鉄滓		SD09覆土	完形		5.2	4.15	1.8	30.8			
153	鉄滓		遺構外	A区中央 II層	完形	4.6	2.5	1.9	21.0			
154	鉄滓		遺構外	SK02覆土	完形	10.0	8.0	3.7	377.0			表面一部錆により 赤化
155	鉄滓		遺構外	SD15覆土	完形	7.2	5.5	5.6	299.8			砂粒表面に付着
156	鉄滓		遺構外	SD15覆土	完形	6.5	4.6	3.4	119.9			砂粒表面に付着
157	鉄滓		遺構外	A区中央 II層	完形	7.0	5.7	2.4	119.9			
158	鉄滓		遺構外	B区一括	完形	6.7	5.5	2.3	87.5			
159	鉄滓		遺構外	B区一括	完形	9.9	9.8	3.6	389.0			
160	鉄滓		遺構外	B区一括	完形	(2.0)	(1.9)	1.1	1.9			
161	鉄滓		遺構外	B区一括	完形	(4.9)	(3.7)	(2.5)	24.3			粘土(地成)塊の 表面に鉄滓(鉄滓) が付着しており、 羽口または がけ片と考えられる
162	鉄滓	諏訪前A遺跡 第4区	10号井戸址			6.3	5.2	2.9	79.1	7世紀末～ 8世紀前半		小島弘義他1984『因之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
	鉄滓	諏訪前B遺跡	SD04	-	-	-	-	-		鉄滓1点 破文のみ		小島弘義他1982『諏訪前B遺跡』『諏訪前B・六ノ城』平塚市遺跡調査会 諏訪前B・六ノ城遺跡発掘調査団
163	鉄滓		SE01			6.8	4.2	1.5	95.0			
164	鉄滓		SD02	覆土		5.3	4.8	3.0	50.0			
165	鉄滓		SD02	覆土		7.0	4.3	3.5	92.0			

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
166	鉄滓	諏訪前B遺跡	SD03	東壁		4.8	3.9	1.6	60.0			小島弘義他1982『諏訪前B遺跡』『諏訪前B・六ノ城』平塚市遺跡調査会 諏訪前B・六ノ城遺跡発掘調査団
167	鉄滓		SD03	覆土		5.2	4.1	2.7	75.0			
168	鉄滓	山王A遺跡	2号竪穴住居址	板状	板状	3.0	4.0	0.3	14.4	10世紀前半	用途不明	上原正人他1993『山王A遺跡-第2・3地点-』平塚市埋蔵文化財報告書第10集 平塚市教育委員会
169	鉄滓		4号竪穴住居址	覆土	板状	3.0	1.0	0.3	2.4	9世紀後半	刀子の基部片か	
170	鉄滓	山王A遺跡	SI01	覆土上層		9.4	8.4	3.7	250.0	9世紀前半		横山太郎他2012『平塚市山王A遺跡第9地点発掘調査報告書』有限会社 吉妻考古学研究所
171	鉄滓	山王A・B遺跡 隣接地	SD02	覆土		9.0	8.3	3.3	283.0	9世紀後半		若林勝司1992『山王A・B遺跡隣接地』『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』5 平成2年度発掘調査 平塚市教育委員会
172	鉄滓		SI01	覆土		6.0	5.1	2.1	57.0			
173	鉄滓	山王B遺跡 第9地点	SI01	覆土		6.1	4.2	2.0	56.2			菅沼圭介他2001『山王B遺跡第9地点』『遠藤遺跡他発掘調査報告書』平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
174	鉄滓		SI01	覆土		5.5	4.1	2.5	59.2			
175	鉄滓		SK02	覆土		5.3	3.4	1.2	42.2			
176	鉄滓	稲荷前B遺跡 第5地点	7号溝状遺構	覆土		4.7	5.4	1.4	57.0			大野悟他2005『稲荷前B遺跡第5地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ40 平塚市遺跡調査会・平塚市教育委員会
177	鉄滓		9号溝状遺構	覆土		3.3	5.2	2.4	70.0			
178	鉄滓		ピット92	覆土		7.7	9.1	3.5	323.0			
179	鉄滓	橋之内遺跡 第2地点	80号溝状遺構	覆土		2.1	2.0	-	3.4			上原正人他1993『新町遺跡他発掘調査報告書』三共株式会社
180	鉄滓		122号溝状遺構	覆土		2.3	2.4	-	8.0			
	鉄滓	神明久保遺跡 第3地点	SD32	覆土		-	-	-	-		欄文のみ	菅沼圭介他2010『橋之内遺跡発掘調査報告書 第5地点A地区』第一三共株式会社平塚工場建設に伴う発掘調査IV 平塚市遺跡調査会
	鉄滓		7号竪穴	-	-	-	-	-	18.0		2点	
	鉄滓		9号竪穴	-	-	-	-	-	58.0		1点	
	鉄滓		14号竪穴	-	-	-	-	-	83.0		6点	
	鉄滓		17号竪穴	-	-	-	-	-	7.0		2点	
	鉄滓		19号竪穴	-	-	-	-	-	1467.0		37点	
	鉄滓		20号竪穴	-	-	-	-	-	1791.0		91点	
	鉄滓		21号竪穴	-	-	-	-	-	212.0		1点	
	鉄滓		22号竪穴	-	-	-	-	-	1571.0		99点	
	鉄滓		23号竪穴	-	-	-	-	-	97.0		9点	
	鉄滓		24号竪穴	-	-	-	-	-	205.0		8点	
	鉄滓		25号竪穴	-	-	-	-	-	247.0		14点	
	鉄滓		26号竪穴	-	-	-	-	-	266.0		12点	
	鉄滓		27号竪穴	-	-	-	-	-	1296.0		20点 桶状鉄滓1個	
	鉄滓		29号竪穴	-	-	-	-	-	225.0		14点	
	鉄滓		30号竪穴	-	-	-	-	-	1289.0		52点	
	鉄滓		32号竪穴	-	-	-	-	-	61.4		4点	
	鉄滓		33号竪穴	-	-	-	-	-	5.5		1点	
	鉄滓		35号竪穴	-	-	-	-	-	66.0		11点	

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚さ	重量			
	鉄滓	神明久保遺跡 第3地点	37号壺穴	-	-	-	-	-	430.0		3点碗状鉄滓1個	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団
	鉄滓		39号壺穴	-	-	-	-	-	16.0		1点	
	鉄滓		40号壺穴	-	-	-	-	-	4.6		1点	
	鉄滓		45号壺穴	-	-	-	-	-	49.0		1点	
	鉄滓		47号壺穴	-	-	-	-	-	20.0		1点	
	鉄滓		52号壺穴	-	-	-	-	-	36.0		1点	
	鉄滓		54号壺穴	-	-	-	-	-	4.0		1点	
	鉄滓		56号壺穴	-	-	-	-	-	2292.0		88点碗状鉄滓2個	
	鉄滓		57号壺穴	-	-	-	-	-	47.0		1点	
	鉄滓		58号壺穴	-	-	-	-	-	23.0		1点	
	鉄滓		59号壺穴	-	-	-	-	-	2976.0		77点碗状鉄滓1個	
	鉄滓		60号壺穴	-	-	-	-	-	88.0		7点碗状鉄滓1個	
	鉄滓		61号壺穴	-	-	-	-	-	262.0		11点	
	鉄滓		62号壺穴	-	-	-	-	-	12111.0		32点碗状鉄滓2個	
	鉄滓		63号壺穴	-	-	-	-	-	1407.0		73点	
	鉄滓		65号壺穴	-	-	-	-	-	4.0		1点	
	鉄滓		67号壺穴	-	-	-	-	-	48.0		3点	
	鉄滓		68号壺穴	-	-	-	-	-	9.4		1点	
	鉄滓		69号壺穴	-	-	-	-	-	2123.0		76点	
	鉄滓		71号壺穴	-	-	-	-	-	82.0		11点	
	鉄滓		72号壺穴	-	-	-	-	-	245.5		12点	
	鉄滓		73号壺穴	-	-	-	-	-	83.0		2点	
	鉄滓		74号壺穴	-	-	-	-	-	124.0		7点	
	鉄滓		75号壺穴	-	-	-	-	-	43.0		5点	
	鉄滓		76号壺穴	-	-	-	-	-	92.0		10点	
	鉄滓		77号壺穴	-	-	-	-	-	90.0		16点	
	鉄滓		78号壺穴	-	-	-	-	-	85.0		7点	
	鉄滓		79号壺穴	-	-	-	-	-	8.0		2点	
	鉄滓		84号壺穴	-	-	-	-	-	283.0		4点碗状鉄滓1個	
	鉄滓		86号壺穴	-	-	-	-	-	818.0		9点碗状鉄滓3個	
	鉄滓		87号壺穴	-	-	-	-	-	74.0		2点	
	鉄滓		90号壺穴	-	-	-	-	-	106.0		2点	
	鉄滓		95号壺穴	-	-	-	-	-	66.0		1点	
	鉄滓		97号壺穴	-	-	-	-	-	44.0		4点	
	鉄滓		25号土坑	-	-	-	-	-	34.5		4点	
	鉄滓		30号土坑	-	-	-	-	-	79.0		9点	
	鉄滓		35号土坑	-	-	-	-	-	16.0		4点	
	鉄滓		36号土坑	-	-	-	-	-	13.0		1点	
	鉄滓		40号土坑	-	-	-	-	-	8.0		1点	
	鉄滓		50号土坑	-	-	-	-	-	245.0		10点	
	鉄滓		52号土坑	-	-	-	-	-	30.5		4点	
	鉄滓		54号土坑	-	-	-	-	-	6.0		2点	
	鉄滓		56号土坑	-	-	-	-	-	17.0		2点	
	鉄滓		58号土坑	-	-	-	-	-	111.0		7点	

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚さ	重量			
	鉄滓		62号土坑	-	-	-	-	-	21.5		2点	
	鉄滓		75号土坑	-	-	-	-	-	7.0		1点	
	鉄滓		76号土坑	-	-	-	-	-	22.0		1点	
	鉄滓		77号土坑	-	-	-	-	-	11.5		2点	
	鉄滓		78号土坑	-	-	-	-	-	8.0		1点	
	鉄滓		79号土坑	-	-	-	-	-	8.0		2点	
	鉄滓		89号土坑	-	-	-	-	-	9.5		1点	
	鉄滓		92号土坑	-	-	-	-	-	14.0		1点	
	鉄滓		94号土坑	-	-	-	-	-	143.5		6点	
	鉄滓		95号土坑	-	-	-	-	-	212.5		4点	
	鉄滓		96号土坑	-	-	-	-	-	127.0		5点	
	鉄滓		5号溝	-	-	-	-	-	80.4		9点輪状鉄滓2個	
	鉄滓		7号溝	-	-	-	-	-	22.5		1点	
	鉄滓		13号溝	-	-	-	-	-	2.5		1点	
	鉄滓		14号溝	-	-	-	-	-	45.5		1点	
	鉄滓		15号溝	-	-	-	-	-	402.5		2点	
	鉄滓		31号溝	-	-	-	-	-	61.5		2点	
	鉄滓		33号溝	-	-	-	-	-	44.0		2点	
	鉄滓		41号溝	-	-	-	-	-	237.5		2点	
	鉄滓		44号溝	-	-	-	-	-	28.0		1点	
	鉄滓	神明久保遺跡	67号溝	-	-	-	-	-	52.0		1点	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団
	鉄滓	第3地点	70号溝	-	-	-	-	-	11.5		1点	
	鉄滓		2号遺状遺構	-	-	-	-	-	62.0		1点	
	鉄滓		3号遺状遺構	-	-	-	-	-	207.0		1点	
	鉄滓		A-2グリッド	-	-	-	-	-	9.0		1点	
	鉄滓		B-6グリッド	-	-	-	-	-	8.0		1点	
	鉄滓		B-7グリッド	-	-	-	-	-	143.0		1点	
	鉄滓		C-3グリッド	-	-	-	-	-	413.0		9点	
	鉄滓		C-4グリッド	-	-	-	-	-	605.0		7点	
	鉄滓		C-5グリッド	-	-	-	-	-	2800.0		93点	
	鉄滓		C-6グリッド	-	-	-	-	-	5031.0		136点樹状鉄滓3個	
	鉄滓		C-7グリッド	-	-	-	-	-	2536.0		111点	
	鉄滓		C-8グリッド	-	-	-	-	-	100.0		2点	
	鉄滓		D-2グリッド	-	-	-	-	-	161.0		4点	
	鉄滓		D-4グリッド	-	-	-	-	-	247.0		5点	
	鉄滓		D-5グリッド	-	-	-	-	-	1310.0		33点	
	鉄滓		D-6グリッド	-	-	-	-	-	1104.0		23点	
	鉄滓		D-7グリッド	-	-	-	-	-	569.0		17点	
	鉄滓		E-4グリッド	-	-	-	-	-	249.0		6点	
	鉄滓		E-5グリッド	-	-	-	-	-	330.0		6点	
	鉄滓		E-6グリッド	-	-	-	-	-	75.0		6点	
	鉄滓		E-7グリッド	-	-	-	-	-	70.0		2点	
	鉄滓	神明久保遺跡	H1号竪穴建物	-	-	-	-	-	1189.5		39点	近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告第102冊 財団法人かながわ考古学財団
		第9地点										

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	鉄滓	神明久保遺跡 第9地点	H2号堅穴建物	-	-	-	-	-	625.9		40点 (うち銅滓1点)	近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告第102冊 財団法人かながわ考古学財団
	鉄滓		H3号堅穴建物	-	-	-	-	-	75.7		2点	
	鉄滓		H4・10号堅穴建物	-	-	-	-	-	567.7		22点	
	鉄滓		H6号堅穴建物	-	-	-	-	-	254.3		6点	
	鉄滓		H7号堅穴建物	-	-	-	-	-	125.2		4点	
	鉄滓		H8号堅穴建物	-	-	8.4	9.0	4.1	279.3		陶器鉄滓	
	鉄滓		H8号堅穴建物	-	-	-	-	-	418.7		23点	
	鉄滓		H9号堅穴建物	-	-	-	-	-	133.4		16点	
	鉄滓		H11号堅穴建物	-	-	-	-	-	283.0		1点	
	鉄滓		H12号堅穴建物	-	-	-	-	-	23.5		1点	
	鉄滓		H13号堅穴建物	-	-	-	-	-	714.1		23点	
	鉄滓		H14号堅穴建物	-	-	-	-	-	154.1		5点	
	鉄滓		H15号堅穴建物	-	-	-	-	-	19.8		1点	
	鉄滓		H2号溝状遺構	-	-	-	-	-	55.5		2点	
	鉄滓		H3号溝状遺構	-	-	-	-	-	60.6		1点	
	鉄滓		H4号溝状遺構	-	-	-	-	-	188.0		1点	
	鉄滓		H8号溝状遺構	-	-	-	-	-	115.0		1点	
	鉄滓		H9・10号溝状遺構	-	-	-	-	-	292.0		3点	
	鉄滓		H11号溝状遺構	-	-	-	-	-	24.7		1点	
	鉄滓		H12号溝状遺構	-	-	-	-	-	61.6		3点	
	鉄滓		H26号溝状遺構	-	-	-	-	-	133.2		5点	
	鉄滓		H33号土坑	-	-	-	-	-	12.8		2点	
	鉄滓		H44号土坑	-	-	-	-	-	26.4		1点	
	鉄滓		H102号pit	-	-	-	-	-	9.0		1点	
	鉄滓		遺構外	-	-	-	-	-	20154.5		541点	
181	鉄滓	真田・北金目遺跡	1区 遺構外	-	-	4.0	2.7	1.4	24.2			川端清倫他1999『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』1 平塚市真田・北金目遺跡調査会 住宅・都市整備公団
182	鉄滓		1区 遺構外	-	-	4.8	3.3	2.0	30.7			
183	鉄滓		1区 遺構外	-	-	2.0	1.4	1.4	6.0			
184	鉄滓		1区 遺構外	-	-	4.6	3.1	3.1	149.0			
	鉄滓	真田・北金目遺跡	32区 SK1001	-	-	-	-	-	168.6	古代	鉄滓25点	若林勝司他2008『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書』6 平塚市真田・北金目遺跡調査会
	鉄滓		32区 遺構外	-	-	-	-	-	139.0	古代	鉄滓1点	
	鉄滓		RE・1区 SK4004	-	-	-	-	-	48.6	古代	鉄滓1点	
	鉄滓		12B区 S11002	-	-	-	-	-	3.3	古代	鉄滓1点	

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	鉄滓	真田・北金目遺跡	12B区 SD1003	-	-	-	-	-	13.6	古代	鉄滓1点	若林勝司他2008『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書』6 平塚市真田・北金目遺跡調査会
	鉄滓		29B区 SI054	-	-	-	-	-	7.4	古代	鉄滓1点	
	鉄滓		29B区 SI054 P1	-	-	-	-	-	41.4	古代	鉄滓7点	
	鉄滓		29B区 SI057 P2	-	-	-	-	-	648.3	9世紀中葉～ 後葉以前の奈良・平安時代	鉄滓36点 工房か	
	鉄滓		29B区 SI057 SK2	-	-	-	-	-	1065.9	9世紀中葉～ 後葉以前の奈良・平安時代	鉄滓33点 工房か	
	鉄滓	真田・北金目遺跡	48B区 SI010	-	-	-	-	-	1366.3	9世紀後半～ 10世紀前半	鉄滓540点	若林勝司他2011『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 平塚市真田・北金目遺跡調査会
185	鉄滓	東中原G遺跡 第2地点	遺構外	-	-	6.2	4.0	2.0	92.4	-	-	明石新他1994『東中原G遺跡 第2地点』『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』7 平成4年度発掘調査 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
186	鉄滓	遠藤遺跡	SD02	-	-	4.0	2.7	1.4	14.0	-	-	菅沼圭介他2001『遠藤遺跡第4地点』『遠藤遺跡他発掘調査報告書』平塚市遺跡調査会・平塚市教育委員会
187	鉄滓		SD04	-	-	5.1	5.6	2.7	91.8	-	-	
188	鉄滓	遠藤遺跡	遺構外	-	-	4.5	5.5	3.7	108.4	-	-	平塚市教育委員会1998『新町遺跡第3地点A地区発掘調査概要』 新町遺跡第3地点A地区発掘調査団
	鉄滓	新町遺跡 第3地点A地区	-	-	-	-	-	-	-	-	備文のみ	平塚市教育委員会1998『新町遺跡第3地点A地区発掘調査概要』 新町遺跡第3地点A地区発掘調査団
	鍛造剥片	真田・北金目遺跡	48B区 SI010	-	-	-	-	-	19.8	9世紀後半～ 10世紀前半	-	若林勝司他2011『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 平塚市真田・北金目遺跡調査会
	粒状滓		48B区 SI010	-	-	-	-	-	24.3	9世紀後半～ 10世紀前半	-	

【素鉄・鉄塊】

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
189	素鉄	四之宮高林寺 第3地点	15号溝状遺構	-	-	8.5	6.7	0.6	-	-	板状製品が重なり、炭化した茅が付着	小島弘義1985『四之宮高林寺 II (第3地点)』平塚市埋蔵文化財調査報告書第2集 平塚市教育委員会
190	素鉄	四之宮高林寺 第4地区	遺構外	-	-	4.6	3.3	0.9	-	-	-	小島弘義1986『四之宮高林寺 III (第4・5地区)』平塚市埋蔵文化財シリーズ2 平塚市遺跡調査会・高林寺遺跡発掘調査団
191	素鉄		4号堅穴住居址	床面	完形	5.0	4.6	0.7	-	-	-	
192	素鉄	四之宮高林寺 第7地点	SK02	-	-	4.13	2.58	0.44	-	-	1点出土	小島弘義1988『四之宮高林寺遺跡 (第7地区)』『諏訪前B・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ6 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
	素鉄	四之宮高林寺 第8地点	2号炉	-	-	-	-	-	-	-	1点出土	
193	素鉄	四之宮高林寺 第8地点	SE01	-	-	3.1	3.11	0.69	-	-	11世紀後半～ 12世紀前半	小島弘義1988『四之宮高林寺遺跡 (第8地区)』『梶谷原・高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ16 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
194	素鉄	天神前遺跡 第3地区	SI03	覆土	-	3.8	1.5	0.5	-	-	8世紀前半～中	小島弘義1988『天神前遺跡 - 第3地点 -』『梶谷原・高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ16 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
195	素鉄	天神前遺跡 第3地区	1号不明遺構	覆土	-	6.22	2.75	2.4	-	-	-	
196	素鉄	天神前遺跡	7号堅穴住居址	覆土	完形	4.9	2.8	0.8	-	-	9世紀後半	1点 上原正人他1992『天神前遺跡 - 第6地点 -』『天神前・梶谷原遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
197	素鉄か	六ノ城遺跡 第2区	2号堅穴住居址	-	-	6.0	4.8	0.5	-	-	11世紀前半	残存不明 板状 小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
198	素鉄か	六ノ城遺跡	4号竪穴住居址			(5.2)	5.9	0.3		9世紀後半～10世紀初頭	跡先の可能性あり	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
199	素鉄か	第2区	8号土坑			10.1	2.1	0.6		8世紀	鎌の素鉄か	
200	素鉄か		8号土坑			9.2	3.2	0.6		8世紀	ほぼ完存。板状	
201	素鉄	六ノ城遺跡	S106	家壁		5.35	4.05	0.9		四之宮編年9期		小島弘義他1987『真土六の城遺跡 II』平塚市埋蔵文化財シリーズ3 平塚市教育委員会 大野小学校遺跡発掘調査団
202	素鉄	六ノ城遺跡第8地点	5号竪穴住居址	-	-	5.5	2.0	1.0				上原正人他1992『六ノ城遺跡第8地点』『天神前・桜畑遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会
203	素鉄	諏訪前入遺跡第3区	SD06	覆土上層		(4.9)	3.1	1.5			断面三角形	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
204	素鉄か	諏訪前入遺跡	P67	覆土	完形	3.5	2.2	0.5			現在は第4地区	小島弘義他1989『諏訪前A遺跡 第2地区』平塚市埋蔵文化財調査報告書第6集 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
	素鉄	諏訪前入遺跡第4地区	遺構外			(2.6)	2.6	0.5			現在は第6地区	小島弘義他1989『諏訪前A遺跡 第4地区』『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書2』平塚市教育委員会
205	素鉄か	諏訪前入遺跡第4区	SI10	覆土	ほぼ完存	5.6	2.6	0.5			板状を呈する	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
206	素鉄か		遺構外		ほぼ完存	(5.5)	4.0	0.5			板状を呈する	
207	素鉄か	諏訪前入遺跡第5区	遺構外			(1.8)	2.3	0.9			報告書は「板状製品」として報告	
208	素鉄	山王B遺跡第1地点	SI04	覆土	完形	3.05	2.62	0.28		四之宮編年11期		細野高伯1987『四之宮山王B遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ4 平塚市教育委員会 平塚市遺跡調査会
209	素鉄		SI06	覆土		4.32	5.79	0.85		四之宮編年10期		
210	素鉄	神明久保遺跡第1地区	遺構外			6.8	2.6	1.1	36.2		板状	明石新他1991『神明久保遺跡-第1地区-』平塚市埋蔵文化財シリーズ19 平塚市教育委員会
211	素鉄	五合屋敷跡第33区	遺構外			(5.7)	(3.3)	0.6			板状を呈する	小島弘義他1984『四之宮下郷』神田・大野遺跡発掘調査団
	銅か	山王B遺跡第1地点	SI04	覆土		0.315	0.118	0.65		四之宮編年11期		細野高伯1987『四之宮山王B遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ4 平塚市教育委員会 平塚市遺跡調査会
212	素材鉄塊	向原遺跡	39号竪穴住居址	確認面		5.0	3.8	2.5	74.5	9世紀後半～10世紀頃	鉄滓と一体化、銹、亀裂	中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
213	素材鉄塊			確認面		3.2	2.5	1.9	28.7		鉄滓と一体化、銹、亀裂	
214	素材鉄塊			確認面		4.1	2.3	1.8	37.4		鉄滓と一体化、銹、亀裂	
215	鉄塊			確認面		4.2	2.1	1.6	35.1		断面鐘鉢状、鉄滓(ガラス質)と一体化	
216	鉄塊			覆土		4.0	2.5	1.2	21.2		鉄滓付着	
217	鉄塊			覆土		1.5	0.8	1.1	3.7			
218	鉄塊			覆土		1.6	1.7	1.2	4.9			
219	鉄塊			覆土		1.6	1.1	0.8	3.5			
220	鉄塊			覆土		2.5	2.3	1.4	13.6			
221	鉄塊			覆土		3.6	1.6	1.4	17.4			
222	鉄塊			覆土		2.5	1.5	0.5	3.1			
223	鉄塊			覆土		3.4	3.0	1	12			
224	鉄塊			覆土		1.1	0.6	0.2	0.6			

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚 _{平均}	重量			
225	鉄塊	向原遺跡	39号竪穴住居址	覆土		2.5	1.2	0.5	2.7	9世紀後半～ 10世紀頃		中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 1 神奈川県教育委員会
226	鉄塊			覆土		1.8	1.5	0.8	9.3			
227	鉄塊			覆土		2.5	1.1	0.9	6.4			
228	鉄塊			覆土		1.6	1.0	0.9	1.3			
229	鉄塊			覆土		3.0	1.5	1.0	17.3			
230	鉄塊			覆土		2.2	1.6	0.7	9.5			
231	鉄塊			覆土		1.9	1.5	1.2	9.3			
232	鉄塊			覆土		2.6	2.0	1.7	17.7			
233	鉄塊			覆土		2.0	1.2	1.5	9.1			
234	鉄塊			覆土		1.2	0.9	0.7	2.3			
235	鉄塊			覆土		3.4	1.5	1.0	11.3			
236	鉄塊			覆土		2.3	2.1	0.7	7.8			
237	鉄塊			覆土		2.4	1.1	0.5	5.5			
238	鉄塊			覆土		1.8	1.2	0.9	6.3			
239	鉄塊			覆土		2.0	1.5	1.0	5.4		断面菱形	
240	鉄塊			覆土下層		3.5	2.5	1.0	14.4			
241	鉄塊			覆土下層		1.9	1.2	0.6	4.6			
242	鉄塊			P16上層		2.5	1.2	0.5	5.7			
243	鉄塊			P15内		3.2	1.8	0.6	11.4		板状に整形	
244	鉄塊			覆土下層		3.5	2.1	1.3	22.3			
245	鉄塊			P15内		1.8	1.8	0.9	3.5		亀裂	
246	鉄塊			19内		2.6	1.3	1.0	6.6		断面三角形	
247	鉄塊			覆土		4.5	1.8	0.8	13.3		肥大化	
248	鉄塊			覆土		2.0	1.4	0.5	5.8		亀裂	
249	鉄塊			P19内		2.2	1.5	0.8	4.3			
250	鉄塊			南東床面		2.1	1.7	1.1	7.9			
251	鉄塊			P20内		2.1	1.7	1.0	9			
252	鉄塊			覆土		1.5	1.0	0.5	1.1			
253	鉄塊			覆土		1.3	1.3	0.7	1.2			
254	鉄塊			覆土		2.5	1.2	0.7	5.4			
255	鉄塊			P16上面		1.5	1.2	0.8	3			
256	鉄塊			P17内		2.1	1.9	0.7	9.9		亀裂	
257	鉄塊			覆土		2.2	1.4	1.0	7.6		亀裂	
258	鉄塊			覆土		3.9	1.9	1.5	7.3			
259	鉄塊			覆土		3.0	1.7	1.3	7.3		一端鋭く尖る。 一端は扁平化	
	鉄塊			P20東床面		1.8	1.2	0.5	6.1		実測不可	
	鉄塊			確認面		3.5	2.8	1.1	-		実測不可	

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
260	鉄塊	向原遺跡	199号堅穴住居址			2.7	1.4	0.4	-			中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会
261	鉄塊					3.5	2.5	0.4~0.7	-			
262	鉄塊					1.8	1.4	0.9	-			
263	鉄塊					3.2	1.1	0.4~0.5	-			
264	鉄塊	神明久保遺跡 第9地点	H1号堅穴建物			2.4	1.0	0.8	7.5			近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告第102冊 財団法人かながわ考古学財団
	鉄塊		H1号堅穴建物			-	-	-	-		3点	
	鉄塊		H4・10号堅穴建物								5点	
	鉄塊		H9号堅穴建物								1点	
	鉄塊		H26号溝状遺構								1点	
265	鉄塊		H11号掘立柱建物 1ビット			4.7	3.1	1.3	33.2		破片 ひび割れが目立つ 鉄素材か	
266	鉄塊		遺構外			(4.6)	(2.6)	0.9	46.3		板状の素材鉄(鉄鉄)	
267	鉄塊		遺構外			3.2	1.5	0.6	4.5		赤色付着物あり	
	鉄塊		遺構外								5点	

【銅洋】

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
	銅洋	神明久保遺跡 第3地点	22号堅穴	-	-	-	-	-	3.0		1点	高杉博章1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡 - 第3地区 -』神明久保遺跡調査団
	銅洋		26号堅穴	-	-	-	-	-	3.5		1点	
	銅洋		59号堅穴	-	-	-	-	-	95.0		1点	
	銅洋		62号土坑	-	-	-	-	-	9.0		1点	
	銅洋		C-6グリッド	-	-	-	-	-	25.0		1点	
	銅洋		C-7グリッド	-	-	-	-	-	9.0		4点	
268	銅洋	神明久保遺跡 第7地点	1号堅穴住居址	-	-	2.0	2.8	0.8	15.4		気泡が目立つ粒状洋 重量感なし 銅の緑青を含む	菅沼圭介他2000『神明久保遺跡第7地点』『梶谷原A遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ34 平塚市教育委員会
269	銅洋	神明久保遺跡 第9地点	H2号堅穴建物	-	-	2.5	1.5	1.2	1.0		近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告書第102冊 財団法人かながわ考古学財団	部分的に緑青に覆われる 重量感なし
270	銅洋		遺構外	-	-	2.4	2.9	0.9	7.9			

【素銅・銅塊】

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
271	素銅	穴ノ城遺跡	S167	床面	完形	3.01	0.76	0.3		四之宮編年5期		小島弘義他1987『真土六の城遺跡 Ⅱ』平塚市埋蔵文化財シリーズ3 平塚市教育委員会 大野小学校遺跡発掘調査団
272	銅塊	神明久保遺跡 第9地点	H2号堅穴建物			1.8	0.9	0.9	3.0		粒状の塊？端部に切断痕あり	近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告第102冊 財団法人かながわ考古学財団

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
273	銅塊	神明久保遺跡 第9地点	H4・10号堅穴建物			2.5	2.2	1.2	0.19		粒状 片面は砂が付き 緑青色重量感あり	近野正幸他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告第102冊 財団法人かながわ考古学財団

【金床石】

No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	重量			
274	金床石	向原遺跡	火葬墓	火葬墓基	ほぼ完整	28.0	25.0	12.0	-	9世紀後半～10世紀頃		中田英他1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告1 神奈川県教育委員会

【鍛冶炉】

図版	遺跡名	出土遺構	規模	出土遺物	時期	概要	文献名
275	坪ノ内遺跡	鍛冶工房	東西約12m以上、南北5m以上の長屋状堅穴内に2列に並んだ径40cm前後の円形鍛冶炉約90基	鑄の羽口・鉄塊系遺物・鍛造剥片・鉄滓	8世紀末～9世紀初頭	砂州・砂丘地帯の東端に位置連房型の官官鍛冶工房	平塚市教育委員会1996『坪ノ内遺跡発掘調査概要』坪ノ内遺跡発掘調査団
276	坪ノ内遺跡 第5地点	S103 鍛冶炉1号	長軸0.52m、短軸0.27m、深さ0.22m楕円形の掘り込み	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・羽口・鉄製品・鉄滓・砥石・礫・瓦	8世紀第1四半期～2四半期	住居中央に鍛冶炉1基確認される	中嶋由紀子他2013『坪ノ内遺跡 - 第5地点 -』平塚市文化財シリーズ46 平塚市教育委員会
277		S103 鍛冶炉2号	長軸0.96m、短軸0.19m、深さ0.19m 東西に長い楕円形			焼土や炭化物を除去した下層から、長径0.21m、短径0.18m、深さ0.08m程の浅い凹み 凹みの底面に堆積している4層は直上の層が鉄滓により固まっている事からが底層と判断	
278	四之宮高林寺 第7地点	SK02	東西5.5m、南北方向へは調査区外へのびる為不確定 深さ30cm	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・羽口・素灰・銅滓他	-	遺構覆土中に黒色灰層を多数に検出したことから鍛冶工房に関連する遺構の可能性が高い 銅滓12点、665gも出土している	小島弘義1988『四之宮高林寺遺跡（第7地区）』『諏訪前B・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ6 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
279	真田・北金目遺跡	298区 S1057	長軸3.30m、短軸2.49m、深さ0.31m	土師器・羽口・銅製品（腰帯具）	9世紀中葉～後葉以前の奈良・平安時代	P2・SK2からは土器共に鉄滓・羽口が出土 鉄に関係する工房の可能性あり	若林勝司他2008『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書』6 平塚市真田・北金目遺跡調査会
280	天神前遺跡	SX01	南北3.0m、東西3.4m 平面形態は不整形	土師器・須恵器・羽口・鉄製品	9世紀後半	床面積9.2㎡を測る 主軸方向はN-83°である 東側の径60×70cm、深さ25cmの円形ピットを含む	明石新他1992『天神前遺跡 - 第7地点 -』平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会

近世民家の集成(11)

近世研究プロジェクトチーム

はじめに

前回は、2010年3月末までに報告された近世建物271軒分のデータをもとに柱穴の形状、柱間距離、梁間と桁行、面積について検討した。今回は、平面形態、間取り、建物の機能が想定されるについて検討し、集成をひとまず終了としたい。

平面形態

建物のほぼ全体が検出され、規模が判明している219軒について、平面形態により長方形を呈するもの（桁行が梁間の1.2倍以上）、正方形を呈するもの（桁行が梁間の1.0倍～1.1倍未満）、正方形に近い形のもの（桁行が梁間の1.1倍～1.2倍未満）、その他（1間×2間以上の張出しを有するもの）の4種類に分類した。

長方形を呈するものは165軒あり、全体の75%を占めている。柱間規模は1間×1～4間、1.5間×3間、2間×2～6間、2.5間×8間、3間×3～7間、4間×5間、4間×7間、5間×6間が認められ、内訳は2間×3間が49軒（30%）、2間×4間が29軒（18%）、1間×2間が16軒（10%）、2間×2間が12軒（7%）、2間×5間が8軒（5%）、3間×5間が7軒（4%）となっている。桁行の長さと同様の長さを見ると、桁行が梁間の2倍以下のものが125軒と75%強を占めており、3倍以上の建物は5軒（3%）しか確認されていない。建物の機能は、主屋（母屋）と報告されているものが59軒ある。機能の記載がない建物についても、面積が20㎡以上を測るものの多くは主屋（母屋）の可能性が考えられ、主屋（母屋）は、長方形の呈するものが主体を占めていたと思われる。主屋（母屋）以外の建物は、ナヤ（納屋）、副屋、付属建物、作業場小屋的な施設、倉庫、厩、蔵などと報告されている。これらの建物は、宮ヶ瀬遺跡群馬道跡（No.7）の2軒（K2号掘立柱建物址・資料No.203、K8号掘立柱建物址・資料No.206）を除くと20㎡以下の大きさのものが多く、主屋（母屋）と規模の変わらないものも認められる。長方形を呈する建物の機能は、規模だけではなく、周囲の建物の配置等を考慮して決定する必要がある。

正方形を呈するものは28軒あり、全体の13%を占める。柱間規模は0.5間×1間、1間×1～2間、2間×1～3間、3間×2～4間、4間×4間、5間×6間が認められ、内訳は2間×2間が10軒（36%）、3間×3間が4軒（14%）、1間×2間が3軒（11%）、3間×3.5間が2軒（7%）、3間×4間が2軒（7%）となっている。梁間と桁行の柱間規模が同じ建物が16軒（57%）あるが、残りは梁間と桁行の1間の寸法が異なるものの正方形を呈する建物である。建物の機能は、13軒に記載されており、主屋（母屋）、付属建物、厩（ウマヤ）、観音堂、堂舎、車庫などと報告されている。このうち、主屋（母屋）と報告されているのは池子遺跡群No.1-C地点の3軒（K-7号建物址・資料No.29、K-11号掘立柱建物址・資料No.33、K-12号掘立柱建物址・資料No.34）のみである。平面形態が正方形を呈する建物は、主屋（母屋）は少なく、厩を含む付属建物や寺社関連の建物の可能性が高い建物といえそうである。

正方形に近い形を呈するものは19軒あり、全体の9%を占める。柱間規模は1間×1～3間、2間×2～3間、3間×3間、4間×4.5間が認められ、内訳は2間×2間が7軒（37%）、2間×3間が6軒（32%）、

1間×1間が2軒(10%)となっている。梁間と桁行の柱間規模が同じでも正方形にならないものが半数以上を占めており、正方形を呈する建物の事例とあわせると梁間と桁行の1間の寸法が異なる建物が比較的多く存在していたことがわかる。建物の機能は、主屋(母屋)と報告されている例はなく、作業場・小屋的な施設、副屋、付属建物、厩と推定されている。

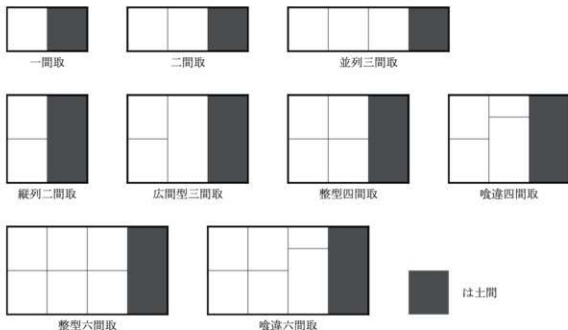
その他とした1間×2間以上の張出しを有するものは7軒(資料№21・78・96・187・198・247・252)あり、全体の3%を占める。張出しの位置は、東側1軒、西側2軒、北側2軒、南側1軒と、すべての方向に設けられている。張出しを除いた部分の平面形態は、長方形が5軒、正方形が1軒で、長方形を呈するものが主体を占める。規模は建物の機能は、主屋(母屋)と報告されている例が3例、納屋等の付属施設と報告されている例が1例ある。張出しを有する建物は、建物の規模(面積)が比較的大きく、主屋(母屋)と考えられるものが多いと思われる。

平面形態と構築時期について見ると、長方形を呈する建物は、近世を通じて認められるが、18世紀前半以前に位置づけられているものが75軒中44軒ある。正方形または正方形に近い形の建物は、11軒中8軒が18世紀前半以前、3軒が18世紀後半以降に位置づけられている。その他(1間×2間以上の張出しを有する建物)は、3軒中2軒が18世紀前半以前、1軒が18世紀代に位置づけられている。18世紀前半までに位置づけられている建物が多いのは、発見されている建物のほとんどが掘立柱建物であることと関係していると思われる。それ以降に数が減っているのは礎石建物が増えたためと考えられる。

間取り

①民家

近世民家の主屋(母屋)は通常、土間と床土部分で構成されている。「神奈川県近世民家調査野帳集」や「藤沢の民家」によれば、県内の民家は、床土部分の部屋の数や位置によって、部屋が1室の間取、横一列に2室配置されている二間取、上下に1室ずつ配置されている縦二間取、下手の部屋が1室の広間で上手



第1図 間取りの分類

の部屋が表と裏の2室に分かれる広間型三間取、下手の表裏2室と上手の表裏2室の間仕切りが一致し「田の字型」を呈している整型四間取、桁行方向の間仕切りが縦に喰い違った4室からなる喰違四間取、間仕切りが一致している6室からなる整型六間取、桁行方向の間仕切りが縦に喰い違った6室からなる喰違六間取などに分類されている(第1図)。

県下の近世民家の主屋(母屋)の間取りは、「神奈川県近世民家調査野帳集」によれば、広間型三間取が一般的な間取りであり、三浦郡、津久井郡において異なる間取りが認められるとされている。また、間取りの変遷について、整型四間取は18世紀初期頃から見られ19世紀前期頃に一般化したこと、喰違四間取は整型四間取と同時期かやや早く出現したことが記載されている。

今回集成した建物の中で間取りについての記述が認められたのは宮久保遺跡のみで、SB04(資料№70)は広間型三間取、SB06(資料№72)は整型四間取、SB08(資料№74)は喰違四間取で、構築時期はそれぞれ17世紀後半、18世紀後半、19世紀前半と報告されており、間取りが広間型三間取から整型四間取、喰違四間取へ変化したことが確認されている。平面図のみで間取りを復元するには限界があると思われるが、宮久保遺跡以外の遺跡の建物についても、第1図をもとに間取りを検討してみたい。なお、今回の検討にあたり、一部については報告と異なる間取りを想定したものがある。

一間取は、中村遺跡の1号掘立柱建物址・3号掘立柱建物址(資料№64・№65)、上村遺跡のK5号掘立柱建物址(資料№151)、北原(№9)遺跡のK7号掘立柱建物址・K8号掘立柱建物址(資料171・№172)、津久井城跡馬込地区のK5号掘立柱建物址(資料№251)、中依知遺跡群のB1号(礎石)建物址(資料№257)が該当すると思われる。柱間規模は1.5～2間×2～4間である(第2図)。

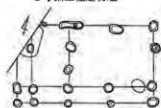
二間取は、熊ヶ谷遺跡の掘立柱建物址(資料№3)、黒川地区遺跡群宮添遺跡の1号建物址(資料№19)、宮久保遺跡のSB05・SB07・SB11(資料№71・№73・№77)、上村遺跡のK17号掘立柱建物址(資料№163)、宮ヶ瀬遺跡群北原(№10・11北)遺跡のK1号掘立柱建物址(資料№183)、はじめ沢下遺跡のK3号掘立柱建物址(資料№243)、津久井城跡馬込地区のK3号掘立柱建物址(資料№248)、原宿町遺跡の1次23号掘立柱建物址(資料№266)が該当すると思われる。柱間規模は2～3間×3～6間である。また、同様の規模を有する宮ヶ瀬遺跡群南(№2)遺跡のK1号掘立柱建物址(資料№186)、宮ヶ瀬遺跡群馬場(№7)遺跡のK7号掘立柱建物址(資料№205)も内柱が認められないものの二間取の可能性が考えられる。この他に、間仕切りが2箇所あり三間取の建物と思われる建物が愛名宮地遺跡(第7号掘立柱建物址、資料№97)で検出されている(第2～4図)。

広間型三間取は、宮久保遺跡のSB04(資料№70)、はじめ沢下遺跡のK2号掘立柱建物址(資料№242)が該当すると思われ、上粕屋・川上遺跡(№6)の9号掘立柱建物址(資料№111)、原宿町遺跡の1次20号掘立柱建物址(資料№264)もその可能性が考えられる。柱間規模は資料№70が2間×5間、資料№242が3間×5間、資料№264が2間×4間である。広間型三間取は、県内の一般的な間取りとされているものの、検出例はわずかであった(第4図)。

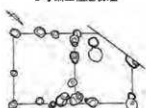
整型四間取は、白幡浦島丘遺跡の2号ピット群内(資料№18)、宮久保遺跡のSB06(資料№72)、真田・北金目遺跡群のSB6003(資料№232)が該当すると思われる。柱間規模は3間×7間、3間×5.5間、2間×3間である(第4・5図)。

喰違四間取は、宮久保遺跡のSB08(資料№74)が該当すると思われる。柱間規模は3間×6間で、北側に張出しを有する(第5図)。

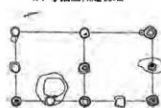
64. 中村遺跡
1号掘立柱建物址



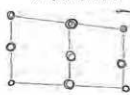
65. 中村遺跡
3号掘立柱建物址



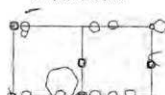
171. 宮ヶ瀬遺跡群北原(№9)遺跡
K7号掘立柱建物址



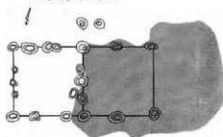
151. 上村遺跡
K5号掘立柱建物址



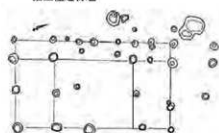
172. 宮ヶ瀬遺跡群北原(№9)遺跡
K8号掘立柱建物址



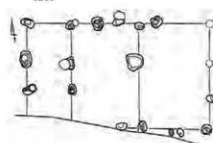
257. 中依知遺跡群
B1号(礎石)建物址



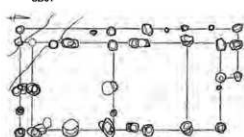
3. 熊ヶ谷遺跡
掘立柱建物址



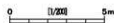
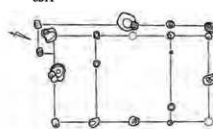
71. 宮久保遺跡
SB05



73. 宮久保遺跡
SB07



77. 宮久保遺跡
SB11

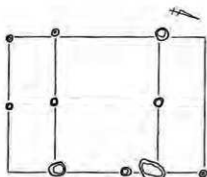


第2図 間取り(1)

整型六間取や喰違六間取の大型の建物は、今のところ、発掘調査では確認されていない。

分類に当てはまらない間取りに池子遺跡群№5地のK-19建物址(資料№56)と代官守屋左太夫陣屋跡の5号礎石建物址(資料№130)がある。ともに柱間規模2間×3間の建物であるが、内部に2本の柱を有しており、部屋が3部屋設けられていた可能性が考えられる(第5図)。

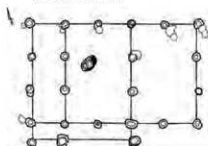
163. 上村遺跡
K17号独立柱建物址



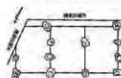
183. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.10・11北)遺跡
K1号独立柱建物址



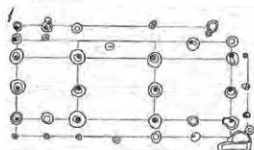
243. はじめ沢下遺跡
K3号独立柱建物址



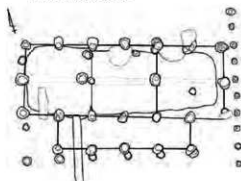
266. 原宿町遺跡
1次23号組立柱建物址



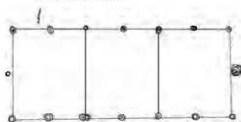
19. 黒川地区遺跡群宮添遺跡
1号建物址



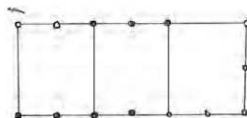
248. 津久井城跡馬込地区
K3号独立柱建物址a



186. 宮ヶ瀬遺跡群南(No.2)遺跡
K1号独立柱建物址

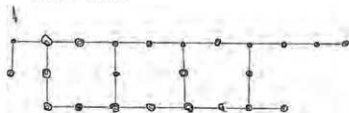


205. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K7号独立柱建物址

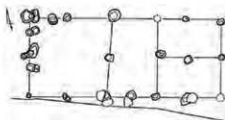


0 1/200 5m

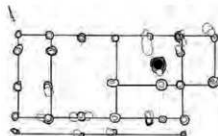
97. 愛宕宮地遺跡
第7号竪立柱建物址



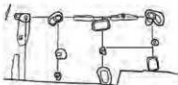
70. 宮久保遺跡
SB04



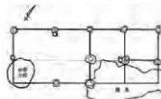
242. はじめ沢下遺跡
K2号竪立柱建物址



111. 上地屋・川上遺跡(Na.6)
9号竪立柱建物址



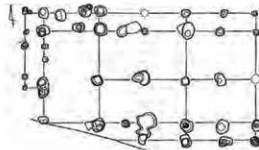
264. 原宿町遺跡
1次20号竪立柱建物址



18. 白幡浦島丘遺跡
2号ピット群内

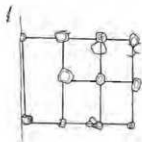


72. 宮久保遺跡
SB06

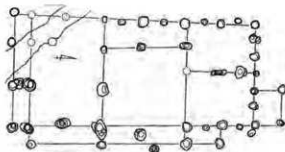


0 [1/200] 5m

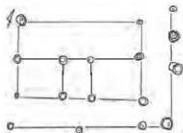
232. 真田・北金目遺跡群
SB6003



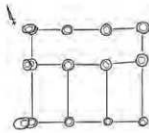
74. 宮久保遺跡
SB08



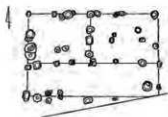
56. 池子遺跡群No.5 地点
K-19号建物址



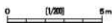
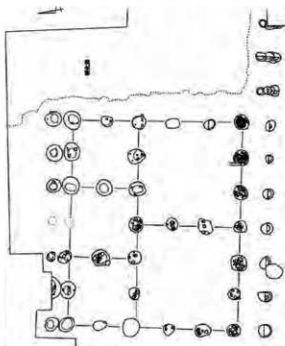
130. 代官守屋左太夫陣屋跡
5号掘立柱建物址



60. 御組長屋遺跡第II地点
1号掘立柱建物址



131. 代官守屋左太夫陣屋跡
1号礎石建物址



②民家以外の建物

弓矢・鉄砲方足輕の居住棟とされている御屋敷長屋遺跡第Ⅱ地点の1号掘立柱建物址(資料№60)は、縦二間取の可能性が考えられる。柱間規模は3間×4間である。代官陣屋または屋敷と考えられている代官守屋左太夫陣屋跡の1号礎石建物跡(資料№131)は、表に3間×3間の部屋が2部屋、裏に2間×2間の部屋が3部屋設けられている(第5図)。

建物の機能が想定される建物について

①総柱建物(第6・7図)

総柱の建物は14軒認められる。機能については、はじめ沢下遺跡のK1号掘立柱建物址a(資料№240)、真田・北金目遺跡群の41B区SB001(資料№253)の2軒が主屋(母屋)、長津田遺跡群宮之前南遺跡1号段切掘立柱建物址K2(資料№7)、黒川地区遺跡群宮添遺跡の2号建物址(資料№20)、宮久保遺跡SB20(資料№85)、真田・北金目遺跡群のSB6002(資料№231)の4軒が倉庫・納屋・付属建物、受地だいやま遺跡第25号掘立柱建物址(資料№4)、地藏山熊野神社遺跡K-20号建物址(資料№59)、宮ヶ瀬遺跡群北原(№9)遺跡の1号礎石建物址(資料№181)の3軒が倉庫施設または堂舎・神社・観音堂と想定されている。柱間規模は、2間×2~4間、2間×6間、3間×4~6間、4間×4間、5間×6間で、内訳は2間×2間が4軒、2間×3間、2間×4間、2間×6間が各2軒、他は1軒ずつである。真田・北金目遺跡群では、主屋(母屋)と想定されている41B区SB001と類似する建物があと2軒(SB0001・0002、資料№233・234)確認されており、これらも主屋(母屋)の可能性もある。また、池子遺跡群№1-C地点のK-13号建物址(資料№35)は、主屋(母屋)と想定されているはじめ沢下遺跡のK1号掘立柱建物址aよりも桁行が1間短い面積は広く、これも主屋(母屋)の可能性が考えられる。倉庫・納屋・付属建物と想定されている建物は、柱間規模が2間×2間または2間×3間で、同規模の原宿町遺跡の4次1号掘立柱建物址(資料№270)や面積が類似する愛名宮地遺跡第3号掘立柱建物址(資料№93)も同様の機能を有する建物であった可能性が考えられる。

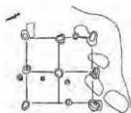
②堅穴状の掘り込みを有する建物(第8図)

堅穴状の掘り込みを有する建物は11軒認められる。機能については、半原向原K1号掘立柱建物址・K2号掘立柱建物址(資料№144・資料№145)、宮ヶ瀬遺跡群馬場(№7)遺跡のK27号掘立柱建物址・K28号掘立柱建物址・K37号掘立柱建物址(資料№217・資料№218・資料№224)は厩(ウマヤ)、はじめ沢下遺跡のK1号掘立柱建物址a・K1号掘立柱建物址b(資料№240・241)、津久井城跡馬込地区のK4号掘立柱建物址・K5号掘立柱建物址(資料№250・資料№251)の4軒は主屋(母屋)と想定されている。柱間規模は、厩(ウマヤ)と想定されている建物が2間×2~3間、3間×3.5間、主屋(母屋)と想定されている建物が2間×3間、3間×4間、3間×6間を測る。他の2例は、宮ヶ瀬遺跡群北原(№9)遺跡のK10号掘立柱建物址・K12号掘立柱建物址(資料№174・資料№176)で、建物の平面形態はともに正方形を呈している。掘り込みは資料№174が南西隅、資料№176が南側に設けられているが、機能は不明である。堅穴状の掘り込みは、長径3.2~4.5m、短径1.8~3.2mの規模を有し、平面形態は長方形を呈するものが主体を占め、底部が硬化しているものも認められる。堅穴状の掘り込みを有する建物は、単独のものは厩(ウマヤ)として機能していたものが多いと思われるが、主屋(母屋)に付属するものについては作業場など別の利用方法も考える必要がある。

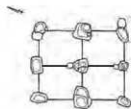
4. 受地だいやま遺跡
第25号掘立柱建物址



7. 長津田遺跡群宮之前南遺跡
1号段切 掘立柱建物K2



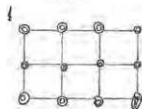
231. 真田・北金日遺跡群
SB6002



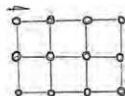
270. 原宿町遺跡
4次1号掘立柱建物址



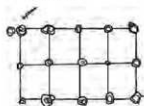
20. 黒川地区遺跡群宮前遺跡
2号建物址



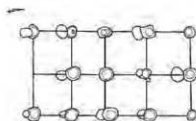
85. 宮久保遺跡
SB20



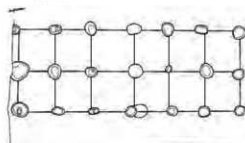
253. 真田・北金日遺跡群
41B区SB001



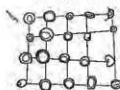
234. 真田・北金日遺跡群
SB0002



233. 真田・北金日遺跡群
SB0001



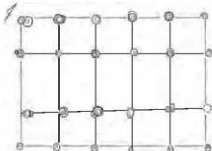
93. 愛名宮地遺跡
第3号掘立柱建物址



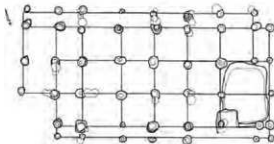
③ (土) 蔵 (第9図)

(土) 蔵として報告されているのは、根小屋根本遺跡の1号土蔵跡(資料No.118)、宮ヶ瀬遺跡群馬馬場 (No.7) 遺跡のK1号蔵址(資料No.229)、原宿町遺跡4次1号土蔵跡(資料No.271)の3例である。規模は酒造に
関連する蔵と考えられている資料No.118が7.7×16.5m、資料No.229と資料No.271は3.6×5.3m、3.7×5.6mを
測る。基礎は布基礎で、地盤沈下を防ぐために襖が入れられたり、突き固められたりしている。構築時期
は19世紀中～19世紀後半以降とされている。

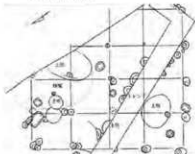
35. 池子遺跡群No.1-C地点
K-13号建物址



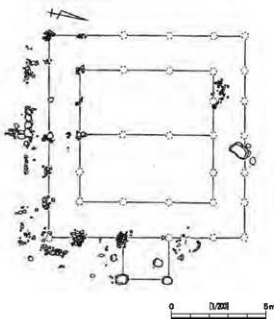
240. はじめ天下遺跡
K1号掘立柱建物址a



59. 地蔵山熊野神社遺跡
K-20号建物址

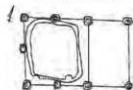


181. 宮ヶ瀬遺跡群北原 (No.9) 遺跡
1号礎石建物址

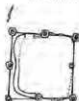


第7図 総柱建物 (2)

217. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K27号掘立柱建物址



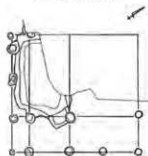
218. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K28号掘立柱建物址



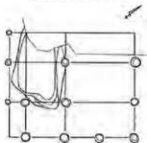
224. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K37号掘立柱建物址



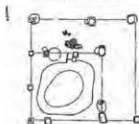
144. 半原向原遺跡
K1号掘立柱建物址



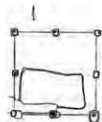
145. 半原向原遺跡
K2号掘立柱建物址



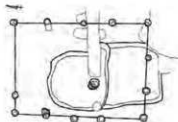
174. 宮ヶ瀬遺跡群馬北原(No.9)遺跡
K10号掘立柱建物址



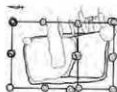
176. 宮ヶ瀬遺跡群馬北原(No.9)遺跡
K12号掘立柱建物址



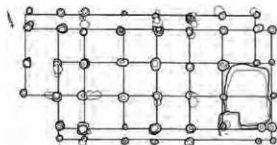
250. 津久井城跡周辺地区
K4号掘立柱建物址



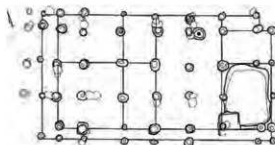
251. 津久井城跡周辺地区
K5号掘立柱建物址



240. はじめ沢下遺跡
K1号掘立柱建物址a



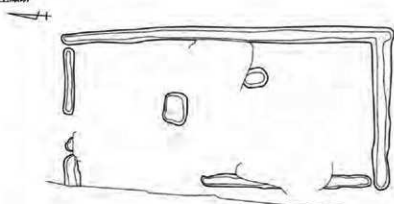
241. はじめ沢下遺跡
K1号掘立柱建物址b



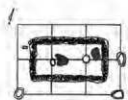
0 1/200 5m

第8図 竪穴状の掘り込みを有する建物

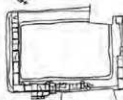
118. 根小屋根本遺跡
1号土庫跡



229. 宮ヶ瀬遺跡群馬場 (No.7) 遺跡
K1号蔵址



271. 原宿町遺跡
4次1号土蔵跡



0 1/100 5m

第9図 (土) 蔵

まとめ

県内の近世民家は、広間型三間取りが一般的な間取りであるとされているが、今回の集成では、数例しか確認することができず、一間取りや二間取りの建物のほうが多く認められた。これは、報告されている建物の多くが2〜3間×2〜6間のそれほど規模の大きくない掘立柱建物であり、礎石建物の調査事例が少ないことや、比較的規模の大きな建物についても内柱が存在しないものについては広間型三間取りや整型四間取りを想定しなかったことなどが影響していると思われる。しかし、文献資料や現存の建物調査からは知りえないような規模の小さい民家が相当数存在していたことも間違いなく、近世には様々な間取りの民家が存在していたと思われる。今回の屋敷地と建物の配置、地域による間取りについてはほとんどふれることができなかった。今後の検討課題としたい。

(木村吉行)

参考文献

- 神奈川県教育委員会 1974年 『神奈川県民家の民家一 足柄地方』
 神奈川県教育委員会 1989年 『神奈川県近世民家調査野帳集 (上巻) (下巻)』
 藤沢市教育委員会 1993年 『藤沢の民家』

研究紀要20

かながわの考古学

発行日 2015(平成27)年3月27日

発行 公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 神奈川県横浜市中区中村町3-191-1

TEL : 045-252-8689 FAX : 045-261-8162

<http://kaf@kaf.or.jp>

印刷 野崎印刷紙器株式会社